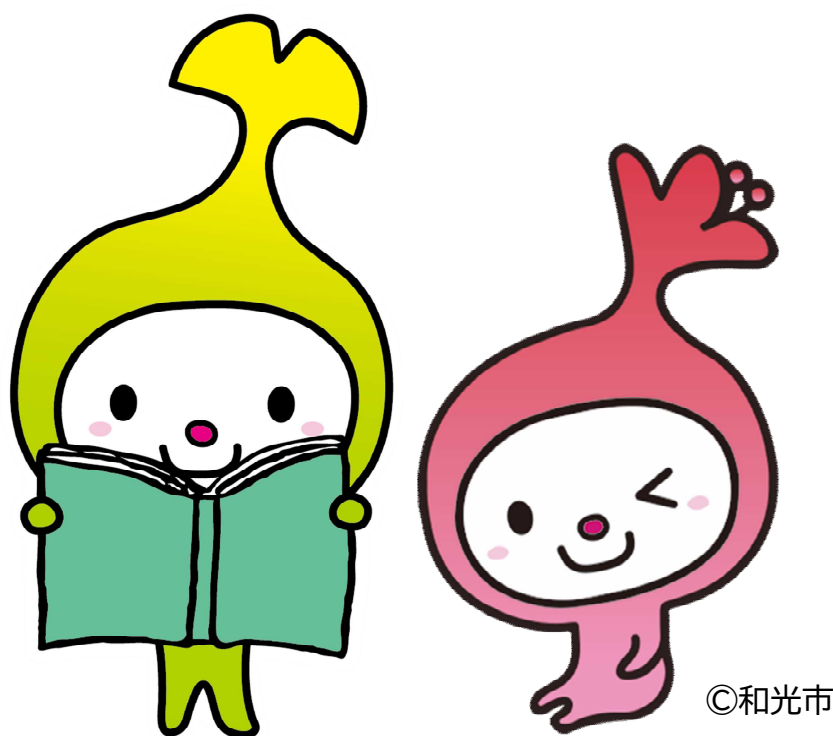


すべての子どもに読書の喜びを

第4次和光市子ども読書活動推進計画

令和5年度～令和9年度
(2023年度～2027年度)

(案)



令和5年3月

和光市教育委員会

も く じ

第1章 計画の概要	1
1 計画策定の背景と目的	1
2 計画の位置付けと期間等	5
3 基本方針	8
4 計画の実現に向けて	8
5 5年後の目指す姿及び数値目標	9
第2章 前計画の達成状況	10
第3章 アンケート調査の結果等	18
1 「市内小中高校生の読書活動についてのアンケート」の結果（概要）	18
2 計画策定に伴うアンケート調査等の結果（市内小中学校等）	24
第4章 アンケート調査、前計画の達成状況から読み取れる特徴と課題	27
第5章 計画の内容と推進のための施策	28
1 家庭・地域における読書の推進	29
2 保育施設・幼稚園における読書の推進	32
3 小学校・中学校における読書の推進	33
4 図書館における読書の推進	35
(1)乳幼児へのサービスの充実	
(2)小学生へのサービスの充実	
(3)中学生・高校生へのサービスの充実	
(4)職員のスキルアップと体制づくり	
資 料 編	
1 計画策定の経緯	1
2 和光市図書館協議会委員名簿	1
3 「読書活動についてのアンケート調査」結果概要（児童・生徒）	2
4 「第4次和光市子ども読書活動推進計画等の策定に伴うアンケート調査」結果概要	17
5 「未就学児保護者に対する子ども読書活動に関するアンケート調査」結果概要	26
6 アンケート調査票1（小・中学生用）	30
アンケート調査票2（高校生用）	32
アンケート調査票3（小・中学校用）	34
アンケート調査票4（高校・特別支援学校用）	38
アンケート調査票5（各公共施設用）	41
7 子どもの読書活動の推進に関する法律	43

第4次和光市子ども読書活動推進計画の策定にあたって

子どもの読書活動は、子どもの成長にとってかけがえのないものであり、すべての子どもが本を楽しみ、幸せな子ども時代を過ごすことは、その後の人生をより良く生きていくための大きな力となります。読書習慣を形成するためには、乳幼児期から絵本に触れたり、語りかけてもらいながら育つことや、発達段階に応じた適切な本をすすめてもらうことなど、周りにいる大人の働きかけが重要となってきます。また、子どもが読書に親しむことができるような環境整備を行っていくことが望まれます。こうしたことから、子どもの読書活動を推進するにあたっては家庭、地域、学校が一体となった取組が必要となります。

本市では平成20年3月に「和光市子ども読書活動推進計画」、平成25年3月に第2次計画、平成30年3月に第3次計画を策定し、子どもの読書活動の推進のため、取組を進めてきたところです。

第3次計画の最終年度である令和4年度は、これまでの成果と課題を踏まえ策定作業を進め、この度「すべての子どもに読書の喜びを～第4次和光市子ども読書活動推進計画～」がまとまりました。

今後も、本市におきましても、家庭、地域、学校が連携して、本好きな子どもたちを育成するための活動の充実を図り、豊かな心の醸成ができるよう、読書活動の推進に努めてまいりたいと考えております。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見ご提案をいただきました和光市図書館協議会委員の皆様をはじめ、アンケート調査等にご協力いただきました皆様に深く感謝を申し上げます。

令和5年3月

和光市教育委員会教育長 石川 毅

第1章 計画の概要

1 計画策定の背景と目的

子どもの読書活動は「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条）です。しかしながら近年、子どもを取り巻く社会環境、生活環境は急激に変化しています。スマートフォンの利用や動画を閲覧することが日常的に行われるようになり、子どもの「読書離れ」が指摘されています。

情報機器の普及により大量の情報を簡単に入手できるようになりましたが、本当に自分にとって必要な学びや適切な情報を手に入れるためには、読書によって培われる読解力や想像力を持つことがますます重要になってきているといえます。

子どもにとって本を読むことは楽しい経験です。その楽しさを子ども時代にできるだけ味わってほしいと考えます。子どもが自分の成長や興味に応じた読書を通じて楽しい経験を積み重ね、自分に向き合い思いを深めたり、考えを伝え合い他者を思いやる力が育まれるよう、また、思考力や表現力を養い、生きる力を身につけることができるよう引き続き子どもの読書活動を推進していくことが重要です。

国は「第3期教育振興基本計画」の中で「学校図書館の整備充実や公立図書館と学校の連携の推進、子供の読書活動の重要性などに関する普及啓発等を通じ、子供の読書活動を推進する。」としています。今後より一層、家庭、地域、学校において、すべての子どもたちが、発達段階に応じた読書の機会を得られるよう、環境の整備に努めていくことが重要です。

本市におきましては、平成20年3月に「和光市子ども読書活動推進計画」を策定し、市内各小中学校、保育園等への団体貸出、ボランティアによる読み聞かせや乳幼児向け事業等、子どもの読書活動の推進に取り組んできた結果、平成21年11月には「埼玉・教育ふれあい賞」を受賞、平成24年4月には文部科学省から「子ども読書活動優秀実践図書館」として表彰されました。その後、平成25年3月には「第2次和光市子ども読書活動推進計画」、平成30年3月に「第3次和光市子ども読書活動推進計画」を策定し、計画に基づき、関係機関が子どもの読書活動推進に関する取組を展開し、読書環境づくりに努めてきました。

このたび、第3次計画の計画期間が満了することに伴い、成果と課題を踏まえ「第4次和光市子ども読書活動推進計画」を策定いたしました。今後はこの第4次計画に基づき、家庭、地域、学校が連携、協力し、引き続き子どもの読書環境の整備をすすめ、子どもが自主的に読書に向かうことができるように配慮しながら、読書の楽しさ、大切さを伝え、子どもがより良く生きていく力を育てることを目的とし、読書活動の推進に努めてまいります。

	国の動向	県の動向
平成12年	「子ども読書年」	
平成13年	「子どもの読書活動の推進に関する法律」公布・施行 「子ども読書の日」の制定	
平成14年	「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」閣議決定 第二次「学校図書館図書整備等5か年計画」策定	「彩の国教育改革アクションプラン」策定
平成16年		「埼玉県子ども読書活動推進計画」策定
平成17年	「文字・活字文化振興法」公布・施行	
平成18年	「教育基本法」改正	
平成19年	第三次「学校図書館図書整備等5か年計画」策定	
平成20年	「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）閣議決定	
平成21年		「埼玉県教育振興基本計画～生きる力と絆の埼玉県教育プラン～」策定 「埼玉県子ども読書活動推進計画（第二次）」策定
平成22年	国民読書年	
平成24年	第四次「学校図書館図書整備等5か年計画」策定	
平成25年	「子どもの読書活動に推進に関する基本計画（第三次）閣議決定	
平成26年	「学校図書館法」一部改正	「第2期埼玉県教育振興基本計画」策定 「埼玉県子供読書活動推進計画（第三次）」策定
平成29年	第五次「学校図書館図書整備等5か年計画」策定 <u>学習指導要領改訂</u>	
平成30年	第3期教育振興基本計画 第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」閣議決定	
平成31年 （令和元） 年	<u>「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」</u> 策定	「第3期埼玉県教育振興基本計画」策定 「埼玉県子供読書活動推進計画（第四次）」策定
令和3年	<u>「学校における1人1台端末環境（GIGAスクール構想）」</u> の実施	
令和4年	第六次「新学校図書館図書整備等5か年計画」策定	

第4次計画策定にあたって考慮すべき情勢

・第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」

⇒「読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取り組みを推進」「友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取組を充実」「情報環境の変化が子供の読書環境に与える影響に関する実態把握・分析」

・第3期教育振興基本計画

⇒学校図書館の整備充実や公立図書館と学校の連携の推進、子供の読書活動の重要性などに関する普及啓発等を通じ、子供の読書活動を推進する。

・「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」

⇒視覚障害者への配慮、環境整備。

・「学校における1人1台端末環境（GIGAスクール構想）」

⇒令和2年3月からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により前倒しで実施され、小中学生1人1台タブレット端末やパソコンの支給、(高校生については令和5年度からの予定)リモート授業の実施。子どもたちの生活様式の変化。

・第六次「新学校図書館図書整備等5か年計画」策定

⇒学校図書館への支援

・学習指導要領改訂

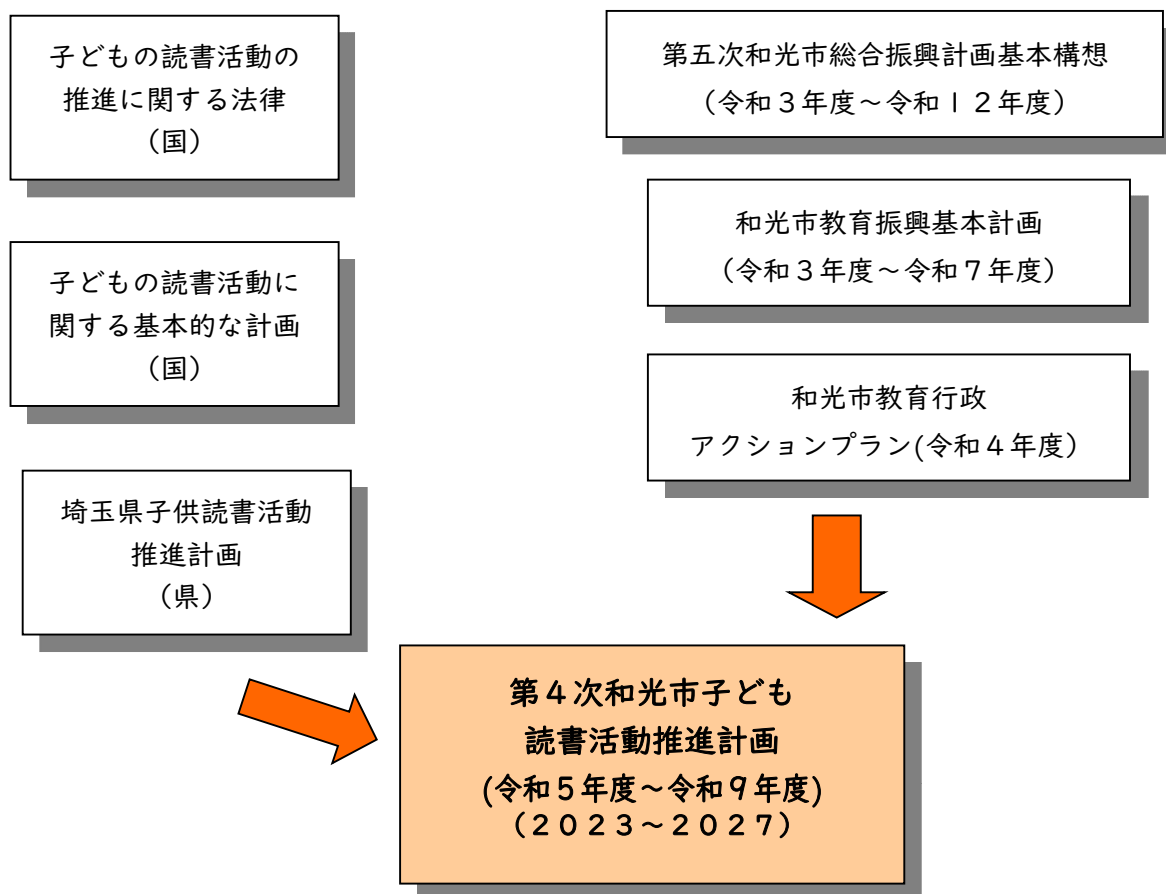
⇒学校図書館の利活用や読書活動の充実が規定された。学校への支援、図書館見学、POP作り、調べ学習。

【和光市図書館の子ども読書活動に関わる動き】	
昭和37年 8月	大和町中央公民館図書室開室
昭和45年	県立移動図書館巡回開始
昭和46年	親子読書会「親と子のための児童文学を読む会」
昭和46年 6月	和光市中央公民館図書室開室
昭和47年11月	「和光市に移動図書館をつくる会」発足
昭和48年12月	移動図書館「やまびこ号」巡回開始
昭和49年 9月	坂下公民館図書室開室
昭和58年 5月	南公民館図書室開室
昭和58年 8月	和光市図書館開館
昭和59年 5月	絵本とおはなしの会開始（和光絵本とお話の会による開催）
平成 5年 4月	市内小中学校学校図書館に図書館アドバイザー配置（旧名称図書整理員）
平成14年 4月	保育園に団体貸出を開始
平成16年 3月	学校図書館とオンライン化し、学校図書館の連携開始

平成20年 3月	和光市子ども読書活動推進計画策定
平成20年 4月	あかちゃんと楽しむ絵本とわらべうた開始
平成21年 3月	布絵本貸出開始
平成21年11月	埼玉・教育ふれあい賞受賞
平成24年 4月	文部科学大臣表彰受賞（子どもの読書活動優秀実践図書館）
平成25年 3月	和光市図書館サービス計画及び第2次和光市子ども読書活動推進計画策定
平成25年 9月	ブックスタート開始
平成26年 2月	キッズルーム設置及び館内レイアウトの変更
平成26年 4月	漫画コーナー設置
平成26年 7月	出張ブックスタート開始
平成27年10月	あかちゃんタイム開始
平成28年 4月	子ども読書通帳開始
平成28年10月	りんごの棚設置
平成28年11月	和光市図書館下新倉分館開館
平成29年 1月	わこガチャ開始（小・中学生）
平成29年 1月	本の福袋開始（分館）
平成29年 3月	ぬいぐるみのおとまり会開始（分館）
平成29年 8月	図書館クラブ～中高生対象事業（分館）
平成30年 1月	わこガチャ利用対象を拡大（3歳～6歳）
平成30年 3月	第3次和光市子ども読書活動推進計画策定
平成30年 8月	図書館でボードゲーム(分館)
令和 元年 4月	土曜えほんタイム開始（本館）
令和 元年 4月	調べ学習コーナー設置(分館)
令和 元年 7月	司書体験（分館）
令和 元年12月	下新倉小学校児童への長期休暇前貸出開始(分館)
令和 2年 7月	下新倉小学校児童への休み時間貸出開始（分館）
令和 2年10月	教科書コーナーの資料入れ替え(分館)
令和 2年12月	月テーマ本貸出開始（分館）
令和 3年 7月	夏休み司書体験開始(本館)
令和 5年 3月	第4次和光市子ども読書活動推進計画策定

2 計画の位置付けと期間等

(1) 計画の位置付け



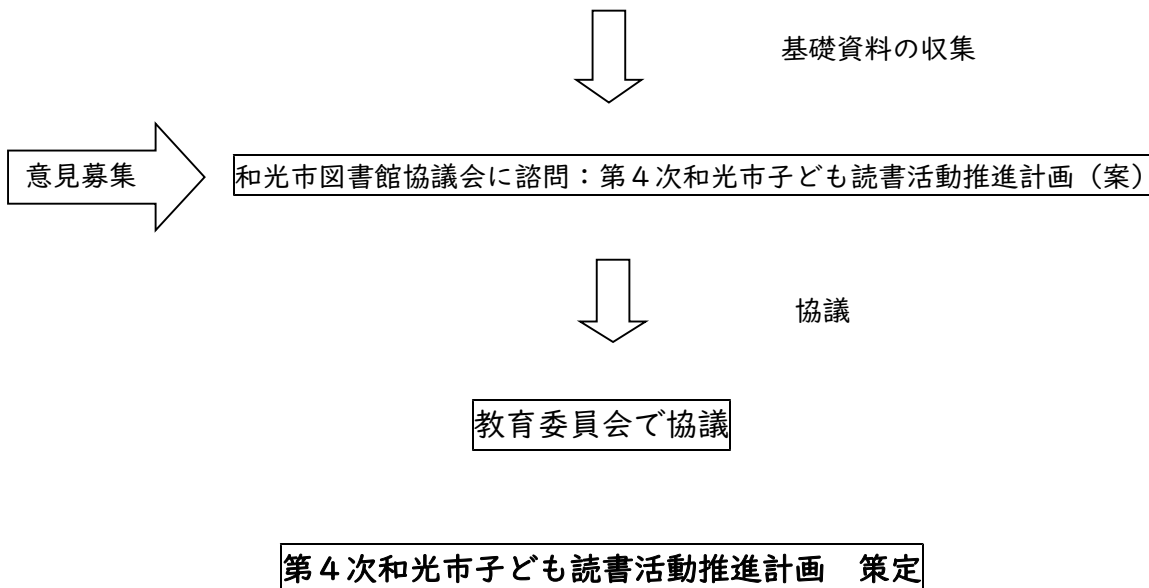
(2) 計画の期間

令和5年度から令和9年度までの5年間とします。なお、必要に応じて見直しを行います。

(3) 策定までの経緯

■ 第4次和光市子ども読書活動推進計画アンケート調査等の実施

- ▼ 市内小中高校生の読書アンケート（市内小学3・5年生・中学2年生、和光高校及び和光国際高校2年生）
- ▼ 第4次和光市子ども読書活動推進計画等の策定に伴うアンケート調査実施
（市内保育園・幼稚園・児童センター・児童館・子育て世代包括支援センター・学童クラブ、和光高校、和光国際高校、和光特別支援学校、和光南特別支援学校、市内小中学校）
- ▼ 未就学児保護者へのアンケート

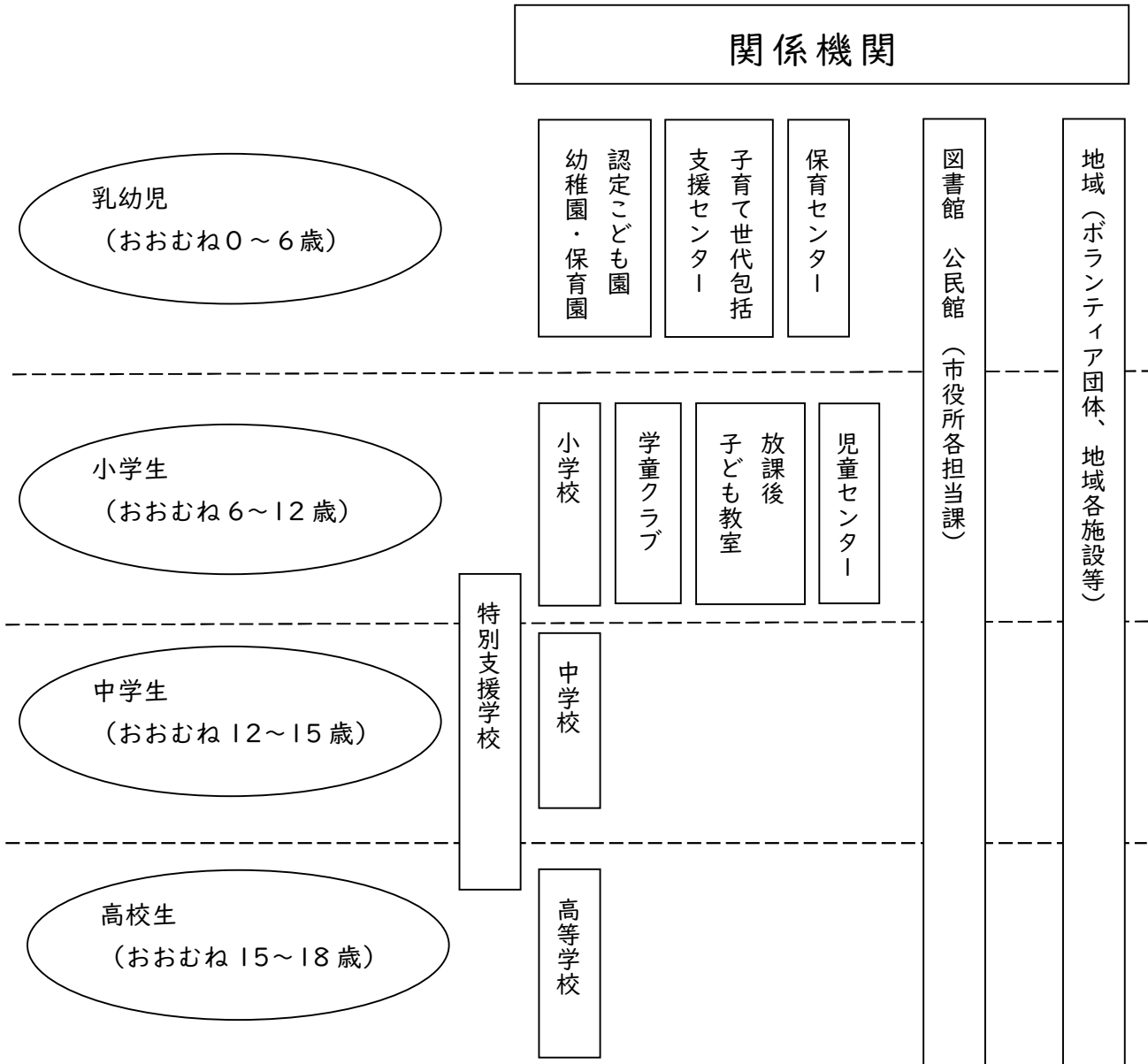


(4) 計画の対象範囲

おおむね18歳以下の子どもを対象とします。

(5) 関係機関

子供の発達段階に応じて、読書活動推進の働きかけを行うそれぞれの関係機関が連携しながら推進するものとします。



3 基本方針

この計画は、次の3本柱をもって読書活動を推進します。

すべての子どもに読書の喜びを

1 環境の整備・充実

子どもが、いつでもどこでも読書ができるよう、図書館及び学校図書館等の施設整備や図書館資料の充実を図ります。

2 連携・協働の推進

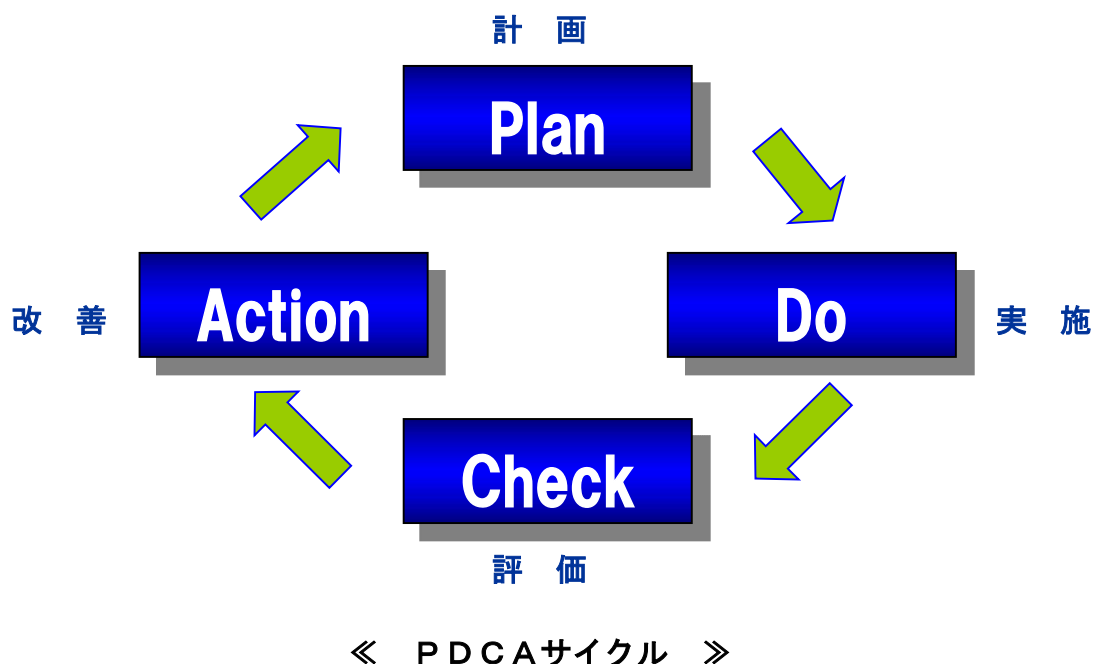
子どもの読書活動を推進するため、家庭、地域、学校、ボランティア等との積極的な連携・協働を推進します。

3 啓発・普及活動の充実

子どもが読書の楽しさや喜びに触れたり、親子がともに読書に親しむ機会が増えるよう、啓発・普及活動の充実を図ります。

4 計画の実現に向けて（PDCAサイクルによる計画の推進）

本計画は、「第3次和光市図書館サービス計画」の『施策4 すべての子どもに読書の喜びを届ける』の進捗状況を図書館による内部評価を行い、さらに外部評価として和光市図書館協議会において実施状況について評価を受けます。これらの評価結果を参考に、各種事業の見直しを行うなど、計画の実現に向けてP計画(plan)-D実施(do)-C評価(check)-A改善(action)サイクルによる取組を進め、計画の実現を図ります。



5 5年後の目指す姿及び数値目標


【5年後の目指す姿】

- ◎多くの子どもたちが本に親しみ、本を読む習慣を身につけている状態
- ◎多くの中高生が本に親しみ、本を読む習慣を身につけている状態

【数値目標】

■乳幼児・小学生対象事業等参加人数（人）




※「和光の教育令和4年度」集会行事参加人数より

	R3 (2021) (R2)		目標値 R7 (2025) (R6)
乳幼児・小学生対象事業等参加人数	1,321		1,550

■読書活動についてのアンケート調査



<読書習慣の状況>

問2 あなたは、本をよく読むほうですか。（まんが、雑誌をのぞく）
「よく読む」、「たまに読む」を合わせた割合（%）

	R4 (2022) (R4 調査)		目標値 R9 (2027) (R8 調査予定)
読書習慣がある児童の割合（小学生） 3年生、5年生の平均	79.4		80.0
読書習慣がある児童の割合（中学生） 2年生	72.3		80.0
読書習慣がある児童の割合（高校生） 2年生	40.0		60.0

<不読率※>

問6 今年の5月中に何冊ぐらいの本を読みましたか。
0冊と回答した割合（%）

	R4 (2022) (R4 調査)		目標値 R9 (2027) (R8 調査予定)
(小学生) 3年生、5年生の平均	6.0		2
(中学生) 2年生	9.0		2
(高校生) 2年生	44.4		26

※不読率：全国学校図書館協議会「第67回学校読書調査」(2022年)によると小学生6.4%、中学生18.6%、高校生51.1%となっており、平成30年度策定の第4次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」では不読率の目標値を令和4年度に小学生2%以下、中学生8%以下、高校生26%以下としている。

第2章 前計画の達成状況


第3次和光市子ども読書活動推進計画（平成30年度～令和4年度）の達成状況は、次のとおりです。

（令和2年3月からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響について）

・令和2年度には新型コロナウイルス感染症が拡大し、生活様式の変更を求められることになり、図書館についても臨時休館により利用できなくなる時期がありました。今まで自由に参加できた事業に人数制限を設けざるを得なくなりましたが、外出がままならない中、図書館の本を借りて家で過ごす方も増えました。

・「学校における1人1台端末環境」（GIGAスクール構想）が整備され、タブレット端末やパソコンが子どもにより身近なものとなり、電子書籍についても急速に広まってきています。

■乳幼児・小学生対象事業等参加人数（人）

	H29 (2017) (H28)		R3 (2021) (R2)
乳幼児・小学生対象事業等参加人数	3,608		1,321

■読書活動についてのアンケート調査結果

<読書習慣の状況>




問2 あなたは、本をよく読むほうですか。（まんが、雑誌をのぞく）

「よく読む」、「たまに読む」を合わせた割合（%）

	H29 (2017) (H29 調査)		R4 (2022) (R4 調査)
読書習慣がある児童の割合（小学生） 3年生、5年生の平均	75.5		79.4
読書習慣がある生徒の割合（中学生） 2年生	74.3		72.3
読書習慣がある生徒の割合（高校生） 2年生	52.3		40.0

問6 今年の5月中に何冊ぐらいの本を読みましたか。

0冊と回答した割合（%）

	H29 (2017) (H29 調査)		R4 (2022) (R4 調査)
(小学生) 3年生、5年生の平均	4.9		6.0
(中学生) 2年生	3.7		9.0
(高校生) 2年生	37.5		44.4

■施策別の達成状況

1 家庭・地域における読書の推進	<p>【家庭・地域への取組と推進】</p> <p>乳幼児のいる保護者に対し語りかけやスキンシップの大切さを伝え、家庭における読書活動の推進につながるよう、市内公共施設と連携して「出張ブックスタート」事業を更に拡大しました。令和4年度からは、令和3年12月に全面オープンした和光市広沢複合施設「わぴあ」内の総合児童センターでも実施しています。また、市内で読み聞かせを行っている地域ボランティアに向けて「ボランティア交流会」を開催、読み聞かせ講習会やブックリストの配布などを行い活動を支援しました。</p> <p>令和2年度コロナによる事業中止期間には、子育てに役立つ動画のYouTube配信、Twitterでの情報発信などSNSの活用を開始しました。また、令和4年2月から調べ学習に役立つパスファインダーをホームページで公開するなど情報発信に取り組みました。</p>
	<p>【図書館の読書環境における取組と推進】</p> <p>新規事業としては、令和元年4月から分館で「図書館でボードゲーム」、令和元年7月から分館で「司書体験」、令和3年7月から本館「夏休み司書体験」、令和2年3月から本館・分館両館で「みんなのひとハコ図書館」、令和4年6月から下新倉児童館での「ひまわりおはなし会」などを実施し、図書館や本を身近に感じてもらえるような、読書のきっかけ作り、環境作りに取り組みました。</p>
2 保育施設・幼稚園における読書の推進	<p>【保育園・幼稚園における取組と推進】</p> <p>図書コーナーの設置や読み聞かせ活動が、ほぼすべての園で実施されています。読書関係の取り組みについては、行事や遊びに取り入れる、お便りに掲載する、本とふれあえる環境作りを行う、などして取り組んでいる園が多かったです。わずかに読み聞かせや、読書関係の取り組みを行っていない園があるため、推進をしていくとともに、増加している小規模保育施設に対しても、今後継続的に働きかけを行っていく必要があります。</p>
	<p>【図書館の団体貸出利用】</p> <p>ほぼすべての保育園で継続して実施しています。また、新規設置園にも働きかけ、希望する園については貸出を実施しています。今後も新規設置園や小規模保育施設など未実施の園に対して、積極的な働きかけが必要です。</p>
	<p>【ボランティア、図書館による読み聞かせの連携】</p> <p>図書館を通じて、ボランティアが保育園3園で定期的に読み聞かせを行っています。その他にも園ごとに、保護者のボランティアによる読み聞かせが行われています。今後は小規模保育施設を含め未実施の園について、働きかけを行っていく必要があります。</p>
	<p>【図書館と保育士との連携】</p> <p>図書館訪問や団体向け備品の貸出などの連携を行っています。また保育施設への寄贈本を募り、保育施設に配布しました。</p>

<p style="text-align: center;">3</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">小学校・中学校における読書の推進</p>	<p>【学校における取組と推進】</p> <p>校内一斉読書「朝読書」がほぼすべての学校で実施されています。読み聞かせについては、保護者や地域のボランティアが行っている学校が多かったです。</p> <p>下新倉小学校においては隣接する分館と連携し、授業内での図書館利用や長期休暇前の図書の貸出しを行い、読書に親しむ機会や場の提供を行っています。</p> <hr/> <p>【図書委員の活動】</p> <p>児童が作成したおすすめ本の紹介文やPOPを図書館内に本と一緒に展示しています。</p> <hr/> <p>【保護者への啓発活動】</p> <p>図書館アドバイザーを通して、各学校で活動する保護者ボランティアに向けて、図書館で開催する「ボランティア交流会」への参加を呼び掛けました。</p> <hr/> <p>【図書館の団体貸出利用】</p> <p>小学校についてはすべての学校が利用継続しています。団体貸出本は主に朝読書や休み時間に活用されています。</p> <hr/> <p>【図書館と図書館アドバイザーとの連携】</p> <p>図書館アドバイザーに対して、年3回行われている定例研修会の他に、図書館で開催している職員研修会への参加を促しています。また、主にテーマ別貸出本の調整窓口として連携を行なっています。</p>
<p style="text-align: center;">4</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(一) 図書館における読書の推進 乳幼児へのサービスの充実</p>	<p>【良質な乳幼児向け図書等の収集、保存】</p> <p>絵本コーナー、児童コーナーの充実を図ると共に、配架場所を見直して、資料を探しやすい書架作りにも努めました。また、年齢別おすすめブックリスト(0・1才、2・3才用の2種類)、読み聞かせ手帳を児童コーナーに設置しています。また、乳幼児から小学生向けに年3回、子ども読書の日(4/23)おすすめの本、夏休みおすすめの本、冬休みおすすめの本のブックリストを作成しています。また「布の絵本」の提供についても、図書館ボランティアの協力を得て充実を図りました。</p> <hr/> <p>【乳幼児向け事業等の充実】</p> <p>図書館では、あかちゃんと保護者向け事業として、「ブックスタート」や、「あかちゃんタイム」「あかちゃんと楽しむ絵本とわらべうた」、「土曜日のおはなし会」などの事業を実施してきました。図書館ボランティアと職員が協力しながら、語りかけの大切さを伝えると共に、わらべうたの紹介や絵本の読み聞かせを行っています。</p> <p>平成30年1月より、小中学生向けで好評を得ていた「わこガチャ」の利用対象を3才からに拡大しました。本を読むきっかけをつくる一つ的手段として、読書通帳がいっぱいになった時にプライズディスペンサー(ガチャガチャ)で景品を受け取る仕組みを低年齢層にも導入しました。下新倉分館では、図書館に親しみをってもらうことを主な目的とした低年齢層向けの事業として「ぬいぐるみのおとまり会」、「クリスマス工作」を引き続き開催しています。</p>

【市内各公共施設への団体貸出等の充実】

保育園、子育て世代包括支援センターへの団体貸出（50冊～100冊）については、前期後期の2期制で取り組んできました。冊数や対象年齢、本の内容など、貸出資料に関する各施設の要望についても細かく対応しています。

【家庭・地域における取組への支援】

令和2年より、子育てに役立つ動画として、わらべうたや手遊びをYouTube配信しています。ブックスタートに参加した保護者に案内をして、子育てに取り入れてもらうよう働きかけをしています。また、平成29年から図書館内で配布している「よみきかせ手帳」を図書館内で配布し、ホームページからもダウンロードできるようにしています。

【保育施設・幼稚園における取組への支援】

ボランティアによる読み聞かせの保育園訪問は3園で行うことができました。

(2) 4 図書館における読書の推進
小学生へのサービスの充実

【小学生への取組】

引き続き、良質な児童書等の収集・保存・提供を行ってきました。増加しつつある外国人児童向けの資料（他言語の児童書、教室で使う日本語等）の収集も行ってきました。また分館の教科書にのっている本コーナーの入れ替えを行いました。

小学生向け事業としては、本館・分館で「ぶっくわーど」（旧「こどものための読書会」。講師は市内小学校教諭及び外部講師）を年4回、「子どもの科学」（外部講師）を年3回、本館では「凧作り講座」（外部講師）を年1回、分館では平成29年より「ひまわりおはなし会」（ボランティア団体と職員）を年11回開催しています。コロナ禍で中止になったものもありましたが、現在は感染対策を行いながら人数を制限して全て再開しています。「ぶっくわーど」は、令和4年から分館での実施回数を2回から1回に減らし、代わりに低学年向けに「英語おはなし会 Peek'n See!」（外部講師）を開始しました。分館では平成30年に「図書館でボードゲーム!」（職員とボランティア）を開催し、令和元年からは年4回の定例開催を目指していましたが、コロナ禍のため令和元年11月を最後に中止しています。コロナ禍がおさま次第、再開を予定しています。

夏休みには定例事業として「宿題教室」（読書感想文等の宿題をサポート）を引き続き開催しています。分館では令和元年7月から「自由研究のタネ」（自由研究の提案）の提供を開始し、その中で「司書体験」も実施してきました。本館でも令和3年7月から「夏休み司書体験」を実施しています。

例年多くの小学生が参加する本館での図書館まつりは、コロナ禍で令和2年度、令和3年度は中止となりましたが、代替事業として読書月間におすすめの本を紹介するブックツリーの展示を行うなど、対面にならない工夫をして小学生にも参加してもらいました。令和4年度は人数制限を設けて図書館まつりを開催しました。

同様に多くの小学生が参加する分館でのふれあいまつり（下新倉児童館・下新倉学童クラブとの共催）、サマーフェスタ（下新倉小学校校庭で行われる地域の祭り）も、コロナ禍で令和2年度、令和3年度は中止となりましたが、代替事業として令和2年度はブックビンゴを、令和3年度は百科事典を使ったなぞ解きイベントや中身を隠したおすすめ本を借りてもらう企画を行い、集合しない形で児童が図書資料の使い方を学んだり、新たな本に出会えるような機会を提供してきました。事業以外では、分館の児童コーナーの棚を令和3年3月に2台、令和4年6月に1台増設し、より多くの良書を提供できる環境を整えました。

【本を使った調べ学習資料の貸出】

各学校に制度が浸透し利用が増えているため、総合的な学習の時間等調べ学習に対応できるよう、適切な資料を複数揃え整備してきました。

令和元年4月には分館に「調べ学習コーナー」を新設し「小学生のための調べかた案内」（パスファインダー）と「情報ファイル」（小学生新聞の切り抜き等を集めたもの）の提供を開始しました。令和4年2月には「小学生のための調べかた案内」を児童や図書館アドバイザー*がいつでもダウンロードできるようホームページでの公開も開始しました。

*図書館アドバイザー：市内小中学校の学校図書館に勤務し、司書教諭とともに学校図書館の整備、読書支援、調べ学習の支援を行う職員

【市内施設めぐりによる図書館の紹介や学校訪問】

学校からの依頼により、読み聞かせ、ブックトーク、図書館見学に取り組んできましたが、コロナ禍のため読み聞かせとブックトークは令和元年3月より中止されてきました。下新倉小学校での読み聞かせは令和4年度の3学期から再開されることが決定し、他校についても、コロナ禍がおさまり次第の再開を予定しています。図書館見学は中止を余儀なくされた期間もありましたが、一般利用者のいない館内整理日に実施する、1回の受け入れ人数を減らす、作成した図書館の紹介や使い方を説明するスライドを学校で上映する、など工夫しながら再開しています。

各学級、学童クラブ、わこうっこクラブに対しては、前期後期の2期制で団体貸出を行ってきました。4年生以上については、量より質の向上を目指し段階的に貸出冊数を100冊から50冊に減らし、児童に手に取ってもらいやすい新しい本への入れ替えを積極的に行っています。

司書教諭、図書館アドバイザーとの連携を図り、テーマ本貸出にも取り組んできました。年3回開催している学校図書館アドバイザー研修では、通常業務に関する研修のほか情報交換や要望等を聞く機会を設けてきました。実際に出た要望を反映して、令和4年2月には図書館アドバイザーが図書館に直接資料の購入希望を出せる仕組みを構築しました。そのほか、図書館職員専門講座に図書館アドバイザーにも参加してもらい、平成30年度はブックトーク、令和元年度は学校図書館の学校教育への関わり方、令和2年度はビブリオバトル、令和3年度は調べ学習、令和4年度はPOPづくりをテーマに、スキルアップする機会を提供してきました。また令和3年度からは、外国語資料購入時に図書館アドバイザーやALTに購入希望のアンケートを取るなど、学校図書館との更なる連携を進めています。

平成28年度から開始した小中学生向け「読書通帳」、平成29年度から導入した「わこガチャ」は定着し、読書通帳は開始以来累計3,147枚配付され、わこガチャは累計1,513回利用されました（令和3年3月現在）。

【定期的な子どもの本のテーマ展示】

子ども読書の日をはじめ、季節にちなんだ内容で毎月実施してきました。常設コーナーとしては、学年別おすすめ本コーナーや、低学年向け読み物のコーナー、教科書に載っている本のコーナー(分館)を設置しています。また、児童が学校の授業で作成した本の紹介文の展示等も定期的に行っています。

	<p>【障害のある子どもの読書活動の推進】</p> <p>和光特別支援学校での読み聞かせは、コロナ禍のため令和元年度より中止していますが、コロナ禍がおさまり次第、再開を予定しています。小中学校特別支援学級への団体貸出、布絵本の貸出、見学の受入れ等は継続して実施してきました。</p> <p>りんごの棚（特別なニーズのある子どもたち向けの資料を集めた棚）の充実やＬＬブック（やさしく読みやすい本）の積極的な収集に取り組んでいます。</p> <p>分館においては、隣接する下新倉小学校と連携を行い、蔵書の調整や、利用案内、利用登録、授業時間中の調べ学習利用を引き続き行ってきました。また、令和元年１２月から長期休暇前の図書の貸出を、令和２年１０月から休み時間貸出（コロナ禍で一時中断、現在は再開）を、令和２年１２月から月テーマ本貸出（月ごとにテーマに沿った資料を各学年に貸し出す）を開始しました。隣接する下新倉児童館とは、幼児サークル参加者への読み聞かせや図書館ツアーで連携を図ってきましたが、コロナ禍により中断しています。コロナ禍がおさまり次第、再開を予定しています。一方で令和４年４月からは、小学生向け「ひまわりおはなし会」を図書館と児童館で交互開催とし、学童クラブの児童も参加するなど、新たな連携を開始しました。</p> <p>また第４次計画策定にあたり、３年生、５年生を対象にしたアンケート調査と各学校の読書活動に関するアンケート調査を行いました。</p>
<p>4 (3) 図書館における読書の推進 中学生・高校生へのサービスの充実</p>	<p>【中学生への取組】</p> <p>希望する中学校に対し団体貸出を実施し、各学級に５０冊から１００冊の本の貸出に取り組んできました。また、本を使った調べ学習の資料の貸出は、各学校からの依頼に応じ行ってきました。</p> <p>YAコーナー※には中高生の興味をひくようなテーマで本の展示をするなど、中学生の興味に沿った魅力的な図書・雑誌の収集・保存・提供により充実を図ってきました。</p> <hr/> <p>【本を使った調べ学習の資料の貸出】</p> <p>各学校からの依頼に応じ行ってきましたが、今後は利用のない学校への働きかけを行っていく必要があります。</p> <hr/> <p>【中学生の興味に沿った魅力的な図書・雑誌の収集・保存・提供】</p> <p>アニメ化等で話題になったライトノベルスガリクエストされた場合は、選書会議で検討の上、購入してきました。また、YA通信を発行し、YA世代への読書啓発を行ってきました。</p> <p>また職場体験実習の受け入れを実施し、ビブリオバトルも開催してきました。計画期間後半はコロナ禍の為に職場体験実習やビブリオバトルは中止としましたが、コロナ禍がおさまり次第、再開を計画しています。</p>

※YAコーナー（ヤングアダルトコーナー）：おおむね１３才から１８才向けの本を置いたコーナー

	<p>【中学生向け講座の充実】</p> <p>作家を招いて小説の書き方を学んだり、漫画雑誌の編集者を招いて仕事に関する話を聞いたり、中学生が興味を抱くような講座の事業を実施しました。年に1度、漫画の購入アンケートを行い、選書会議で検討の上、購入しました。令和3年度には市内の中学校で作成した絵本を図書館本館で展示し、多くの中学生が足を運んでくれました。</p> <p>また第4次計画策定にあたり、2年生を対象にしたアンケート調査と各学校の読書活動に関するアンケート調査を行いました。</p>
	<p>【高校生への取組】</p> <p>YAコーナーの充実として利用者のニーズを視野にいたした選書、資料の収集を行ってきました。</p>
	<p>【高校生向け講座の充実】</p> <p>作家を招いて小説の書き方を学んだり、漫画雑誌の編集者を招いて仕事に関する話を聞いたり、高校生が興味を抱くような講座の事業を実施しました。また和光高校の職場体験実習の受け入れを実施し、ビブリオバトルも開催してきました。計画期間後半はコロナ禍の為に職場体験実習やビブリオバトルは中止としましたが、コロナ禍がおさま次第、再開を計画しています。令和3年度には和光国際高校の生徒が作成したPOPを展示しました。</p> <p>また第4次計画策定にあたり、2年生を対象にしたアンケート調査と各学校の読書活動に関するアンケート調査を行いました。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(4) 4 図書館における読書の推進 職員のスキルアップと体制づくり</p>	<p>【職員のスキルアップ】</p> <p>県の主催する児童サービス研修に計画的に参加し、研修内容の情報共有を図りました。</p> <p>【子どもの読書活動を推進するための体制づくり】</p> <p>平成30年11～12月にかけて「子どもの読書ボランティア養成講座」を実施しました。市役所の職員にも参加してもらいブックスタート事業への理解を深めました。</p> <p>平成31年1月には「読み聞かせボランティア交流会」を実施し、情報共有や意見交換を実施しました。以降毎年度交流会を実施しています。</p>

第3章 アンケート調査の結果等

Ⅰ 「市内小中高校生の読書活動についてのアンケート」結果(概要)

(1) 対象

- ①小学校3年生、5年生（市内小学校9校）
- ②中学校2年生（市内中学校3校）
- ③高校2年生（市内県立高等学校2校）

(2) 目的

第3次和光市子ども読書活動推進計画の策定に必要な基礎データを収集するため、和光市内小・中学校児童及び生徒、市内高等学校の生徒にアンケート調査を行う。

(3) 実施期間

令和4年6月1日～15日（15日間）

(4) 対象者数及び回収数

対象者数：2,480人

回収数：2,301人

回収率：92.8%

	小学校3年生		小学校5年生		中学校2年生		高校2年生	
	児童数	回収数	児童数	回収数	生徒数	回収数	生徒数	回収数
白子小学校	85	80	84	80				
新倉小学校	81	68	114	108				
第三小学校	96	95	64	63				
第四小学校	72	69	67	67				
第五小学校	120	110	124	118				
広沢小学校	54	81	79	78				
北原小学校	62	60	56	54				
本町小学校	71	66	51	44				
下新倉小学校	101	101	90	77				
大和中学校					237	215		
第二中学校					152	142		
第三中学校					163	133		
和光高校							141	132
和光国際高校							316	260
計	742	730	729	689	552	490	457	392
回収率	98.4%		94.5%		88.8%		85.8%	

(5) 集計結果

以下、項目別の概要をまとめた。詳細は「資料編」を参照。

◆読書の好き嫌い (問1 あなたは本を読むことが好きですか)

全体で見ると、本を読むことが「好き」と答えた児童・生徒は46.4%で、「どちらかといえば好き」(35.1%)をあわせると、81.5%の児童・生徒が本を読むことが好きであることがわかる。

学年別に見ると、読書が好き(「好き」「どちらかといえば好き»)な児童・生徒の割合は、小学3年生が87.1%と最も高くなっており、他の学年も約8割となっている。

「嫌い」「どちらかといえば嫌い」と答えた児童・生徒の割合は、全体では17.6%であり、学年別で見ると高校2年生が最も高い数値(23.0%)となっている。

【5年前との比較】小3の「好き」は増えている。中2の「好き」は減っている。

◆読書をする頻度 (問2 あなたは、本をよく読むほうですか)

全体で見ると、本を「よく読む」児童・生徒は38.4%である。一方、「ほとんど読まない」、「読まない」と回答した児童・生徒は28.6%にのぼり、およそ4人に1人が読書が習慣になっていない状態を示して4いる。この数値は前回調査とほぼ同水準となっている。

学年別に見ると、読書が習慣になっていない(「ほとんど読まない」「読まない」と回答した児童・生徒の割合は、小学校3年生で12.6%、小学校5年生で25.1%、中学校2年生で27.4%、そして高校2年生で59.7%となっており、年齢が高くなるにつれ読書離れしている傾向が見受けられる。

【5年前との比較】小3、小5、中2の「よく読む」は増えている。高2は減っている。

◆読書をする理由 (問2-① 本を読むのは、どんな理由からですか)

本を読む理由はいずれの学年においても「たのしく、おもしろいから」が最多の回答となっている。

学年別に見ると、「知らないことが分かり、ためになるから」「考える力がつくから」は小学校3年生、5年生が多く回答し、「好きな作家やシリーズがあるから」は、小学校5年生、中学校2年生、高校2年生が多く回答している。

◆読んでいる本の種類 (問2-② どんな本を読んでいますか)

全体を見ると、最も多く読まれている分野は「小説や物語」となっている。学年別に見ると、小学校3年生は「小説や物語」と回答した人は他の年代に比べて低くなる(44.4%)ものの、その代わりに「図鑑」と回答した人が25.5%、「絵本」と回答した人が27.9%となっている。高校2年生は「小説や物語」を読む人がほとんどであり、他の分野に関しては全体的に低い傾向がうかがえる。

◆読書をしない理由 (問2-③ 本を「ほとんど読まない」「読まない」のはどんな理由からですか)

全体を見ると、本を読まない理由は「ゲームやテレビ、他の遊びのほうが楽しいから (45.0%)」が最も多く、次いで「読みたいと思う本がないから (35.1%)」が多くなっている。

学年別に見ると、「ゲームやテレビ、他の遊びのほうが楽しいから」と回答しているのは小学校3、5年生、中学校2年生までは「習い事や部活など他のことに忙しく読む時間が無いから」とする回答より多く選択されているが、高校2年生になると逆転し、「習い事や部活」を本を読まない理由に挙げている人が多くなっている。

◆本を読んでもらった経験の有無 (問3 あなたは小さいとき、本を読んでもらったことがありますか)

全体としては、54.4%が「よくあった」と回答しており、「たまにあった (27.8%)」と合わせると、82.2%が小さいときに本を読んでもらったと回答していることがわかる。前回調査時は「よくあった」「たまにあった」の割合が77.0%だったので、5.2%増加した。学年別に見ても、「よくあった」「たまにあった」の合計が全ての学年で80%を超えており、多くの児童・生徒が幼少時期に読み聞かせを経験していることが伺える。

【5年前との比較】「よくあった」が増えている。

◆本を読んでもらった人 (問3-① おもに誰に読んでもらいましたか)

全体を見ると、小さいときに本を読んでもらった人として挙げられているのは「父親や母親」が最も多く、8割以上となっている。次いで「幼稚園や保育園や学校の先生」が50.9%となっており、保育・教育の場での読み聞かせ活動は成長しても記憶・経験として残ることがうかがえる。一方で「図書館の読み聞かせ」と回答した人は8.3%であり、「その他」を除くと最も低い数値となっている。

学年別でもおおむね傾向は一致しているが、高校2年生は「父親や母親」、「家族の人 (おじいちゃん・おばあちゃん・兄や姉など)」と回答した人の割合が他の年代に比べて低く、「幼稚園や保育園や学校の先生」「図書館の読み聞かせ」と回答した人の割合が他の年代に比べて高い。このことから、高校2年生の幼児時代に比べて、現在の方が家庭内での読み聞かせが定着しつつあるのではないかと推察できる。

◆読みたい本の入手方法 (問4 あなたは読みたいと思う本をどのようにして手に入れていますか)

高校2年生は市内在住者とは限らないことを考慮し、高校2年生向けの設問のみ「地元（和光市以外）の図書館から借りる」という項目を追加している。

全体を見ると、本屋さん（書店）で購入すると回答した人の割合が最も高く、62.7%にのぼる。一方で和光市の図書館から借りると答えた人の割合は約15.4%となっている。

学年別に見ると、小学3年生、5年生は学校図書館を多く活用しており、小学3年生が44.5%、小学5年生が33.5%と高くなっている。「和光市の図書館から借りる」と回答した人は、小学3年生・5年生は20%を超えるものの、中学2年生は9.6%、高校2年生は2.2%と低い水準になっているが、高校2年生については、和光市以外の「地元の図書館から借りる」と答えた人が11.4%おり、公共図書館を全く利用していないというわけではない。

「その他」の回答に注目すると、小学3年生、5年生では本を入手する場として「学童クラブ」を挙げる児童が複数いた。また、前回の調査ではほとんど見られなかった回答として、全学年で「インターネットショッピングで本を買う」、「インターネットを使って電子書籍を購入してタブレットやスマートフォンで読む」といった回答が多数あった。そういった回答は年齢が上がるに従って増加し、中学2年生、高校2年生では無料の電子書籍を読むという回答も複数見られた。前回調査からのこの5年で電子書籍が急速に世の中に浸透し、読書を巡る環境がいかに多様化したかがアンケート結果から見て取れる。そして時代の流れに臆せず、子どもたちが工夫しながらさまざまな形で読書していることもわかった。

◆読む本の選び方 (問5 あなたが読む本は、どのようにして選んでいますか)

全体を見ると、本の選び方については前回同様に「自分でさがして」が約75%と圧倒的に多い。前回調査では、次に「友達にすすめられて」「流行っている本」と続いたが、今回の調査では「流行っている本」の割合が「友達にすすめられて」を上回った。インターネットやSNSの発達、児童・生徒の情報端末保有率の上昇等により、子どもたちが直接情報に触れ、流行を知ることができるようになったことが原因ではないかと推測される。

学年別に見ると、「図書館のおすすめ」「学校図書館のおすすめ」と答えた割合は、小学3年生では「友達にすすめられて」と拮抗しているが、学年が上がるとその比重は下がる傾向にある。一方で、「友達にすすめられて」や「流行っている本」と答える人の割合は学年が上がるに連れて高くなり、本が友人同士を媒介する一つのコミュニケーション要素となり得ることがわかる。

「その他」の回答に注目すると、小学3年生、5年生では好きな「ゲーム」や「マンガ」が、中学2年生、高校2年生では「SNSや動画配信サイト等のインターネットやテレビで紹介されたもの」や「映画の原作小説」などが、それぞれ読書のきっかけになっているケースが多いことがわかる。そのようなメディアが子どもたちの重要な情報源にはなっている一方で、本屋で直接本を手にとって選ぶという回答もまだまだ多く、本の選び方も多様化していることがわかる。

◆ 1か月に読んだ本の冊数 (問6 今年の5月中に何冊ぐらいの本を読みましたか)

全体を見ると、5月中の1か月間において8割以上の人が1冊以上の本を読んでいるということができる。

学年別に見ると、小学3年生は37.4%の人が10冊以上の本を読んでいると回答しており、小学5年生の30.5%とともに小学生では多くの児童が本をたくさん読んでいることが分かる。しかし中学2年生になってくると本を読む冊数はぐんと減っていき、10冊以上の本を読んでいると回答した中学2年生は7.8%にまで落ち込み、高校2年生になると実に2.3%までになる。学年があがるにつれて本を読む冊数が減っていき、高校2年生では「0冊」が44.4%となっている。

【5年前との比較】高校2年生の「0冊」が増えた。

◆ 市内の図書館・公民館図書室の利用頻度 (問7 あなたは、5月中に和光市図書館、下新倉分館、南公民館図書室、坂下公民館図書室、中央公民館図書室を何回利用しましたか)

全体を見ると、5月中の1か月間において7割近くの人、中学2年生、高校2年生になると実に8割以上の人が和光市内の図書館・図書室を利用していないことがわかる。一方で、全体の約3割近くの人、1回以上は利用しており、中でも4回以上利用している人は8.7%いることがわかる。

学年別に見ると、年代があがるにつれて図書館を利用しない傾向が見受けられ、中学2年生は81.4%、高校2年生になると89.3%が利用していないと回答している。中学生、高校生になると行動範囲が広がり、隣接する市(朝霞市)や都内の図書館(練馬区や板橋区)等、和光市以外の図書館を利用していることも一因と考えられる。

【5年前との比較】「利用していない」が増えた。

◆ 市内の図書館・公民館図書室の利用目的 (問7-① どんなときに利用しますか)

図書館を利用する理由として、「読みたい本を借りるため」と回答した人は小学生3年生、5年生と中学2年生では7割を超えているのに対し、高校2年生では36.1%と割合が下がっている。同様に「落ちていて本を読みたいとき」という回答も小学3年生では4割、小学5年生と中学2年生では3割ほどなのだが、高校2年生では8.3%とぐんと下がっている。「その他」での小学生の回答で一番多かったのが「ひまつぶし」次が「ママに連れられて」、中学2年生、高校2年生で一番多かった回答が「テスト勉強」だった。

◆市内の図書館・公民館図書室を利用しない理由（問7-② 和光

市内の図書館を利用しないのは、どんな理由からですか）

高校生は市内在住者とは限らないことを考慮し、高校2年生向けの設問のみ「地元（和光市以外）の図書館を利用している」という項目を追加した結果、75件もの回答が得られた。具体的な内容として「近所の図書館に行く」「学校図書館で満足している」という意見があった。

全体的な傾向としては「行く時間がない」という回答が一番多く、全体の47.6%となっていた。2番目に多い回答として「場所がわからない」23.2%となっている。「その他」の意見としては「行くのがめんどくさい」「期限付きなのがいや」「本は本屋で買う・ネットで買う」「知らない人が読んだ本を読みたくない（なにをしているかわからないから）」「YouTube・ゲームのほうが楽しいから」等の意見があった。また小学3年生、5年生の意見で多かったのが「なります図書館に行く」「ひかりが丘図書館に行く」という意見で「そちらのほうが本も多くて使いやすいから」という理由だった。

◆和光市の図書館に希望すること（問8 和光市図書館に希望することは何ですか）

か）

全体を見ると、図書館には「おもしろい本をおいてほしい」という希望が5割を超えて最多となっている。次いで「いつも開いていてほしい」が17.8%、「調べもので役に立つ本をおいてほしい」が16.4%となっている。

「その他」での意見では小学生では「怖い本を置いてほしい」「アニメの本を置いてほしい」「歴史や伝記の本を置いてほしい」「漫画をもっと増やしてほしい」等、所蔵内容についての意見が多かったが、中学生、高校生になってくると「流行りの本をもっと入れてほしい」という意見のほか「席を増やしてほしい」「自習コーナーを作してほしい」「飲食可能にしてほしい」等の、図書館の運営に関する意見が多かった。

また「その他」で「特になし」と書いた人は小学3年生、5年生では21件、中学2年生では48件、高校2年生では30件にのぼった。「行かないのでとくにないです。」（原文ママ）という意見もあった。

2 計画策定に伴うアンケート調査等の結果（市内小中学校等）

(1) 対象（ ）内は施設数

保育園（17）・幼稚園（4）・小学校（9）・中学校（3）・高等学校（2）・特別支援学校（2）
 ・学童クラブ（12）・児童センター（館）（4）子育て世代包括支援センター（5）

(2) 実施期間

令和4年5月26日から6月30日まで

(3) 概要

<p>保育園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせについては、多くの園で日常的に行われており、保育士や保護者、地域ボランティアが実施している。 ・図書コーナーについては、設置している園と設置していない園があり、設置している園の所蔵数は50冊程度～1,000冊とさまざまであった。また、各クラスごとに絵本コーナーを設置している園もあった。 ・読書関係の取組については、行事や遊びの中に本の題材を取り入れる、お便りに掲載など、本とふれあえる環境作りを行っている園が多い。 ・図書館との関わりについては、団体貸出本の活用、図書館見学、読み聞かせ、大型絵本の貸出などで連携している。
<p>幼稚園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせについては、すべての園で日常的に行われており、教師や保育者が実施している。園によっては、保護者ボランティアの参加も行われている。 ・図書コーナーについては、設置している園と設置していない園があり、設置している園の所蔵数は300冊～4,000冊とさまざまであった。 ・読書関係の取組については、季節行事や遊びの中に本の題材を取り入れる、園だよりで読み聞かせの大切さを伝える、保護者による読み聞かせサークル活動、読み聞かせの技能を高めるため職員が研修会に参加しているなど、様々な形で行われている。 ・図書館との関わりについては、持っていない（4）、今後持ちたいと思っている（1）であった。
<p>小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書については、ほぼすべての学校で実施されており、コロナ禍の対応のため朝の時間を確保できない学校（2）もあった。 ・読み聞かせについても、以前はすべての学校で実施されていたが、コロナ禍で保護者や地域ボランティアの活動ができなくなったため、実施していないと回答した学校（3）があった。実施していると回答した学校では週1回～年3回位とさまざまであり、朝の時間を活用しているケースが多かった。 ・読書関係の取組については、彩の国教育週間に「家族読書の日」（各家庭で日程を決めて家族みんなで読書したり、読み聞かせをするなど）を設けたり、図書委員会主催で本のPOP募集を実施、おすすめ本の紹介などを行っている学校があった。 ・学校図書館の活用については、教科の時間や総合的な学習の時間ですべての学校で活用されており、その他休み時間で活用されている。また、図書館アドバイザーの存在は大きいため勤務日数を増やしてほしいという要望があげられていた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の本の活用については、団体貸出本やテーマ別貸出本は、ほぼすべての学校に利用されており、団体貸出本については、新しくきれいな本の提供を要望されている。テーマ別貸出本については、林間学校や修学旅行など利用したい時期が重なるものは、必要な冊数が使用できるように複本をそろえて欲しいと言う要望があげられていた。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書については、すべての学校で週5日実施されている。 ・読み聞かせについては、以前はすべての学校で実施されていたが、コロナ禍で保護者や地域ボランティアの活動ができなくなったため、実施していないと回答した学校(2)があった。実施していると回答した学校では、週1回(学年をかえて)地域ボランティアが朝の時間を活用して実施。 ・読書関係の取組については、図書館主催のビブリオバトルへの参加があげられていた。 ・学校図書館の活用については、図書の購入費不足や書棚を置くスペースの確保の問題があげられていた。 ・図書館の本の活用については、団体貸出本については実施(1)、コロナ禍が収束したら再開したい(1)、実施していない(1)であった。実施していない学校については、常時学級文庫を用意しているためという理由があげられていた。
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書については、各学校で未実施となっている。理由として、時間確保が難しいことがあげられていた。 ・読書関係の取組については、ビブリオバトル、ブックツリー、図書委員によるアドベントカレンダー作りなどを行っている学校があった。 ・学校図書館の活用については、各学校とも教科の時間、放課後、休み時間などに活用されている。 ・図書館の本の活用については、授業や時節の展示にテーマ別貸出本を今後も利用したいという要望があった。
特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書については、各学校で未実施となっている。理由として、日常生活の指導時間のため難しいことがあげられていた。 ・読書関係の取組については、授業や休み時間に本の閲覧や貸出を行っている学校があった。 ・学校図書館の活用については、各学校とも教科の時間、放課後などに活用されている。また、日常生活の指導の中で活用している学校もあった。 ・図書館との関わりについては、読み聞かせの事業について必要に応じて依頼したいという要望があった。団体貸出本の利用については要望はなく、理由として生徒数の増加により図書室を置くことが難しい状況や、書架の空きが少ないことがあげられていた。
学童クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせについては、実施している施設と、実施していない施設があり、実施していると回答した施設では、頻度は週4回～年1回とさまざまであった。実施していないいくつかの施設ではコロナ禍で実施を見合わせていることや、地域ボランティアを受け入れられなくなったことがあげられていた。 ・図書コーナーについては、設置している施設と設置していない施設があり、設置している施設の所蔵数は200冊～2,000冊以上とさまざまであった。また、設置していないと回答した施設の方が多かった。 ・読書関係の取組については、日常的に本を読む時間を取り入れている、季節にあった本の紹介や読み聞かせを行っている施設があった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館との関わりについては、ほぼすべての施設が団体貸出本を利用している。利用していない施設の理由として、本の扱い（破損させないように利用する）の難しさ、スペースの問題などがあげられていた。また要望として、団体貸出本の貸出冊数増加、長期休暇中の図書館イベントへの参加、出張での読み聞かせなどがあげられていた。
<p>児童センター (館)・ 子育て世代 包括支援 センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせについては、ほぼすべての施設で行われており、頻度は週12回～月2回とさまざまであり、職員が実施している。 ・図書コーナーについては、ほぼすべての施設が設置しており、所蔵数は100冊位～6,000冊と施設の規模によりさまざまであった。 ・読書関係の取組については、読み聞かせを定番のイベントとして実施する、本の貸出を行う（コロナ禍前）、お便りに絵本の紹介を掲載するなど、読み聞かせにつながる取組を各施設それぞれ実施している。 ・図書館との関わりについては、団体貸出本、出張ブックスタート、読み聞かせ、図書館見学など、すべての施設が何らかの関わりを持っている。また要望として、出張ブックスタートの継続や回数の増加、おすすめ図書の紹介、予約本の公民館受け取りの周知などがあげられていた。

第4章 アンケート調査、前計画の達成状況から読み取れる特徴と課題

1 小学生、中学生は「本をよく読む」子が増えている

「読書活動についてのアンケート調査」の結果では、5年前と比較して高校2年生を除き「よく読む」子どもの割合が高くなっています。

図書館における読書推進の取組、小学校、中学校での朝読書等、読書活動への取組による成果といえます。

その一方で「ほとんど読まない」「読まない」子どもがおおよそ4人に1人いるため、引き続き読書推進の取組をすすめ、「読まない」子どもを減らす努力が求められます。

2 図書館を利用する小中高校生が少ない

「読書活動についてのアンケート調査」の結果では、5月中の1か月間において7割近く、中学2年生、高校2年生になると実に8割以上が和光市内の図書館・図書室を利用していないことがわかりました。コロナ禍で座席数を減少したことや事業の募集人数を少なくしたこと等の影響もあると思われませんが、居心地の良い場所としての図書館、行ってみたくなる図書館づくりをすすめる必要があります。

3 成長するにつれて読書量が減っている

「読書活動についてのアンケート調査」の結果では、中学生、高校生のひと月の読書量が減っています。主に「塾や習い事で忙しい」「ゲームや動画等、他にも楽しいことがたくさんあるから」という理由があげられています。このことから、中高生に図書館に足を運んでもらうためには中高生のニーズに応じた蔵書展開を行うことはもちろん、中高生向けの魅力的な取組を実施し、中高生の読書活動を推進する必要があります。

第5章 計画の内容と推進のための施策

基本施策と取組内容

基本施策		取組内容	担当課所
1 家庭・地域における読書の推進		① 家庭における読書活動の推進	
		・ 乳幼児保護者向け啓発事業	【図書館】【公民館】
		・ 乳幼児向け事業、お届け講座	【図書館】【ネウボラ課】
		・ 子どもに関わる大人に向けた事業	【図書館】
		・ 読書通帳の活用	
		・ 読書のきっかけをつくる事業	
・ ブックリストの作成、配布			
② 地域における読書活動の推進	・ 団体貸出の実施	【図書館】	
	・ 「本と出会えるところマップ」の作成	【図書館】【公民館】 【保育施設課】 【保育センター】	
	・ 読み聞かせ事業の実施		
2 保育施設・幼稚園における読書の推進	① 図書コーナーの充実	【各保育施設】	
	② 各施設における読み聞かせ活動の充実	【保育施設課】 【保育センター】 【各保育施設】【図書館】	
	③ 図書館との連携		
3 小学校・中学校における読書の推進		① 校内一斉読書の推進	【各小中学校】
		② 子どもが読書に親しむ機会や場の提供	
		③ 図書委員会の活動の充実	
		④ 保護者への読書啓発活動の実施	【各小中学校】【スポーツ少年課】
		⑤ 図書館アドバイザー研修の実施	【学校教育課】【図書館】
4 図書館における読書の推進	(1) 乳幼児へのサービスの充実	① 良質な乳幼児向け図書等の収集、保存 ② 乳幼児向け事業等の充実 ③ 市内各公共施設への団体貸出等の充実 ④ 家庭・地域における取組への支援 ⑤ 保育施設・幼稚園における取組への支援	【図書館】
	(2) 小学生へのサービスの充実	① 良質な児童向け図書等の収集・保存 ② 市内各公共施設への団体貸出等の充実 ③ 子ども向け事業の充実 ④ テーマ展示及びブックリストの充実 ⑤ 障害のある子どもたちへのサービスの充実 ⑥ 学校における取組への支援	【図書館】
	(3) 中学生・高校生へのサービスの充実	① YA（ヤングアダルト）コーナー等の充実 ② 中高生向け講座の充実 ③ 学校における取組への支援	【図書館】
	(4) 職員のスキルアップと体制づくり	① 児童サービス研修への参加 ② 児童サービスに関する情報の共有 ③ 子どもの読書活動を推進するための体制づくり ④ 子どもと本をつなぐボランティアの育成、連携	【図書館】

Ⅰ 家庭・地域における読書の推進

■ 現 状

家庭における読み聞かせや地域での読み聞かせ体験は、子どものその後の読書活動に大きな影響を与えるといえます。図書館では「あかちゃんと楽しむ絵本とわらべうた」と「あかちゃんタイム」を実施し、乳幼児のいる保護者に対し、わらべうたを通じての語りかけの大切さを伝え、乳児向けの絵本を読み聞かせ、紹介することで、家庭における読書活動の推進につながるよう働きかけを行ってきました。

地域の読書環境については児童センター（館）、子育て世代包括支援センターで「出張ブックスタート」を開催し、本館から遠い地域の読書環境を整えることができました。また児童センター（館）、子育て世代包括支援センター、学童クラブ等への団体貸出を行い、本と出会える場を提供しています。

■ 課 題

家庭においては、保護者が子どもが本に親しむ機会を作ったり、子どもと一緒に読書を楽しむ、子どもの読書活動に積極的に関わることが求められています。そのためには「あかちゃんタイム」等の乳幼児と保護者が共に楽しめる事業をもっと周知するとともに、乳幼児と保護者が来館しやすい図書館にしていく必要があります。また子育てに不安や悩みを抱えている保護者が、気分転換をしたり仲間をつくるきっかけとなる場を用意することも必要です。

地域においては、地域全体で子どもの読書活動を支援するために、読み聞かせボランティアの養成や市役所関係各課、市内公共施設などとの連携による取組が必要です。

■ 取組内容

① 家庭における読書活動の推進

- ・乳幼児保護者向け啓発事業【図書館、公民館】
- ・お届け講座【図書館】
- ・乳幼児向け事業（ブックスタート、あかちゃんと楽しむ絵本とわらべうた、あかちゃんタイム）【図書館、ネウボラ課】
- ・子どもに関わる大人に向けた事業【図書館】
- ・読書通帳（わこガチャ）の活用【図書館】
- ・読書のきっかけを作る事業（本の福袋、ぬいぐるみのおとまり会）【図書館】
- ・ブックリストの作成、配布【図書館】
- ・子ども読書の日の普及啓発【図書館】

乳幼児の保護者また妊産婦に対して、家庭において本に親しむことができるよう、推薦図書紹介や読み聞かせの大切さについての啓発や子育て支援のための情報提供を行います。また子育て中の方向けの事業を行うことで、子育てを支援したり仲間づくりにつなげます。

図書館においておすすめ本のブックリストなどを作成し、実際に職員が読み聞かせをすることで読書の大切さ、楽しさを啓発するとともに、市役所関係各課と連携し、絵本をとおして親子が触れ合える環境や、子どもの身近に本がある環境を作り、家庭における読書

活動の推進に努めます。また読書のきっかけをつくる事業を実施し、子どもだけでなく、大人にも読書の楽しさを知ってもらえる取組をすすめます。

② 地域における読書活動の推進

- ・ 団体貸出の実施【図書館】
- ・ 「本と出会えるところマップ」の作成【図書館】
- ・ 読み聞かせ事業の実施【図書館、公民館、保育施設課、保育センター】

地域での読書活動を推進するため、読み聞かせボランティアの養成講座などを実施するとともに、公民館図書室、児童センター（館）や子育て世代包括支援センター、学童クラブ等と連携し、市内公共施設を地域の小さな図書館として充実させ、子どもが本と出会える場所を提供します。

また「出張ブックスタート」も積極的に行い、図書館に来館しづらい地域の子どもと保護者に向けて読書活動を啓発していきます。将来的には「出張あかちゃんタイム」の開催を計画します。

取組年度

取組内容	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)
① 家庭における読書活動の推進	継続	→			
② 地域における読書活動の推進	継続	→			



出張ブックスタート



分館：クリスマス工作と読み聞かせ

本と出会えるところ

(1) 公民館

名称	時間	備考
坂下公民館	月～金 9時から17時 土 13時から17時	予約本の受け取りは毎日 9時～21時
中央公民館	月～金 9時から17時 土 13時から14時	予約本の受け取りは毎日 9時～21時
南公民館	月～金 9時から17時 土 13時から17時	予約本の受け取りは毎日 9時～21時

(2) その他

名称	時間	備考
総合児童センター	9時30分から19時	お休み 毎月第2・4木曜日
下新倉児童館	9時30分から17時	お休み 毎週火曜日・第3日曜日
南児童館	9時30分から17時	お休み 毎週金曜日・第2日曜日
新倉児童館	9時30分から17時	お休み 毎週火曜日・第3日曜日
総合福祉会館	9時から21時30分	

(3) 地域文庫（居住者専用）

名称	時間	備考
ひまわり文庫 (和光官舎)	毎週月曜日 15時から16時30分	利用は和光官舎居住者の み
すわはら文庫	閲覧：月～金 9時から 17時 貸出：毎週日曜日 10時から11時30分	集会所が開いている時間 お休み 土曜日・祝日

※参考「本と出会えるところマップ」令和4年3月31日現在
発行：和光市青少年育成推進員会
事務局：スポーツ青少年課青少年担当（令和3年度）

保育園・幼稚園	学童クラブ	小学校・中学校・高等学校 特別支援学校
子育て世代包括支援センター	児童センター（館）	市内書店

2 保育施設・幼稚園における読書の推進

■ 現 状

各保育施設、幼稚園では図書コーナーを設置し、子どもの身近なところに本がある環境を作っています。また、日常的に保育士、幼稚園教諭、ボランティアなどによる読み聞かせ活動が行われています。一部の施設では、子どもや保護者へ本の貸出も行っています。

保育施設においては、図書館からの団体貸出により、幅広い本に触れる機会を提供しています。

■ 課 題

令和4年5月に各保育施設、幼稚園などに実施したアンケート調査の結果では、図書コーナーの規模は施設によって差があり、設置していない施設もあります。図書の選書については、発達段階に応じた図書の整備が必要なため、図書館のリサイクル図書や寄贈図書を活用するなど、充実を図る必要があります。

保育施設に関しては、読み聞かせを実施していない施設があるため、子どもの一番身近にいる保育士、職員への読み聞かせに関する研修の機会や、図書館ボランティアなどによる読み聞かせの出前など、人材の活用が求められています。

■ 取組内容

① 図書コーナーの充実【各保育施設】

図書館の団体貸出や図書館のリサイクル図書、寄贈図書の活用も含め、各施設の図書コーナーをさらに充実し、発達段階に応じた図書を揃えていきます。

② 各施設における読み聞かせ活動の充実【各保育施設】

図書館職員や図書館ボランティアによる読み聞かせの出前を活用しながら、各施設における読み聞かせ活動の充実を図ります。

③ 図書館との連携【保育施設課、保育センター、各保育施設、図書館】

図書館で開催される、絵本やわらべうた、読み聞かせに関する講座等への参加を呼びかけることや、園児の図書館訪問を実施するなど、図書館と保育施設との連携を図ります。

取組年度

取組内容	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)
① 図書コーナーの充実	継続				
② 各施設における読み聞かせ活動の充実	継続				
③ 図書館との連携	継続				

3 小学校・中学校における読書の推進

■ 現 状

小学校、中学校では朝読書や読み聞かせ活動について、司書教諭や図書館アドバイザーが中心となり継続的に実施されています。読み聞かせ活動については、保護者や地域ボランティアが大きな担い手となっています。また、児童・生徒を対象とした読書に関する取組が行われています。各教科の授業の中でも、調べ学習など学校図書館や図書館を利用した活動も行われています。

■ 課 題

学校においては、司書教諭と図書館アドバイザー、保護者、学校応援団及びボランティアの連携により、よりいっそう充実した読書活動が求められています。

また、近年、若者の読書離れが社会的にも課題となっています。子どもが読書に興味や関心をもつ環境づくりや、古くなった図書の入替、新しい図書の購入費確保が必要になります。

< 学校図書館の機能 >

学校図書館は、児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」としての機能と、児童生徒の学習活動を支援したり授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能とともに、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有しています。

■ 取組内容

① 校内一斉読書の推進【各小中学校】

朝読書、休み時間等、児童・生徒の読書活動の充実を図ります。

② 子どもが読書に親しむ機会や場の提供【各小中学校】

- ・ 「読書マラソン」「ブックトーク」「ビブリオバトル」「POP作り」など、子どもが読書に親しむ機会や場の提供を行います。
- ・ 本を身近なものにするため、図書館から各学級が借りている本（団体貸出など）も含めて、学級文庫の充実を図ります。
- ・ 国語、理科、社会、総合的な学習の時間等を通して、推薦図書のブックリストの紹介をします。
- ・ 優秀な感想文や意欲的に読書に取り組んだ児童・生徒を表彰し、子どもの努力を認める活動を広げます。
- ・ 児童・生徒が保育施設や幼稚園を訪問したり、図書館で幼児への読み聞かせをするなど、読書活動の体験を広げていきます。
- ・ 保護者、学校応援団及びボランティアによる朝の読み聞かせを実施します。

③ 図書委員会の活動の充実【各小中学校】

図書の選定、貸出業務、POP作りや図書委員のおすすめ本紹介、新聞等を発行し、図書委員会活動の充実を図ります。

④ 保護者への読書啓発活動の実施【各小中学校、スポーツ青少年課】

「読み聞かせ」活動等の保護者ボランティア活動の奨励を行います。

また、和光市図書館が作成した読書をすすめるためのリーフレット等を配布し、保護者への読書啓発活動を実施します。

青少年育成推進委員会において、図書館と定期的に交流を行い、優良図書の普及に努めます。

⑤ 図書館アドバイザー研修の実施【学校教育課、図書館】

各校に配置されている図書館アドバイザーのスキルアップのため、図書館と協力し図書館アドバイザー研修を実施します。

取組年度

取組内容	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)
① 校内一斉読書の推進	継続	→			
② 子どもが読書に親しむ機会や場の提供	継続	→			
③ 図書委員会の活動の充実	継続	→			
④ 保護者への読書啓発活動の実施	継続	→			
⑤ 図書館アドバイザー研修の実施	継続	→			



図書館アドバイザー研修「POP作り」

4 図書館における読書の推進

(1) 乳幼児へのサービスの充実

■ 現 状

乳幼児への取組については、良質な乳幼児向け絵本の収集・保存・提供のほか、ボランティアの協力による読み聞かせ活動などを行っています。平成25年9月からブックスタート事業を開始し、北、北第二、南子育て世代包括支援センターの3か所に加えて、令和4年から和光市広沢複合施設「わぴあ」内の総合児童センターでの出張ブックスタートを開始しています。また令和元年4月より、ボランティアと図書館職員との協働で「土曜えほんタイム」を開始しています。月1回の「あかちゃんタイム」は、予約不要で気軽に集える乳幼児向けの事業として定着しています。

■ 課 題

平成29年度に実施した「市内小中高校生の読書アンケート」と令和4年度に実施した同様のアンケート結果の比較では、「小さいときに本を読んでもらった」と回答した割合は5%高くなっており、家庭での読み聞かせが浸透してきたといえますが、一方で、年齢が上がるにつれて読書離れが進む傾向があります。幼少期から読書習慣を定着させるためには、保護者の理解と協力が必要であり、子育て世代がより親しみを持って利用しやすい図書館作りが求められます。ブックスタート事業に参加した際に「初めて図書館に来た」という保護者も多く、今後の利用に繋げる好機となっています。いかに好印象を残して「また利用したい」と感じてもらえるかが鍵となるため、乳幼児向け事業における職員のスキルアップと共に、ボランティア人材の確保、育成が急務となります。

■ 取組内容

① 良質な乳幼児向け図書等の収集、保存【図書館】

「はじめてであう絵本コーナー」の充実を中心に、絵本、紙芝居等、良質な乳幼児向け図書等を計画的に収集、保存します。また、興味を持って、手に取りやすくするような配架の工夫に努めます。

② 乳幼児向け事業等の充実【図書館】

「あかちゃんタイム」「あかちゃんと楽しむ絵本とわらべうた」「絵本とおはなしの会」「土曜えほんタイム」などの事業を実施し、乳幼児の読書活動を推進します。また、保育施設・幼稚園の図書館見学の受入れ、親子が本を通して触れ合う機会としてブックスタート事業を継続し充実します。「出張あかちゃんと楽しむ絵本とわらべうた」「出張あかちゃんタイム」も検討します。また、LINEやTwitterなどSNSを活用して、事業の周知や募集を行い、多くの人に参加してもらえるよう努めます。

③ 市内各公共施設への団体貸出等の充実【図書館】

市内各公共施設（子育て世代包括支援センター、児童センター（館）等）や新設された市内保育施設への団体貸出等の充実を図ります。引き続き、各施設の要望に応じて貸

出資料を揃えるなど細やかな対応に努めます。

④ 家庭・地域における取組への支援【図書館】

乳幼児の保護者また妊産婦に対して、家庭において本に親しむことができるよう、推薦図書紹介や読み聞かせの大切さについての啓発や子育て支援のための情報提供を行います。さらには、地域の身近な施設においても本に親しむことが出来るよう、児童センター（館）、子育て世代包括支援センターなどとの連携を行います。さらには、地域での読書活動を推進するため、読み聞かせボランティアの養成講座なども実施します。

⑤ 保育施設・幼稚園における取組への支援【図書館】

保育施設・幼稚園での読み聞かせ活動推進のため、要望に応じて、図書館職員や図書館ボランティアによる読み聞かせの出前を実施するとともに、保育士や幼稚園教諭などが参加できる絵本に関する講座などを行います。

取組年度

取組内容	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)
① 良質な乳幼児向け図書等の収集、保存	継続	→			
② 乳幼児向け事業等の充実	継続	→			
③ 市内各公共施設への団体貸出等の充実	継続	→			
④ 家庭・地域における取組への支援	継続	→			
⑤ 保育施設・幼稚園における取組への支援	継続	→			



あかちゃんを楽しむ絵本とわらべうた

(2) 小学生へのサービスの充実

■ 現 状

小学生への取組については、児童向け資料の収集・保存・提供を行うとともに、図書館主催の読書会や読み聞かせなどの各種事業を実施しています。

平成28年4月に開始した読書通帳や平成29年1月に開始したわこガチャは浸透しつつあり、本に親しむ習慣や意欲を促進し、児童の読書推進を図っています。

平成28年に設置した特別なニーズのある子どもたちのためのコーナー「りんごの棚」の整備を進め、児童向け大活字本やＬＬブックのほか分館には児童向けデージー図書等を整備しています。

令和元年4月には、分館に「調べ学習コーナー」を設置し、「小学生のための調べかた案内」と「情報ファイル」の提供を開始しました。令和4年2月には「小学生のための調べかた案内」をホームページでも公開しました。分館では複合施設であることを活かして、隣接する下新倉小学校児童の調べ学習や自由読書での利用、休み時間貸出、長期休暇前貸出、月テーマ本貸出等の連携を図っています。また、令和4年からは、それまで分館内でのみ行ってきた小学生向けの「ひまわりおはなし会」を隔月で下新倉児童館に出張して行い、下新倉学童クラブの児童に参加してもらうなど、連携を深めています。

■ 課 題

令和4年6月に実施した「市内小中高校生の読書アンケート」の結果では、読書習慣がない（読まない・ほとんど読まない）児童・生徒の割合は小学3年生では12.6%（前回結果：13.5%）となっていますが、小学5年生になると25.1%（前回結果：21.4%）となっており、学年が上がるにつれ読書習慣がない割合が高くなるといった結果が出ています。また、小学5年生は前回アンケート時よりその割合は高くなっており、より読書離れが進んでいると言えます。今後は小学生の読書習慣の形成につながるサービスに一層力を入れる必要があります。

その他、ブックトークや読み聞かせといった学校訪問については、コロナ禍により令和2年以降実施ができない状況が続きました。感染状況を注視しながらも今後は再開を目指し、以前より多くの学校で実施できるよう積極的に働きかけをしていく必要があります。

また、図書館システムを活用し、学校図書館と図書館との物流、学校図書館間の物流を実施するなど、児童の読書ニーズに応えることが求められています。

■ 取組内容

① 良質な児童向け図書等の収集・保存【図書館】

絵本、児童図書、紙芝居、雑誌など、良質で多様な資料の収集・保存に努めます。また、新たに教科に加わった英語やプログラミングに関する資料や、増加している外国人児童向けの資料など、時代の変化に合わせた柔軟な資料の収集・保存に努めます。

② 市内各公共施設への団体貸出等の充実【図書館】

市内各公共施設（学童クラブ、児童センター（館）等）への団体貸出の充実を図ります。

③ 子ども向け事業の充実【図書館】

読書会やおはなし会、科学講座、工作教室、英語による読み聞かせなど幅広い事業に取り組み、小学生の読書活動の推進をします。また、夏休み宿題教室や司書体験の開催や図書館見学の受入れ、調べ学習や本の探し方の支援、新たな分野の本との出会いを支援する取組を実施します。さらには、子ども読書の日や読書週間に合わせ、読書活動に関する講座や企画等を開催します。

④ テーマ展示及びブックリストの充実【図書館】

季節にあったテーマやおすすめの本の展示を計画的に行うとともに、おすすめブックリストを作成します。またそれらの内デジタル化できる資料については、ホームページからも見られるよう整備していきます。

⑤ 障害のある子どもたちへのサービスの充実【図書館】

小学校の特別支援学級への団体貸出、布の絵本の貸出、障害の状態に応じた選書を行います。また、和光特別支援学校、和光南特別支援学校と連携し、見学の受入れや図書館職員、図書館ボランティアによる読み聞かせ訪問等を実施します。

りんごの棚コーナーの充実と普及に努め、ブックリストの作成や情報提供を進めていきます。

⑥ 学校における取組への支援【図書館】

市内小学校での読書活動推進のため、団体貸出、授業や修学旅行の際に活用するテーマ別の本の貸出、読み聞かせ・ブックトークの出前、市内施設めぐりによる図書館の紹介、1年生向けに読書通帳の配付などを行います。また、司書教諭、図書館アドバイザー、学校応援団、コミュニティ・スクール・ディレクター、地域コーディネイターとの連携を積極的に図り、小学校図書館活動への支援として本の選書に関する展示会の開催や、統計及び蔵書点検に関する研修やサポート等を行います。

さらには、市内小中学校の図書館アドバイザーと各校で活動している保護者、学校応援団などの読み聞かせボランティアとの連携を進め、ボランティアの活動を把握し、図書館を会場に交流会や研修会などを開くなど、図書館アドバイザーとボランティアへの支援を図ります。

取組年度

取組内容	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)
① 良質な児童向け図書等の収集、保存	継続	→			
② 市内各公共施設への団体貸出等の充実	継続	→			
③ 子ども向け事業等の充実	継続	→			
④ テーマ展示及びブックリストの充実	継続	→			
⑤ 障害のある子どもたちへのサービスの充実	継続	→			
⑥ 学校における取組への支援	継続	→			



りんごの棚



分館:小学生のための調べ案内
(パスファインダー)コーナー

(3) 中学生・高校生へのサービスの充実

■ 現 状

これまで「第3次和光市子ども読書活動推進計画」に基づき、希望する市内中学校へ団体貸出を行っているほか、図書館内にYA（ヤングアダルト）コーナーを設置し、中高生の読書活動の支援をしています。このコーナーでは中高生におすすめしたい本はもちろんですが、中高生に人気の本も所蔵しています。また漫画については平成26年4月から設置していますが、年に1度、漫画の購入アンケートを行い、選書会議で検討の上、購入しています。

また、市内中学生の職場体験学習の受入れを行い、平成24年度からは和光高校の社会体験活動の受入れも行ってきました。令和4年度現在はコロナ禍のため受け入れを停止していますが、状況が変わり次第、受け入れを再開する予定です。

平成26年度から実施している中学生参加のビブリオバトルですが、令和2年度からはコロナ禍のため開催を中止しています。コロナ禍がおさまり次第、再開を予定しています。平成27年3月から発行している「YA通信」は現在も発行を継続しており、中高生世代に読んで欲しい本の紹介記事やYA世代に発信したいお知らせを中心に記事を掲載してきました。各市内中学・高校にも配布しています。また、市民図書館講座にて、「ショートショート の書き方」など中高生向けの講座を実施しています。

これからも、中高生の自主的な工夫によりYAコーナーの充実を図ります。

■ 課 題

平成27年度から中高生向けの講座を実施していますが、より中高生が興味を持つような講座を行うことや、市内の中学校や高校に広報するなど、情報を発信していくことが必要です。

令和4年6月に実施した「市内小中高校生の読書アンケート」の結果では、高校生は小学生、中学生より読書習慣がない割合が高いといった結果が出ています。理由としては「塾や習い事が忙しい」ということが最も多くあげられています。

図書館協議会においては、図書館が中高生の居場所づくりを進める必要があるといった意見があります。

■ 取組内容

① Y A（ヤングアダルト）コーナー等の充実【図書館】

職業・受験対策関連分野の強化、知的好奇心の刺激や学校生活に役立つ資料、他に市内には理化学研究所が存在するということを踏まえて中高生向けの理系の図書資料等、ライトノベルズ等の文学以外の分野も充実します。また、漫画を含む中高生の購入リクエストもますます重視していきます。中学校の授業と連携したテーマ展示や蔵書購入も行っていく予定です。

さらには、SNSを活用し、図書館サービス等の情報提供に努め、将来的には図書館を利用する中高生たちがSNSで語れる場を作成することも計画します。中高生が図書館に求めているものを知るための座談会の開催や意見発表の場を設けることを検討します。

② 中高生向け講座の実施【図書館】

これからも学校等と連携し、図書への関心や興味を引き出すための講座、将来について考える講座、ブックトークや中高生参加型のビブリオバトル、中高生が作成したPOPや絵本の展示、図書館クラブ等を実施します。和光高校と和光国際高校が統合するにあたり、より一層の連携強化を行い、中高生にとって魅力的な講座等を開催します。

③ 学校における取組への支援【図書館】

学校図書館と連携し、調べ学習など学校教育を支援するための団体貸出や内容を揃えたテーマ本の貸出等を充実するとともに、職場体験や社会体験活動の受け入れを積極的に行います。

取組年度

取組内容	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)
① Y A（ヤングアダルト）コーナー等の充実	継続	→			
② 中高生向け講座の実施	継続	→			
③ 学校における取組への支援	継続	→			



市民図書館講座(中高生向け)

(4) 職員のスキルアップと体制づくり

■ 現 状

職員のスキルアップについては、県の主催する児童奉仕研修会などに計画的に職員を派遣し、図書館における児童サービスを学んでいます。

■ 課 題

研修に参加できる人数は限られていることから、多くの職員がスキルアップするには時間がかかります。また、子どもの読書に関わる体制づくりが求められており、職員一人一人の意識の向上も求められています。

■ 取組内容

① 児童サービス研修への参加【図書館】

児童サービスに関する知識向上のため、今後も県の主催する児童奉仕研修会に計画的に参加します。また県の主催のみならず、児童サービスに関してより良い研修を行っているところがあれば積極的に参加します。

② 児童サービスに関する情報の共有【図書館】

研修会参加者が報告することにより児童サービスに関する情報の共有をはかります。報告会や報告資料の作成を行います。





③ 子どもの読書活動を推進するための体制づくり【図書館】

和光市全体で子どもの読書活動を推進するために、子どもの読書に関わる担当者の情報共有や意見交換のための場を設けることを検討します。

④ 子どもと本をつなぐボランティアの育成、連携【図書館】

現在活動していただいているボランティアの方向けに交流会や研修会を行うとともに、新たなボランティアの育成に取り組みます。

取組年度

取組内容	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)
① 児童サービス研修への参加	継続				
② 児童サービスに関する情報の共有	継続				
③ 子どもの読書活動を推進するための体制づくり	検討	実施			
④ 子どもと本をつなぐボランティアの育成、連携	継続				

資料編

もくじ

1	計画策定の経緯	1
2	和光市図書館協議会委員名簿	1
3	「読書活動についてのアンケート調査」結果概要（児童・生徒）	2
4	「第4次和光市子ども読書活動推進計画等の策定に伴うアンケート調査」結果概要	17
5	「未就学児保護者に対する子ども読書活動に関するアンケート調査」結果概要	26
6	アンケート調査票1（小・中学生用）	30
	アンケート調査票2（高校生用）	32
	アンケート調査票3（小・中学校用）	34
	アンケート調査票4（高校・特別支援学校用）	38
	アンケート調査票5（各公共施設用）	41
7	子どもの読書活動の推進に関する法律	43

1 計画策定の経緯

令和4年

5月12日(木)	第1回 和光市図書館協議会
5月26日(木)～6月30日(木)	計画の策定に伴うアンケート調査 (市内保育園・幼稚園・児童センター・児童館・子育て世代包括支援センター・学童保育クラブ・和光高校・和光国際高校・和光特別支援学校・和光南特別支援学校・市内小中学校)
6月1日(水)～6月15日(水)	第4次和光市子ども読書活動推進計画「読書活動についてのアンケート調査」市内小中高生(回答者数2,301人)
6月14日(火)～6月30日(木)	「未就学児保護者向けアンケート調査」図書館、下新倉分館、子育て世代包括支援センター設置、任意回答(回答者数21人)
12月9日(金)	第2回 和光市図書館協議会
12月22日(木)	定例教育委員会

令和5年

1月10日(火)～1月30日(月)	パブリック・コメントの実施
2月 日	第3回 和光市図書館協議会
2月16日(木)	定例教育委員会

2 和光市図書館協議会委員名簿 (任期：令和3年8月1日～令和5年7月31日)

	氏名	選出母体など	備考
1	どい じゅんこ 土井 純子	和光市小中学校校長会(新倉小学校)	
2	すずき ひろのぶ 鈴木 啓修	和光市内県立学校(和光国際高等学校)	
3	やぎした かずひろ 柳下 和弘	和光市社会教育委員	
4	たかだ ももこ 高田 桃子	和光市公民館運営審議会	
5	くにおか あきこ 国岡 晶子	家庭教育の向上に資する活動を行う者 (あゆみの会はじめのいっぽ♪)	
6	おくま ひろこ 小熊 尋子	家庭教育の向上に資する活動を行う者 (NPO法人わこう子育てネットワーク)	
7	ほしの ゆうじ 星野 裕司	公募	
8	おじま りえ 小嶋 里恵	公募	
9	いしかわ たかし 石川 敬史	学識経験のある者(十文字学園女子大学)	委員長
10	ほし けいか 星 佳芳	学識経験のある者(国立保健医療科学院)	副委員長

3 【読書活動についてのアンケート調査】結果概要

「第4次和光市子ども読書推進活動計画」を策定するための基礎資料として、市内の小中学校の児童・生徒を対象に「読書活動についてのアンケート」調査を行いました。調査の概要、各質問及び回答内容は次のとおりです。

○ 調査時期 令和4年6月1日～15日

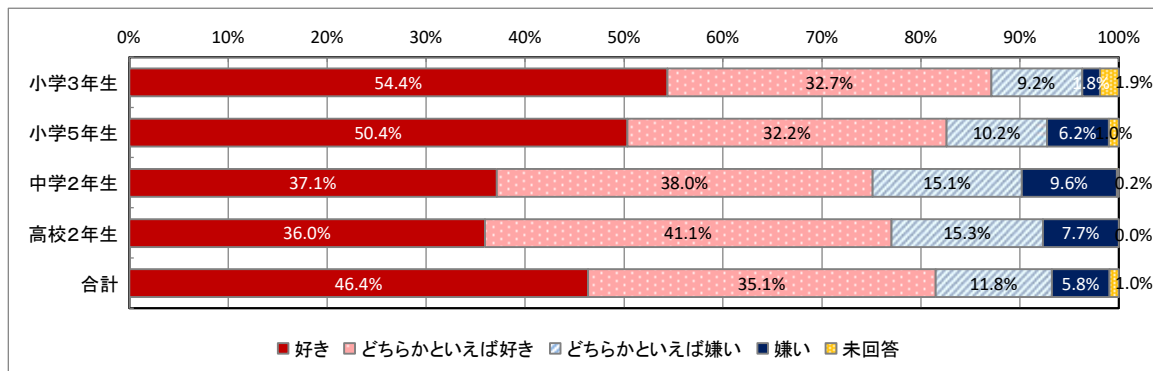
○ 調査対象学年、人数

	小学3年生		小学5年生		中学2年生		高校2年生	
	児童数	回収数	児童数	回収数	生徒数	回収数	生徒数	回収数
白子小学校	85	80	84	80				
新倉小学校	81	68	114	108				
第三小学校	96	95	64	63				
第四小学校	72	69	67	67				
第五小学校	120	110	124	118				
広沢小学校	54	81	79	78				
北原小学校	62	60	56	54				
本町小学校	71	66	51	44				
下新倉小学校	101	101	90	77				
大和中学校					237	215		
第二中学校					152	142		
第三中学校					163	133		
和光高校							141	132
和光国際高校							316	260
計	742	730	729	689	552	490	457	392
回収率	98.4%		94.5%		88.8%		85.8%	

I 日頃の読書状況

【問1】 あなたは、本を読むことが好きですか。

	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	未回答	合計
小学3年生	397 54.4%	239 32.7%	67 9.2%	13 1.8%	14 1.9%	730 100.0%
小学5年生	347 50.4%	222 32.2%	70 10.2%	43 6.2%	7 1.0%	689 100.0%
中学2年生	182 37.1%	186 38.0%	74 15.1%	47 9.6%	1 0.2%	490 100.0%
高校2年生	141 36.0%	161 41.1%	60 15.3%	30 7.7%	0 0.0%	392 100.0%
全体	1067 46.4%	808 35.1%	271 11.8%	133 5.8%	22 1.0%	2301 100.0%

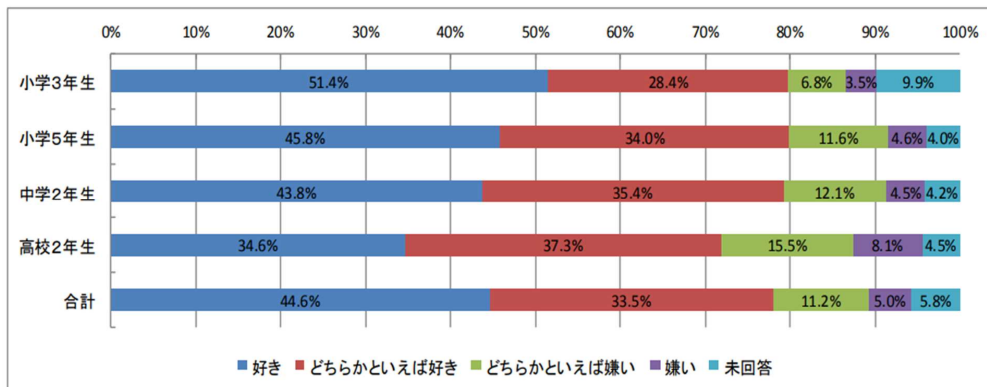


全体で見ると、本を読むことが「好き」と答えた児童・生徒は46.4%で、「どちらかといえば好き」(35.1%)をあわせると、81.5%の児童・生徒が本を読むことが好きであることがわかる。

学年別に見ると、読書が好き(「好き」「どちらかといえば好き»)な児童・生徒の割合は、小学3年生が87.1%と最も高くなっており、他の学年も約8割となっている。

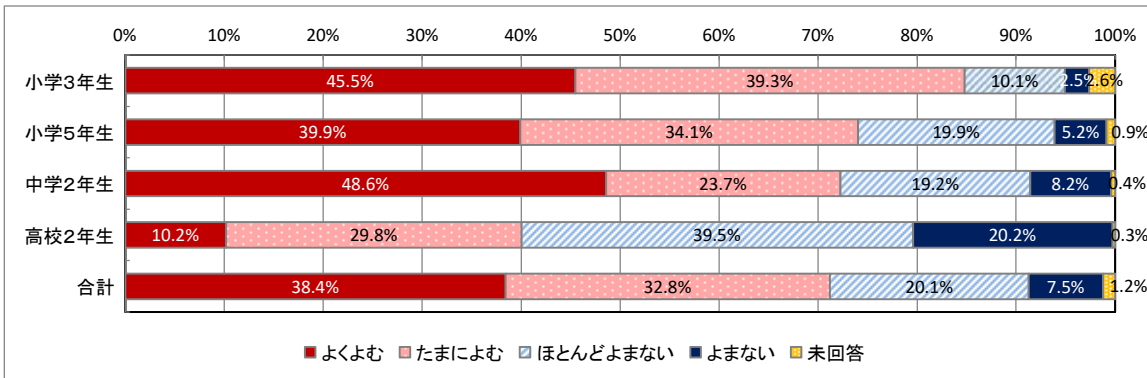
「嫌い」「どちらかといえば嫌い」と答えた児童・生徒の割合は、全体では17.6%であり、学年別で見ると高校2年生が最も高い数値(23.0%)となっている。

<参考: 前回調査結果>



【問2】あなたは、本をよく読むほうですか。(まんが、雑誌をのぞく)

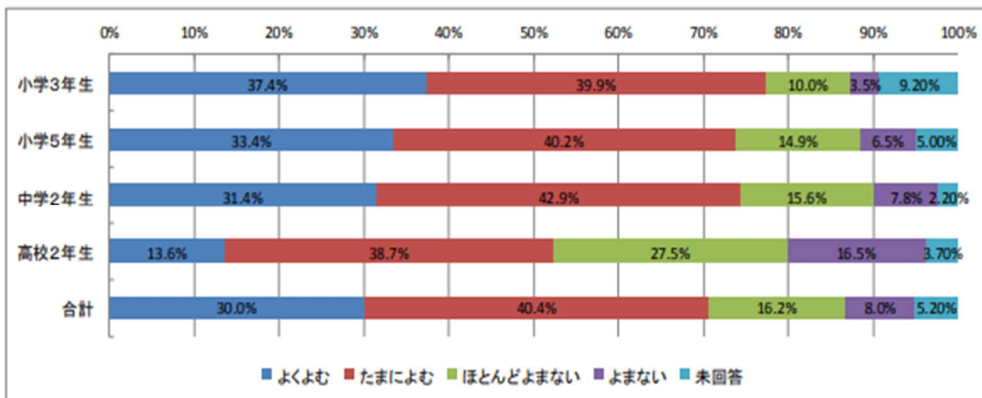
	よく読む	たまに読む	ほとんど読まない	読まない	未回答	合計
小学3年生	332	287	74	18	19	730
	45.5%	39.3%	10.1%	2.5%	2.6%	100.0%
小学5年生	275	235	137	36	6	689
	39.9%	34.1%	19.9%	5.2%	0.9%	100.0%
中学2年生	238	116	94	40	2	490
	48.6%	23.7%	19.2%	8.2%	0.4%	100.0%
高校2年生	40	117	155	79	1	392
	10.2%	29.8%	39.5%	20.2%	0.3%	100.0%
全体	885	755	460	173	28	2304
	38.4%	32.8%	20.1%	7.5%	1.2%	100.0%



全体で見ると、本を「よく読む」児童・生徒は38.4%である。一方、「ほとんど読まない」、「読まない」と回答した児童・生徒は27.6%にのぼり、およそ4人に1人が読書が習慣になっていない状態を示している。この数値は前回調査とほぼ同水準となっている。

学年別に見ると、読書が習慣となっていない(「ほとんど読まない」「読まない」と回答した児童・生徒の割合は、小学3年生で12.6%、小学5年生で25.1%、中学2年生で27.4%、そして高校2年生で59.7%となっており、年齢が高くなるにつれ読書離れている傾向が見受けられる。

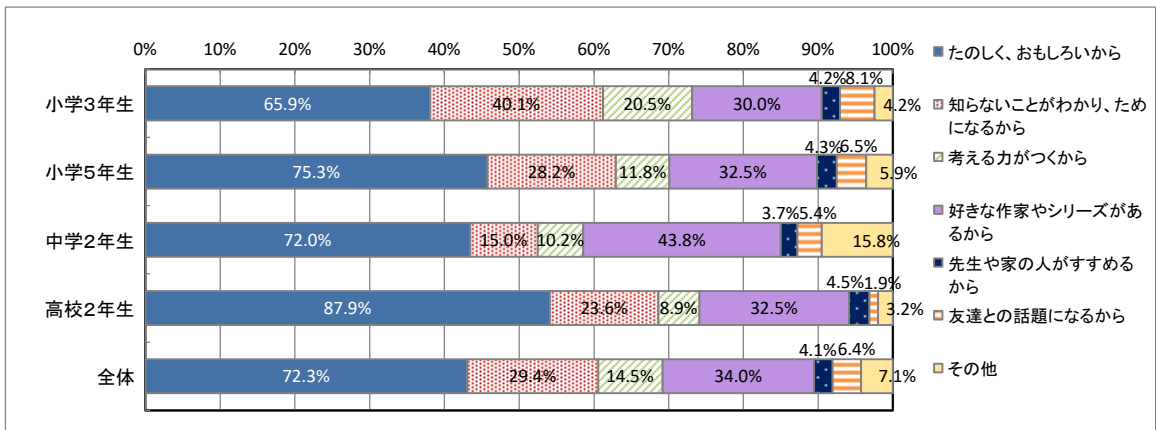
<参考: 前回調査結果>



【問2】で本を「よく読む」「たまに読む」と答えた人】

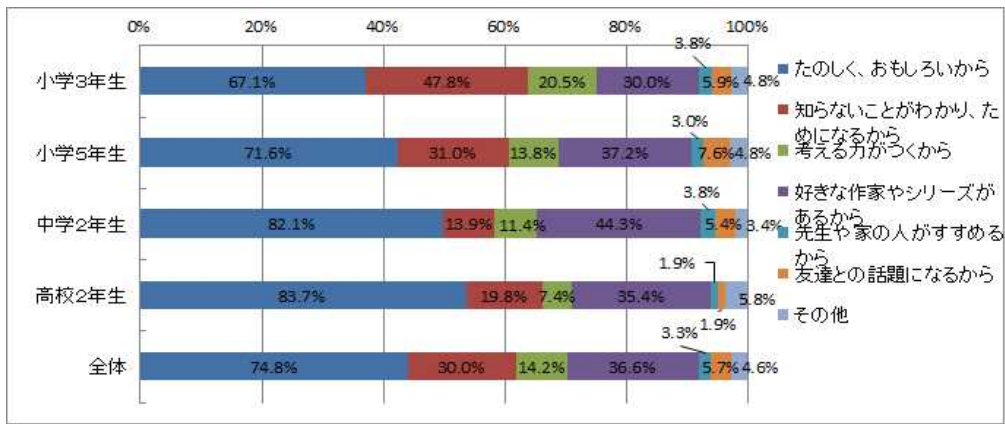
【問2-①】 本を読むのは、どんな理由からですか。(2つまでの複数回答)

	たのしく、おもしろいから	知らないことがわかり、ためになるから	考える力がつくから	好きな作家やシリーズがあるから	先生や家の人がすすめるから	友達との話題になるから	その他	合計	n
小学3年生	408 65.9%	248 40.1%	127 20.5%	186 30.0%	26 4.2%	50 8.1%	26 4.2%	1071	619
小学5年生	384 75.3%	144 28.2%	60 11.8%	166 32.5%	22 4.3%	33 6.5%	30 5.9%	839	510
中学2年生	255 72.0%	53 15.0%	36 10.2%	155 43.8%	13 3.7%	19 5.4%	56 15.8%	587	354
高校2年生	138 87.9%	37 23.6%	14 8.9%	51 32.5%	7 4.5%	3 1.9%	5 3.2%	255	157
全体	1185 72.3%	482 29.4%	237 14.5%	558 34.0%	68 4.1%	105 6.4%	117 7.1%	2752	1640



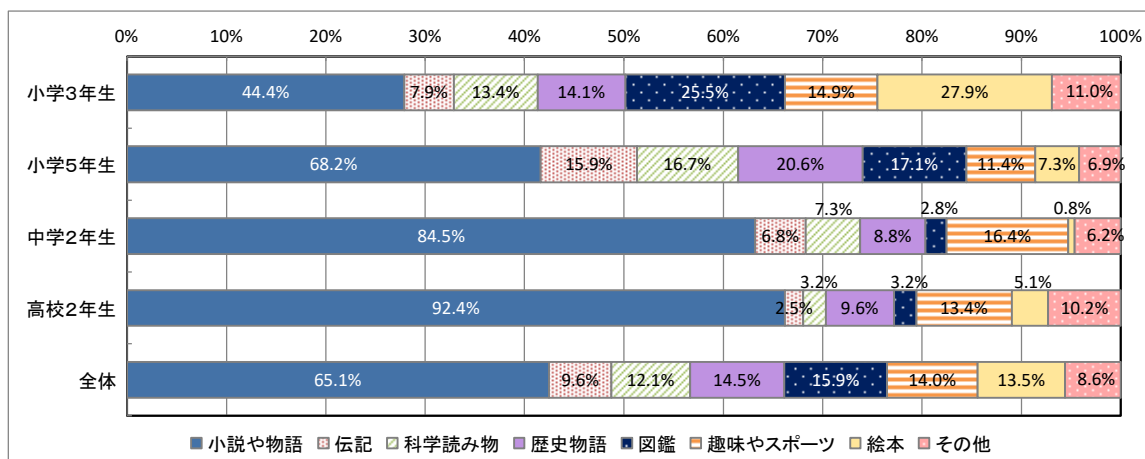
本を読む理由はいずれの学年においても「たのしく、おもしろいから」が最多の回答となっている。学年別に見ると、「知らないことがわかり、ためになるから」「考える力がつくから」は小学3年生、5年生が多く回答し、「好きな作家やシリーズがあるから」は、小学5年生、中学2年生、高校2年生が多く回答している。

<参考: 前回調査結果>



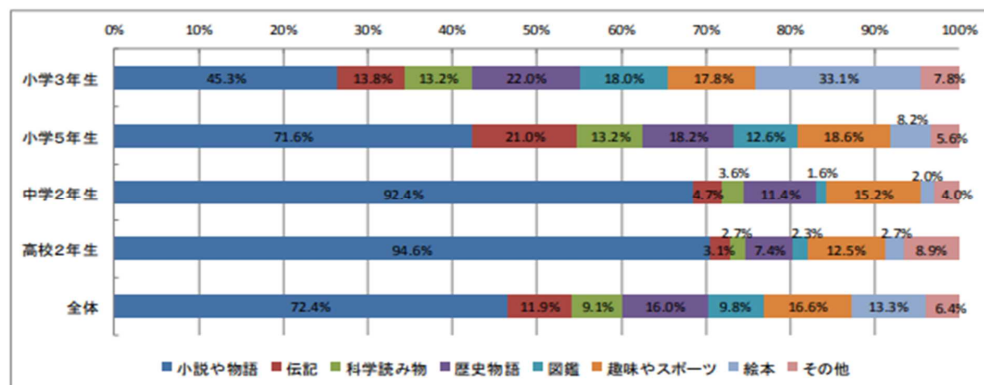
【問2-②】どんな本を読んでいますか。(2つまでの複数回答)

	小説や物語	伝記	科学読み物	歴史物語	図鑑	趣味やスポーツ	絵本	その他	合計	n
小学3年生	275	49	83	87	158	92	173	68	985	619
	44.4%	7.9%	13.4%	14.1%	25.5%	14.9%	27.9%	11.0%		
小学5年生	348	81	85	105	87	58	37	35	836	510
	68.2%	15.9%	16.7%	20.6%	17.1%	11.4%	7.3%	6.9%		
中学2年生	299	24	26	31	10	58	3	22	473	354
	84.5%	6.8%	7.3%	8.8%	2.8%	16.4%	0.8%	6.2%		
高校2年生	145	4	5	15	5	21	8	16	219	157
	92.4%	2.5%	3.2%	9.6%	3.2%	13.4%	5.1%	10.2%		
全体	1067	158	199	238	260	229	221	141	2513	1640
	65.1%	9.6%	12.1%	14.5%	15.9%	14.0%	13.5%	8.6%		



全体を見ると、最も多く読まれている分野は「小説・物語」となっている。学年別に見ると、小学3年生は「小説や物語」と回答した人は他の年代に比べて低くなる(44.4%)ものの、その代わりに「図鑑」と回答した人が25.5%、「絵本」と回答した人が27.9%となっている。高校2年生は「小説・物語」を読む人がほとんどであり、他の分野に関しては全体的に低い傾向がうかがえる。

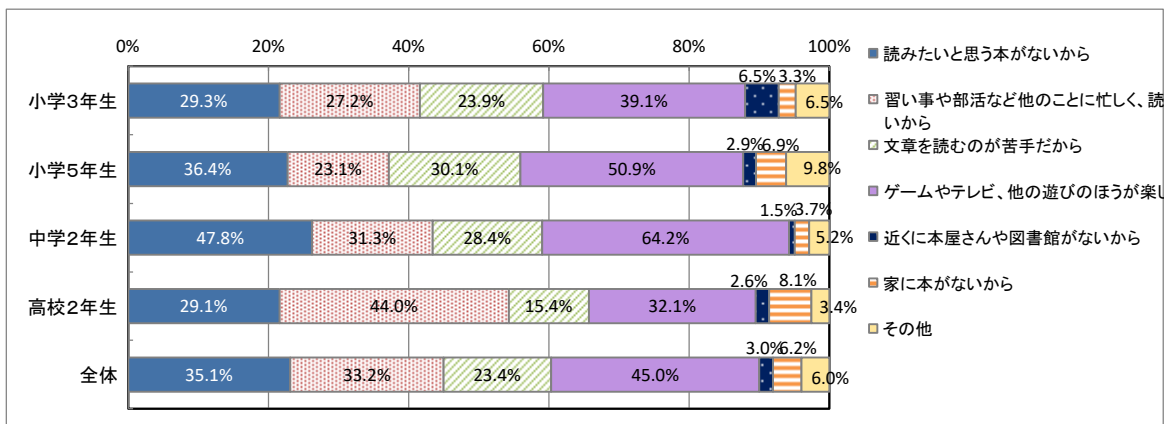
<参考: 前回調査結果>



【問2】で本を「ほとんど読まない」「読まない」と答えた人】

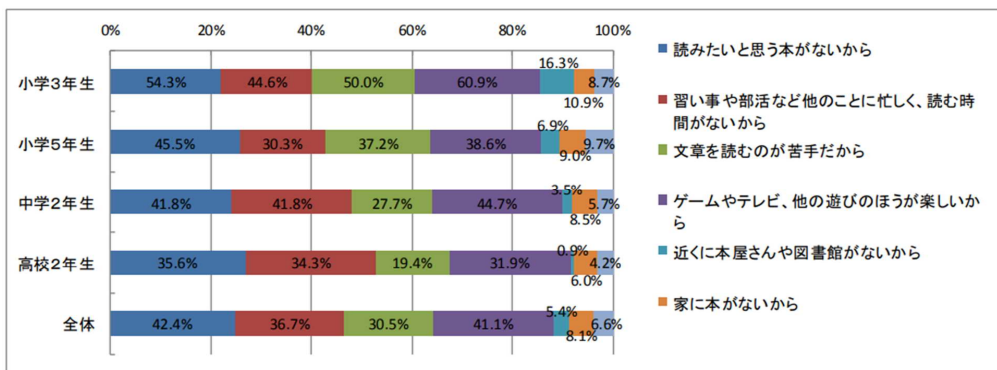
【問2-③】 どの理由からですか。(複数回答)

	読みたいと思 う本がないから	習い事や部活な ど他のことに忙し く、読む時間がな いから	文章を読む のが苦手だ から	ゲームや テレビ、他の 遊びのほう が楽しいから	近くに本屋 さんや図書 館がないから	家に本が ないから	その他	合計	n
小学3年生	27 29.3%	25 27.2%	22 23.9%	36 39.1%	6 6.5%	3 3.3%	6 6.5%	125	92
小学5年生	63 36.4%	40 23.1%	52 30.1%	88 50.9%	5 2.9%	12 6.9%	17 9.8%	277	173
中学2年生	64 47.8%	42 31.3%	38 28.4%	86 64.2%	2 1.5%	5 3.7%	7 5.2%	244	134
高校2年生	68 29.1%	103 44.0%	36 15.4%	75 32.1%	6 2.6%	19 8.1%	8 3.4%	315	234
全体	222 35.1%	210 33.2%	148 23.4%	285 45.0%	19 3.0%	39 6.2%	38 6.0%	961	633



全体を見ると、本を読まない理由は「ゲームやテレビ、他の遊びのほうが楽しいから(45.0%)」が最も多く、次いで「読みたいと思
う本がないから(35.1%)」が多くなっている。
学年別に見ると、「ゲームやテレビ、他の遊びのほうが楽しいから」と回答しているのは小学3年生、小学5年生、中学2年生までは「習い事や部活など他のことに忙しく読む時間が無いから」とする回答より多く選択されているが、高校2年生になると逆転し、「習い事や部活」を本を読まない理由に挙げている人が多くなっている。

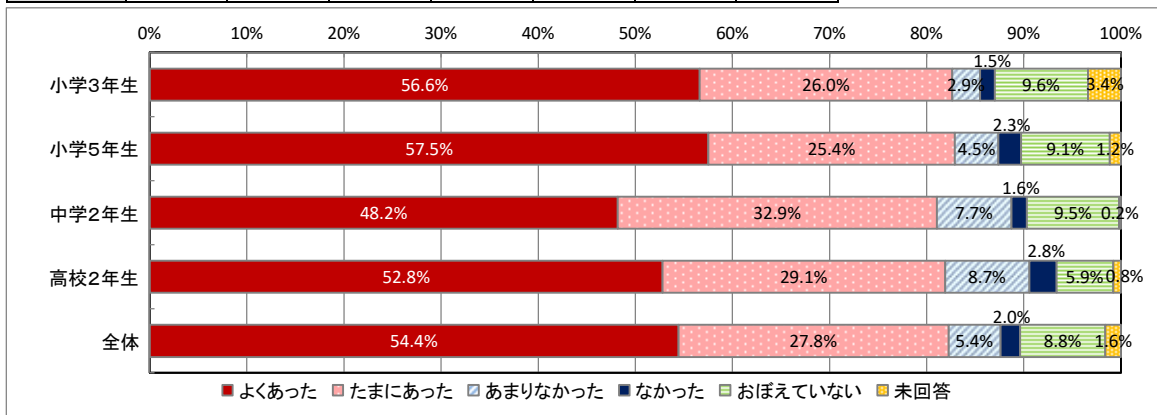
<参考:前回調査結果>



II 読書環境について

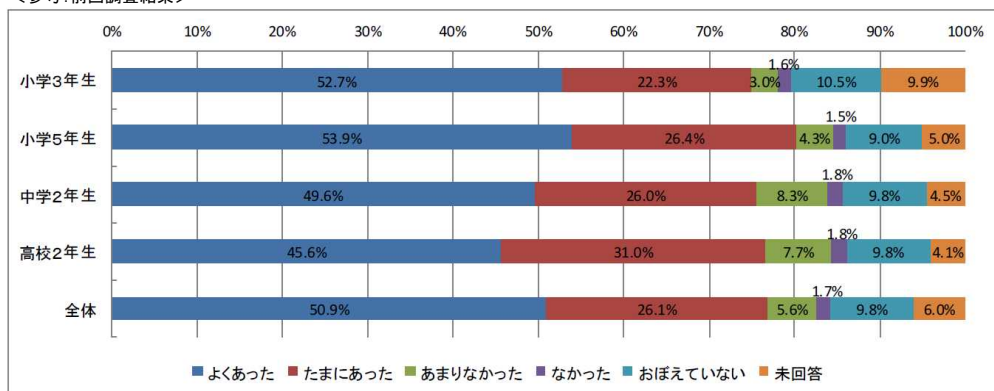
【問3】あなたは小さいとき、本を読んでもらったことがありますか。

	よくあった	たまにあった	あまりなかった	なかった	おぼえていない	未回答	合計
小学3年生	414	190	21	11	70	25	731
	56.6%	26.0%	2.9%	1.5%	9.6%	3.4%	100.0%
小学5年生	397	175	31	16	63	8	690
	57.5%	25.4%	4.5%	2.3%	9.1%	1.2%	100.0%
中学2年生	239	163	38	8	47	1	496
	48.2%	32.9%	7.7%	1.6%	9.5%	0.2%	100.0%
高校2年生	207	114	34	11	23	3	392
	52.8%	29.1%	8.7%	2.8%	5.9%	0.8%	100.0%
全体	1257	642	124	46	203	37	2309
	54.4%	27.8%	5.4%	2.0%	8.8%	1.6%	100.0%



全体としては、54.4%が「よくあった」と回答しており、「たまにあった(27.8%)」と合わせると、82.2%が小さいときに本を読んでもらったと回答していることがわかる。前回調査時は「よくあった」「たまにあった」の割合が77.0%だったので、5.2%増加した。学年別に見ても、「よくあった」「たまにあった」の合計が全ての学年で80%を超えており、多くの児童・生徒が幼少時期に読み聞かせを経験していることが伺える。

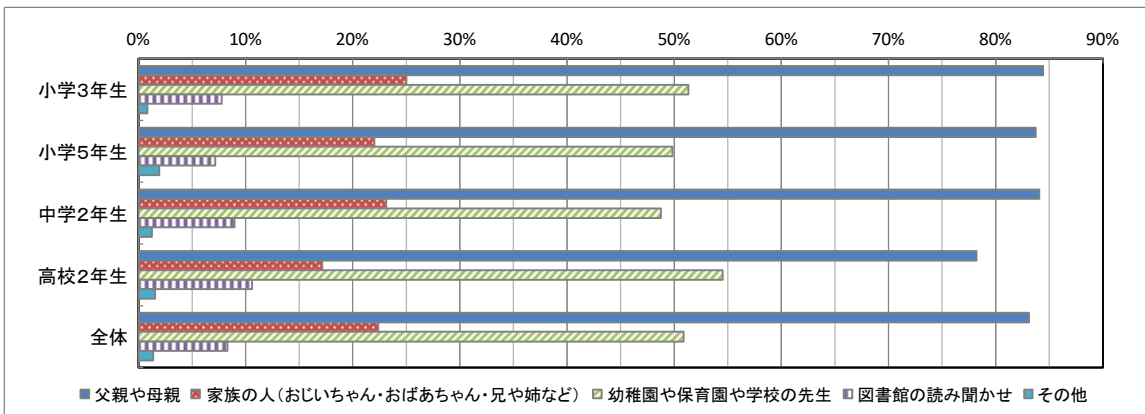
<参考: 前回調査結果>



【問3】で読んでもらったことがあると答えた人】

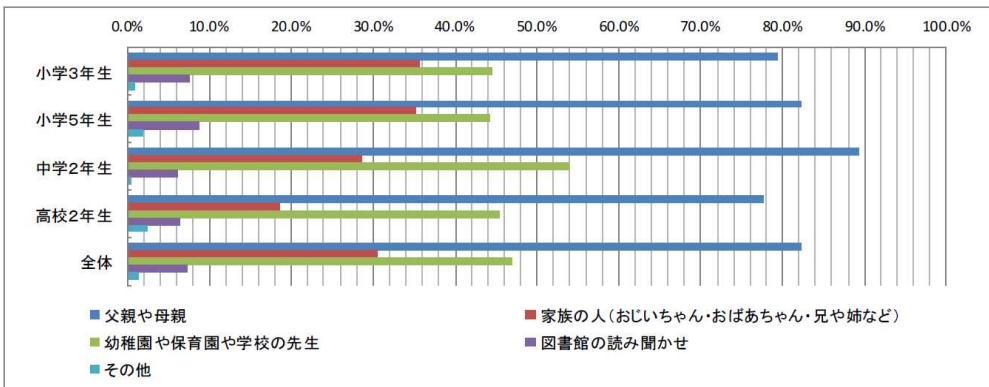
【問3-①】 おもに誰に読んでもらいましたか。(2つまでの複数回答)

	父親や母親	家族の人 (おじいちゃん・おばあちゃん・兄や姉など)	幼稚園や 保育園や 学校の先生	図書館の 読み聞かせ	その他	合計	n
小学3年生	510 84.4%	151 25.0%	310 51.3%	47 7.8%	5 0.8%	1023	604
小学5年生	479 83.7%	126 22.0%	285 49.8%	41 7.2%	11 1.9%	942	572
中学2年生	338 84.1%	93 23.1%	196 48.8%	36 9.0%	5 1.2%	668	402
高校2年生	251 78.2%	55 17.1%	175 54.5%	34 10.6%	5 1.6%	520	321
全体	1578 83.1%	425 22.4%	966 50.9%	158 8.3%	26 1.4%	3153	1899



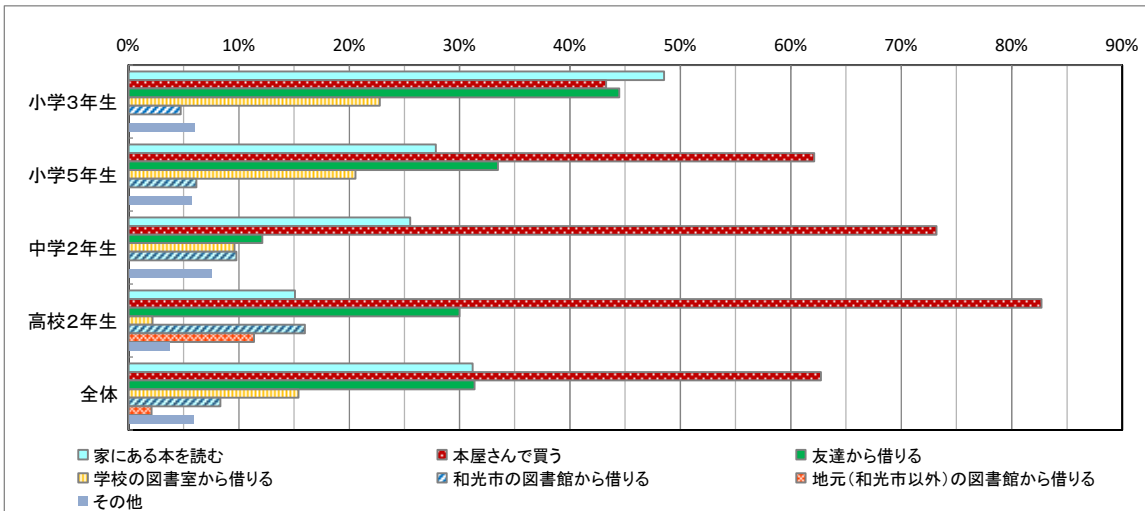
全体を見ると、小さいときに本を読んでくれた人として挙げられているのは「父親や母親」が最も多く、8割以上となっている。次いで「幼稚園や保育園や学校の先生」が50.9%となっており、保育・教育の場での読み聞かせ活動は成長しても記憶・経験として残ることがうかがえる。一方で「図書館の読み聞かせ」と回答した人は8.3%であり、「その他」を除くと最も低い数値となっている。学年別でもおおむね傾向は一致しているが、高校2年生は「父親や母親」、「家族の人(おじいちゃん・おばあちゃん・兄や姉など)」と回答した人の割合が他の年代に比べて低く、「幼稚園や保育園や学校の先生」「図書館の読み聞かせ」と回答した人の割合が他の年代に比べて高い。このことから、高校2年生の幼児時代に比べて、現在の方が家庭内での読み聞かせが定着しつつあるのではないかと推察できる。

<参考: 前回調査結果>



【問4】あなたは読みたいと思う本をどのようにして手に入れていますか。(2つまでの複数回答)

	家にある本を読む	本屋さんで買う	学校の図書室から借りる	和光市の図書館から借りる	友達から借りる	地元(和光市以外)の図書館から借りる	その他	合計	n
小学3年生	360 48.5%	321 43.3%	330 44.5%	169 22.8%	35 4.7%		45 6.1%	1260	742
小学5年生	203 27.8%	453 62.1%	244 33.5%	150 20.6%	45 6.2%		42 5.8%	1137	729
中学2年生	141 25.5%	404 73.2%	67 12.1%	53 9.6%	54 9.8%		42 7.6%	761	552
高校2年生	69 15.1%	378 82.7%	137 30.0%	10 2.2%	73 16.0%	52 11.4%	17 3.7%	736	457
全体	773 31.2%	1556 62.7%	778 31.4%	382 15.4%	207 8.3%	52 2.1%	146 5.9%	3894	2480



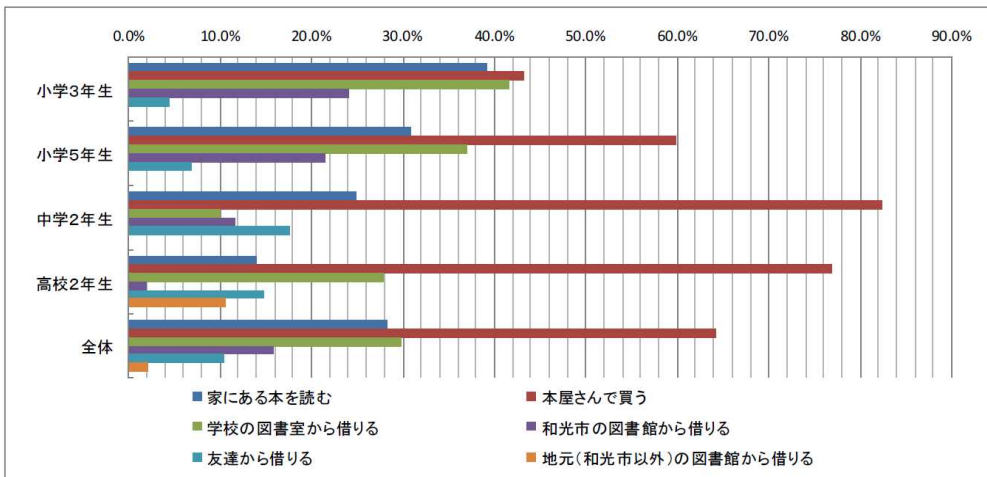
高校2年生は市内在住者とは限らないことを考慮し、高校2年生向けの設問のみ「地元(和光市以外)の図書館から借りる」という項目を追加している。

全体を見ると、本屋さん(書店)で購入すると回答した人の割合が最も高く、62.7%にのぼる。一方で和光市の図書館から借りると答えた人の割合は約15.4%となっている。

学年別に見ると、小学3年生、5年生は学校図書室を多く活用しており、小学3年生が44.5%、小学5年生が33.5%と高くなっている。「和光市の図書館から借りる」と回答した人は、小学3年生、5年生は20%を超えるものの、中学2年生は9.6%、高校2年生は2.2%と低い水準になっているが、高校2年生については、和光市以外の「地元の図書館から借りる」と答えた人が11.4%おり、公共図書館を全く利用していないというわけではない。

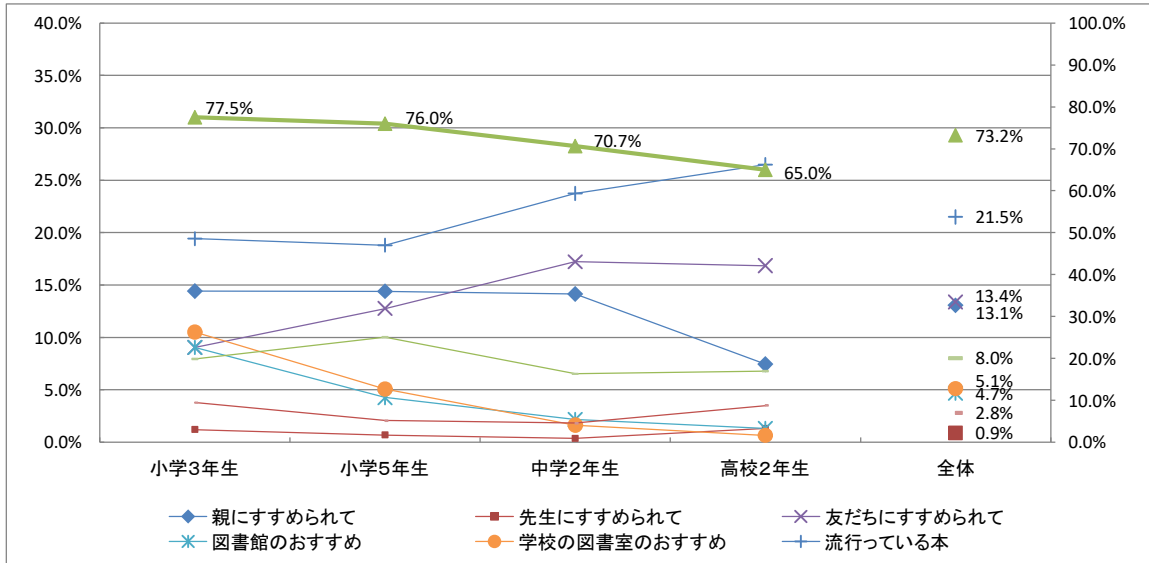
「その他」の回答に注目すると、小学3年生、5年生では本を入手する場として「学童クラブ」を挙げる児童が複数いた。また、前回の調査ではほとんど見られなかった回答として、全学年で「インターネットショッピングで本を買う」、「インターネットを使って電子書籍を購入してタブレットやスマートフォンで読む」といった回答が多数あった。そういった回答は年齢が上がるに従って増加し、中学2年生、高校2年生では無料の電子書籍を読むという回答も複数見られた。前回調査からのこの5年で電子書籍が急速に世の中に浸透し、読書を巡る環境がいかにか多様化したかがアンケート結果から見て取れる。そして時代の流れに臆せず、児童・生徒たちが工夫しながらさまざまな形で読書していることもわかった。

<参考: 前回調査結果>



【問5】あなたが読む本は、どのようにして選んでいますか。(2つまでの複数回答)

	親に すすめ られて	先生に すすめ られて	自分で さがして	友だちに すすめ られて	図書館の おすすめ	学校の 図書室の おすすめ	流行って いる本	課題図書	その他	合計	n
小学3年生	107 14.4%	9 1.2%	575 77.5%	67 9.0%	67 9.0%	78 10.5%	144 19.4%	28 3.8%	59 8.0%	1134	742
小学5年生	105 14.4%	5 0.7%	554 76.0%	93 12.8%	31 4.3%	37 5.1%	137 18.8%	15 2.1%	73 10.0%	1050	729
中学2年生	78 14.1%	2 0.4%	390 70.7%	95 17.2%	12 2.2%	9 1.6%	131 23.7%	10 1.8%	36 6.5%	763	552
高校2年生	34 7.4%	6 1.3%	297 65.0%	77 16.8%	6 1.3%	3 0.7%	121 26.5%	16 3.5%	31 6.8%	591	457
全体	324 13.1%	22 0.9%	1816 73.2%	332 13.4%	116 4.7%	127 5.1%	533 21.5%	69 2.8%	199 8.0%	3538	2480

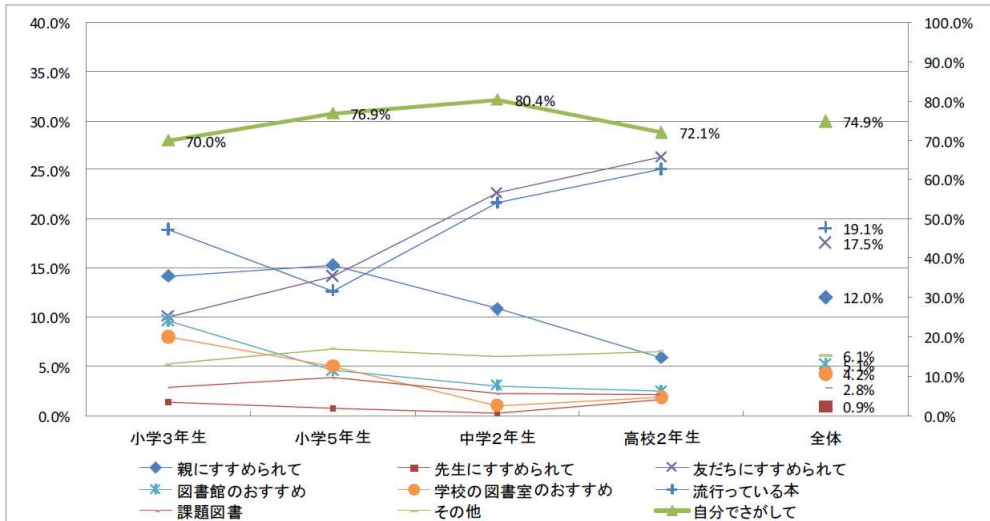


全体を見ると、本の選び方については前回同様に「自分でさがして」が約75%と圧倒的に多い。前回調査では、次に「友達にすすめられて」「流行っている本」と続いたが、今回の調査では「流行っている本」の割合が「友達にすすめられて」を上回った。インターネットやSNSの発達、児童・生徒の情報端末保有率の上昇等により、児童・生徒が直接情報に触れ、流行を知ることができるようになったことが原因ではないかと推測される。

学年別に見ると、「図書館のおすすめ」「学校図書室のおすすめ」と答えた割合は、小学3年生では「友達にすすめられて」と拮抗しているが、学年が上がるとその比重は下がる傾向にある。一方で、「友達にすすめられて」や「流行っている本」と答える人の割合は学年が上がると連れて高くなり、本が友人同士を媒介する一つのコミュニケーション要素となり得ることがわかる。

「その他」の回答に注目すると、小学3年生、5年生では好きな「ゲーム」や「マンガ」が、中学2年生、高校2年生では「SNSや動画配信サイト等のインターネットやテレビで紹介されたもの」や「映画の原作小説」などが、それぞれ読書のきっかけになっているケースが多いことがわかる。そのようなメディアが児童・生徒の重要な情報源にはなっている一方で、本屋で直接本を手にとって選ぶという回答もまだまだ多く、本の選び方も多様化していることがわかる。

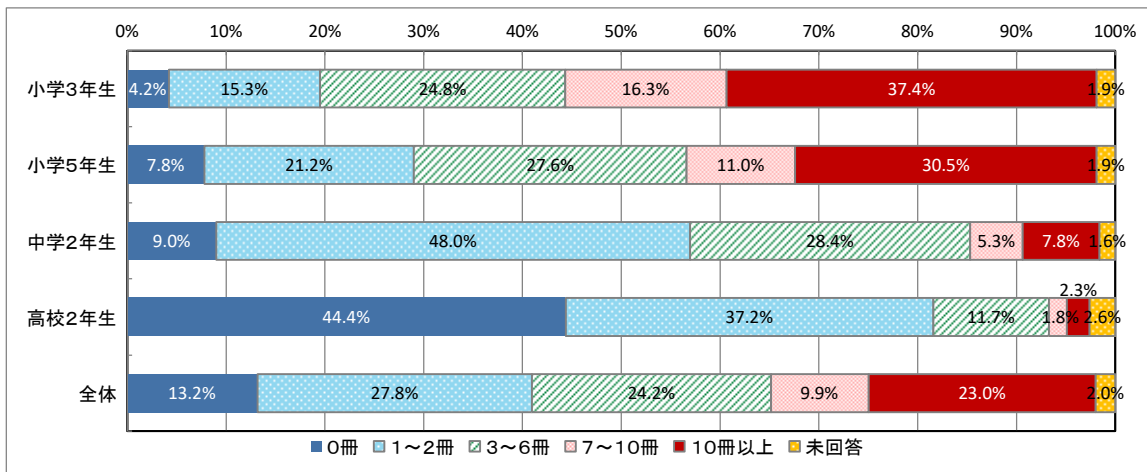
<参考: 前回調査結果>



IV ひと月の読書量について

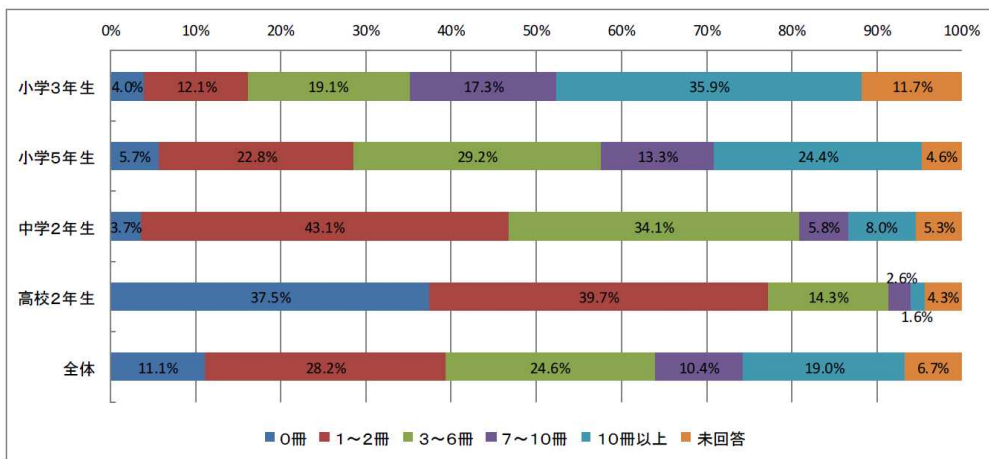
【問6】 今年の5月中に何冊ぐらいの本を読みましたか。(読み途中でも1冊と数える)

	0冊	1～2冊	3～6冊	7～10冊	10冊以上	未回答	合計
小学3年生	31	112	181	119	273	14	730
	4.2%	15.3%	24.8%	16.3%	37.4%	1.9%	100.0%
小学5年生	54	146	190	76	210	13	689
	7.8%	21.2%	27.6%	11.0%	30.5%	1.9%	100.0%
中学2年生	44	235	139	26	38	8	490
	9.0%	48.0%	28.4%	5.3%	7.8%	1.6%	100.0%
高校2年生	174	146	46	7	9	10	392
	44.4%	37.2%	11.7%	1.8%	2.3%	2.6%	100.0%
全体	303	639	556	228	530	45	2301
	13.2%	27.8%	24.2%	9.9%	23.0%	2.0%	100.0%



全体を見ると、5月中の1か月間において8割以上の方が1冊以上の本を読んでいるということが出来る。学年別に見ると、小学3年生は37.4%の人が10冊以上の本を読んでいると回答しており、小学5年生の30.5%とともに小学生では多くの児童が本をたくさん読んでいることが分かる。しかし中学2年生になってくると本を読む冊数はぐんと減っていき、10冊以上の本を読んでいると回答した中学2年生は7.8%にまで落ち込み、高校2年生になると実に2.3%までになる。学年があがるにつれて本を読む冊数が減っていき、高校2年生では「0冊」が44.4%となっている。

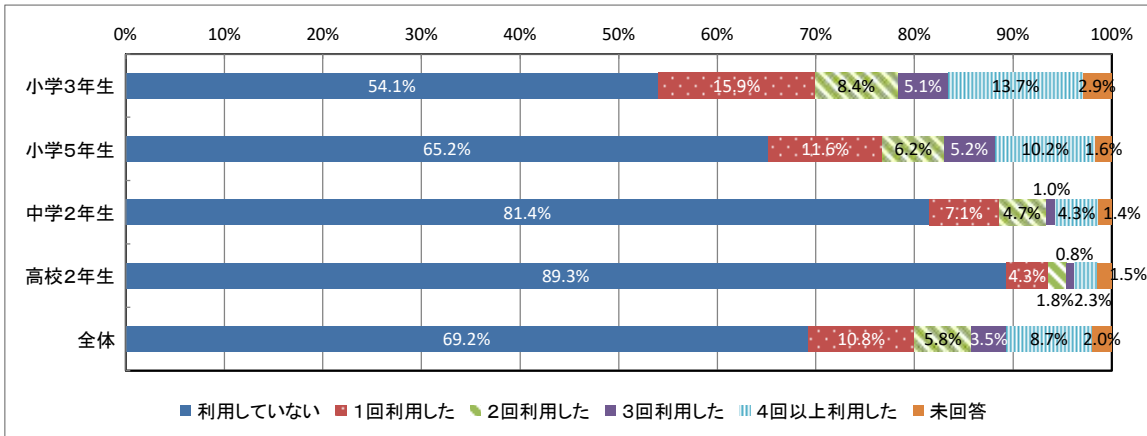
<参考: 前回調査結果>



V 和光市立図書館の利用状況

【問7】あなたは、5月中に和光市図書館、下新倉分館、南公民館図書室、坂下公民館図書室、中央公民館図書室を何回利用しましたか。

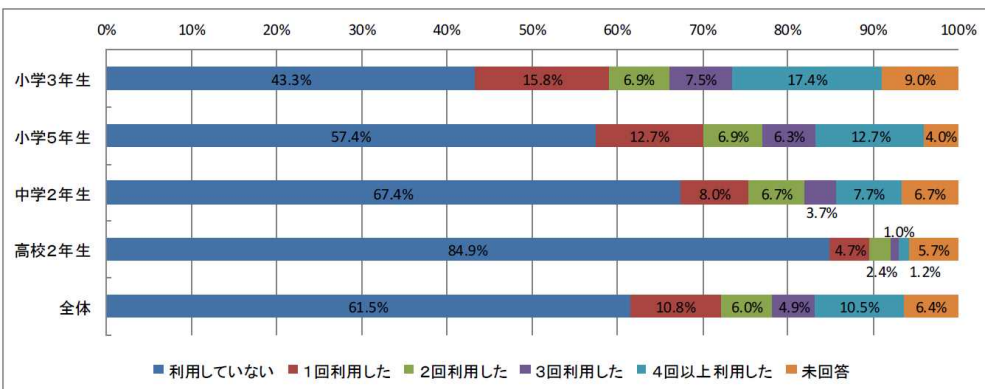
	利用していない	1回利用した	2回利用した	3回利用した	4回以上利用した	未回答	合計
小学3年生	395	116	61	37	100	21	730
	54.1%	15.9%	8.4%	5.1%	13.7%	2.9%	100.0%
小学5年生	449	80	43	36	70	11	689
	65.2%	11.6%	6.2%	5.2%	10.2%	1.6%	100.0%
中学2年生	399	35	23	5	21	7	490
	81.4%	7.1%	4.7%	1.0%	4.3%	1.4%	100.0%
高校2年生	350	17	7	3	9	6	392
	89.3%	4.3%	1.8%	0.8%	2.3%	1.5%	100.0%
全体	1593	248	134	81	200	45	2301
	69.2%	10.8%	5.8%	3.5%	8.7%	2.0%	100.0%



全体を見ると、5月中の1か月間において7割近くの人、中学2年生、高校2年生になると実に8割以上の方が和光市内の図書館・図書室を利用していないことがわかる。一方で、全体の約3割近くの方が1回以上は利用しており、中でも4回以上利用している人は8.7%いることがわかる。

学年別に見ると、年代があがるにつれて図書館を利用しない傾向が見受けられ、中学2年生は81.4%、高校2年生になると89.3%が利用していないと回答している。中学生、高校生になると行動範囲が広がり、隣接する市(朝霞市)や都内の図書館(練馬区や板橋区)等、和光市以外の図書館を利用していることも一因と考えられる。

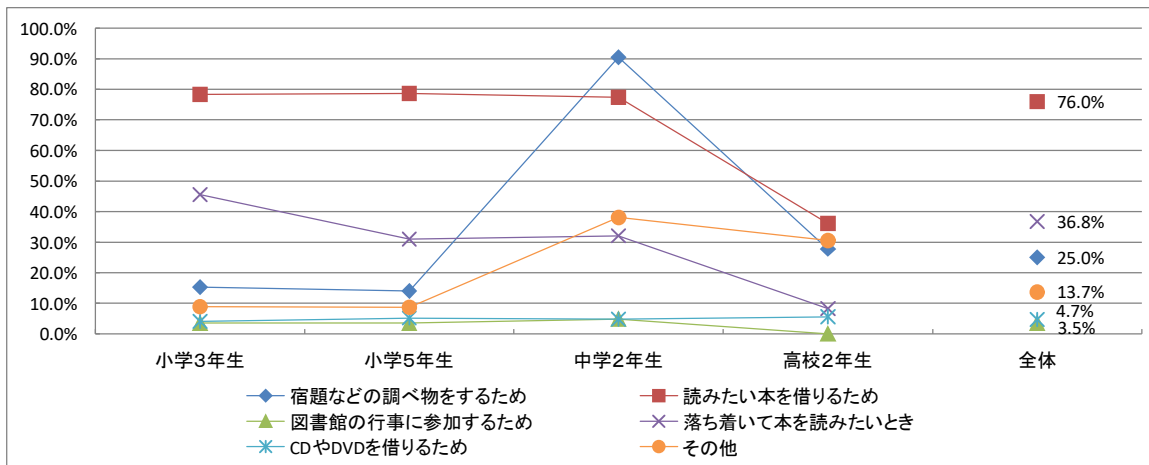
<参考: 前回調査結果>



【問7】で利用したと答えた人】

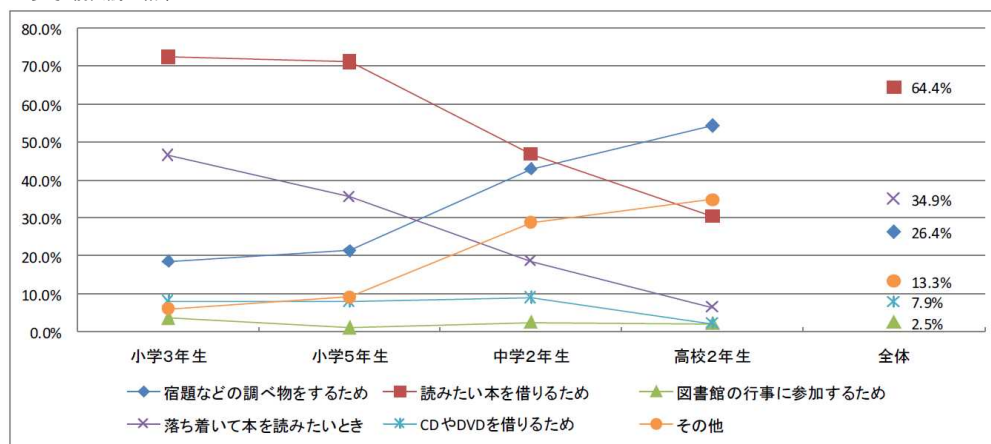
【問7-①】 どんなどきに利用しますか。(2つまでの複数回答)

	宿題などの調べ物をするため	読みたい本を借りるため	図書館の行事に参加するため	落ち着いて本を読みたいとき	CDやDVDを借りるため	その他	未回答	合計	n
小学3年生	48 15.3%	246 78.3%	11 3.5%	143 45.5%	13 4.1%	28 8.9%	14 4.5%	503	314
小学5年生	32 14.0%	180 78.6%	8 3.5%	71 31.0%	12 5.2%	20 8.7%	13 5.7%	336	229
中学2年生	76 90.5%	65 77.4%	4 4.8%	27 32.1%	4 4.8%	32 38.1%	11 13.1%	219	84
高校2年生	10 27.8%	13 36.1%	0 0.0%	3 8.3%	2 5.6%	11 30.6%	7 19.4%	46	36
全体	166 25.0%	504 76.0%	23 3.5%	244 36.8%	31 4.7%	91 13.7%	45 6.8%	1059	663



図書館を利用する理由として、「読みたい本を借りるため」と回答した人は小学3年生、5年生と中学2年生では7割を超えているのに対し、高校2年生では36.1%と割合が下がっている。同様に「落ち着いて本を読みたいとき」という回答も小学3年生では4割、小学5年生と中学2年生では3割ほどなのだが、高校2年生では8.3%とぐんと下がっている。「その他」での小学3年生、5年生の回答で一番多かったのが「ひまつぶし」次が「ママに連れられて」、中学2年生、高校2年生で一番多かった回答が「テスト勉強」だった。

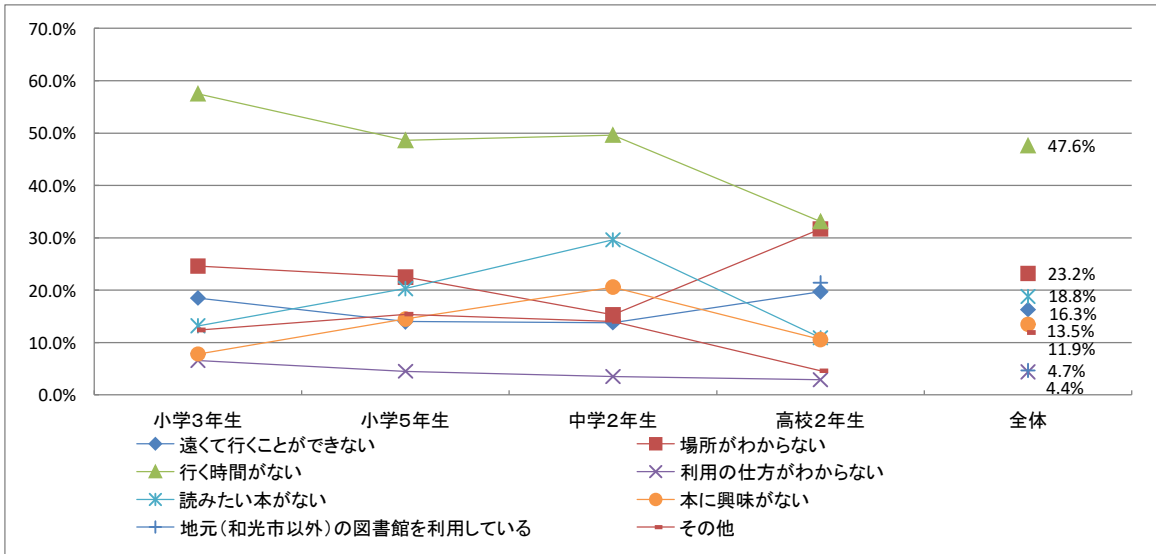
<参考: 前回調査結果>



【問7】で利用していないと答えた人】

【問7-②】和光市内の図書館を利用しないのは、どんな理由からですか。(2つまでの複数回答)

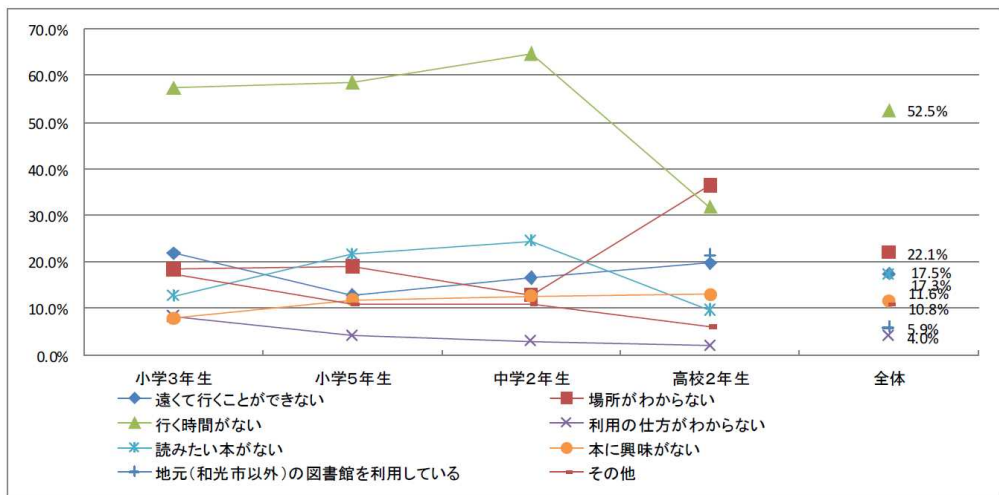
	遠くに行くことができない	場所がわからない	行く時間がない	利用の仕方がわからない	読みたい本がない	本に興味がない	地元(和光市以外)の図書館を利用している	その他	未回答	合計	n
小学3年生	73 18.5%	97 24.6%	227 57.5%	26 6.6%	52 13.2%	31 7.8%		49 12.4%	20 5.1%	575	395
小学5年生	63 14.0%	101 22.5%	218 48.6%	20 4.5%	91 20.3%	65 14.5%		69 15.4%	22 4.9%	649	449
中学2年生	55 13.8%	61 15.3%	198 49.6%	14 3.5%	118 29.6%	82 20.6%		56 14.0%	16 4.0%	600	399
高校2年生	69 19.7%	111 31.7%	116 33.1%	10 2.9%	38 10.9%	37 10.6%	75 21.4%	22 6.3%	38 10.9%	516	350
全体	260 16.3%	370 23.2%	759 47.6%	70 4.4%	299 18.8%	215 13.5%	75 4.7%	196 12.3%	96 6.0%	2340	1593



高校生は市内在住者とは限らないことを考慮し、高校2年生向けの設問のみ「地元(和光市以外)の図書館を利用している」という項目を追加した結果、75件もの回答が得られた。具体的な内容として「近所の図書館に行く」「学校図書館で満足している」という意見があった。

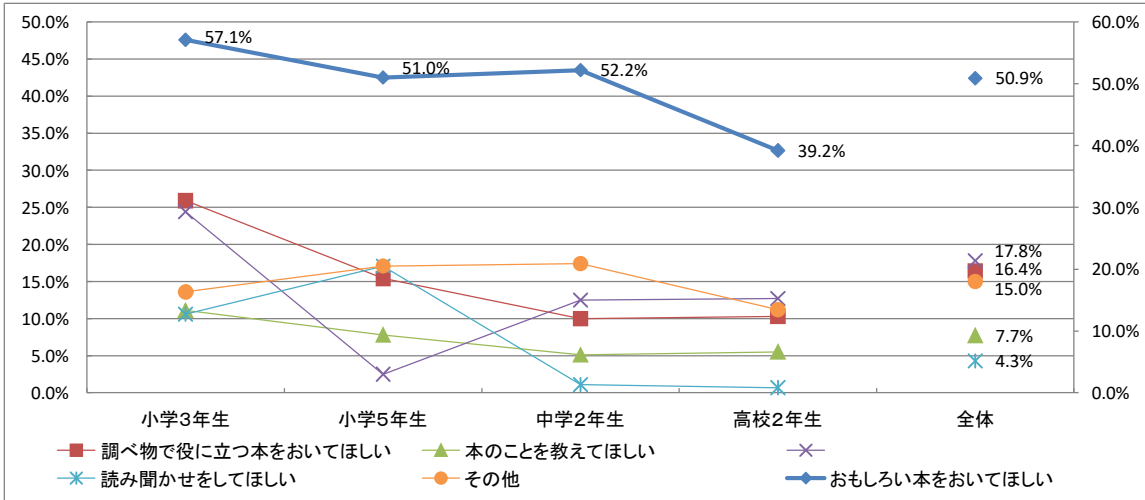
全体的な傾向としては「行く時間がない」という回答が一番多く、全体の47.6%となっていた。2番目に多い回答として「場所がわからない」23.2%となっている。「その他」の意見としては「行くのがめんどくさい」「期限付きなのがいや」「本は本屋で買う・ネットで買う」「知らない人が読んだ本を読みたくない(なにをしているかわからないから)」「YouTube・ゲームのほうが楽しいから」等の意見があった。また小学3年生、5年生の意見で多かったのが「なります図書館に行く」「ひかりが丘図書館に行く」という意見で「そちらのほうが本も多くて使いやすいから」という理由だった。

<参考:前回調査結果>



【問8】和光市図書館に希望することはなんですか。

	おもしろい本をおいてほしい	調べ物で役に立つ本をおいてほしい	本のことを教えてほしい	いつも開いていてほしい	読み聞かせをしてほしい	その他	未回答	合計	n
小学3年生	424 57.1%	192 25.9%	82 11.1%	181 24.4%	79 10.6%	101 13.6%	25 3.4%	1084	742
小学5年生	372 51.0%	112 15.4%	57 7.8%	133 18.2%	18 2.5%	125 17.1%	26 3.6%	843	729
中学2年生	288 52.2%	55 10.0%	28 5.1%	69 12.5%	6 1.1%	96 17.4%	22 4.0%	564	552
高校2年生	179 39.2%	47 10.3%	25 5.5%	58 12.7%	3 0.7%	51 11.2%	41 9.0%	404	457
全体	1263 50.9%	406 16.4%	192 7.7%	441 17.8%	106 4.3%	373 15.0%	114 4.6%	2895	2480

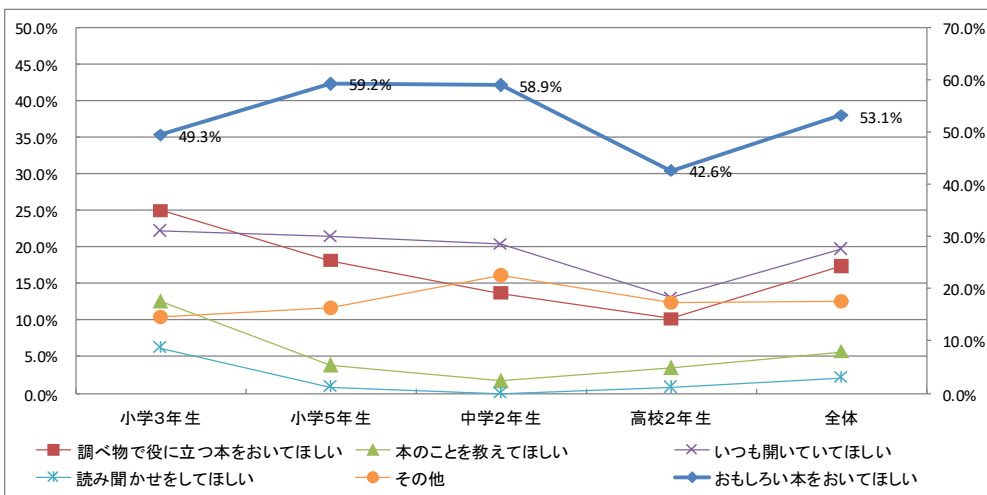


全体を見ると、図書館には「おもしろい本をおいてほしい」という希望が5割を超えて最多となっている。次いで「いつも開いていてほしい」が17.8%、「調べもので役に立つ本をおいてほしい」が16.4%となっている。

「その他」での意見では小学3年生、5年生では「怖い本を置いてほしい」「アニメの本を置いてほしい」「歴史や伝記の本を置いてほしい」「漫画をもっと増やしてほしい」等、所蔵内容についての意見が多かったが、中学2年生、高校2年生になってくると「流行りの本をもっと入れてほしい」という意見のほか「席を増やしてほしい」「自習コーナーを作ってほしい」「飲食可能にしてほしい」等の、図書館の運営に関する意見が多かった。

また「その他」で「特になし」と書いた人は小学3年生、5年生では21件、中学2年生では48件、高校2年生では30件にのぼった。「行かないのでとくにないです。」(原文ママ)という意見もあった。

<参考: 前回調査結果>



4 「第4次和光市子ども読書活動推進計画等の策定に伴うアンケート調査」 結果概要

「第4次和光市子ども読書推進活動計画」を策定するための基礎資料として、市内の各公共施設を対象に「読書活動についてのアンケート」調査を行いました。調査の概要、各質問及び回答内容は次のとおりです。

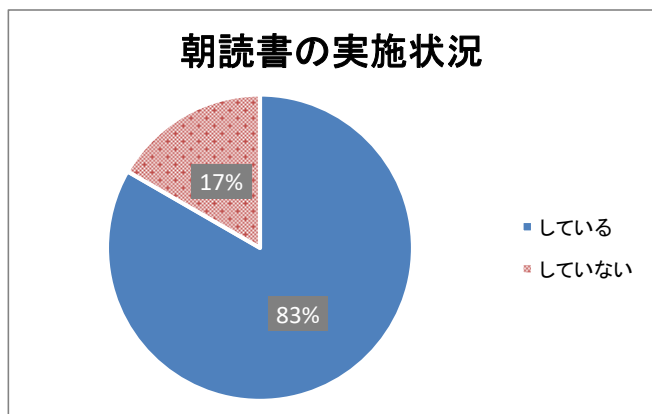
- 調査時期 令和4年5月26日～6月30日
- 調査対象 市内学校・公共施設64施設(回答数:58施設)
(小中学校12校、高等学校2校、特別支援学校2校、児童センター(館)4館、子育て世代包括支援センター5館、学童クラブ15施設、保育園19施設、幼稚園5施設)

アンケート回答結果のグラフ集計(小・中学校)

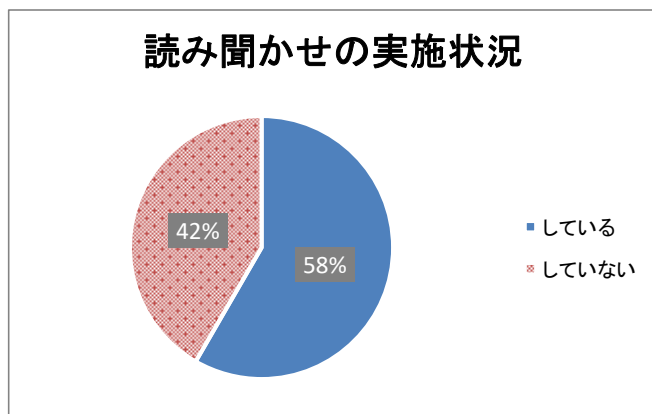
(全12校回答:小学校9, 中学校3)
※は複数回答可

I 読書活動について

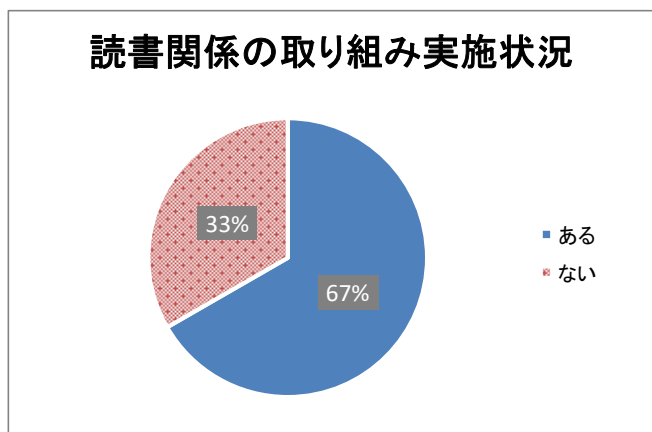
I-1.朝読書を実施していますか	集計
している	10
していない	2



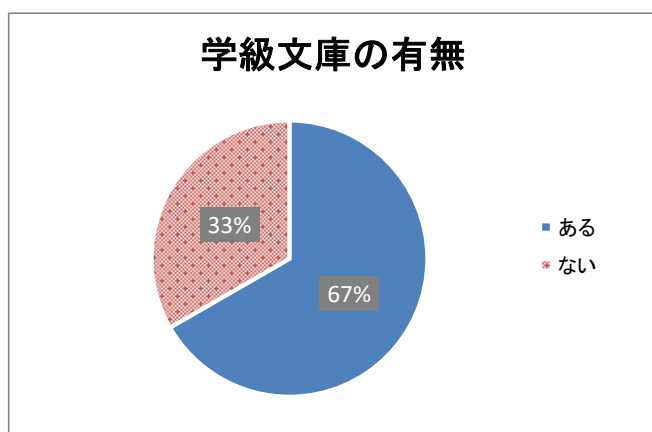
I-2.読み聞かせを実施していますか	集計
している	7
していない	5



I-3.読書関係の取り組みをしていますか	集計
ある	8
ない	4



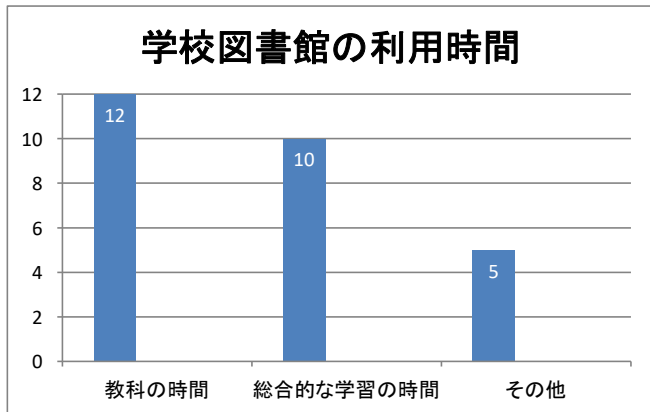
I-4.学級に本がありますか	集計
ある	8
ない	4



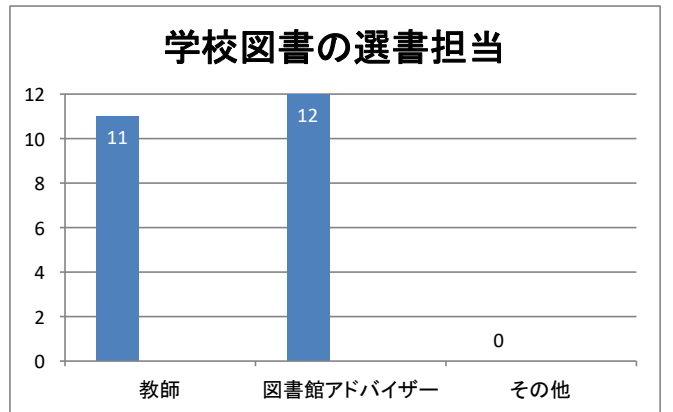
Ⅱ 学校図書館の活用などについて

※は複数回答可

Ⅱ-1.学校図書館の利用時間※	集計
教科の時間	12
総合的な学習の時間	10
その他	5

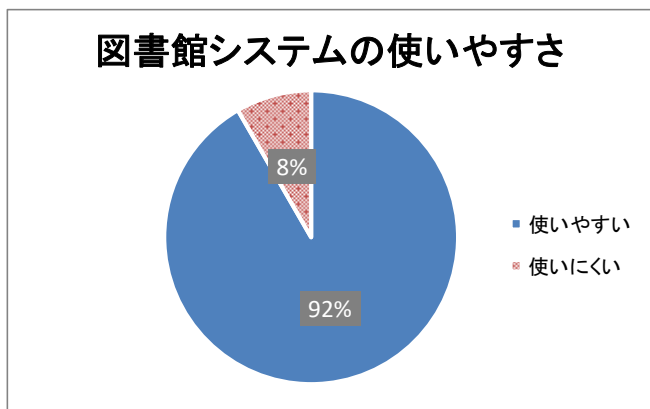


Ⅱ-2.学校図書の選書は誰がしていますか※	集計
教師	11
図書館アドバイザー	12
その他	0

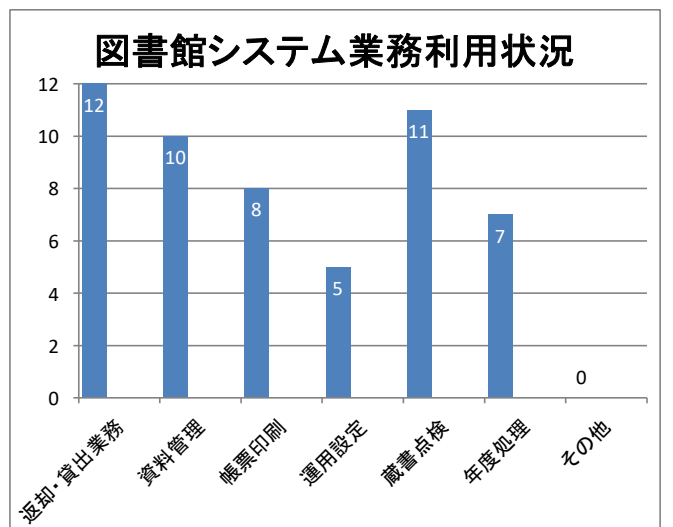


Ⅲ 学校図書館システムについて

Ⅲ-1.図書館システムは使いやすいですか	集計
使いやすい	11
使いにくい	1



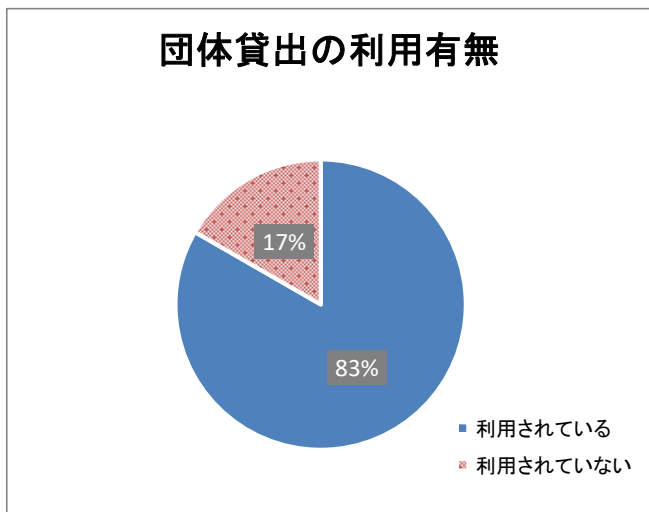
Ⅲ-2.図書館システムにて利用している業務※	集計
返却・貸出業務	12
資料管理	10
帳票印刷	8
運用設定	5
蔵書点検	11
年度処理	7
その他	0



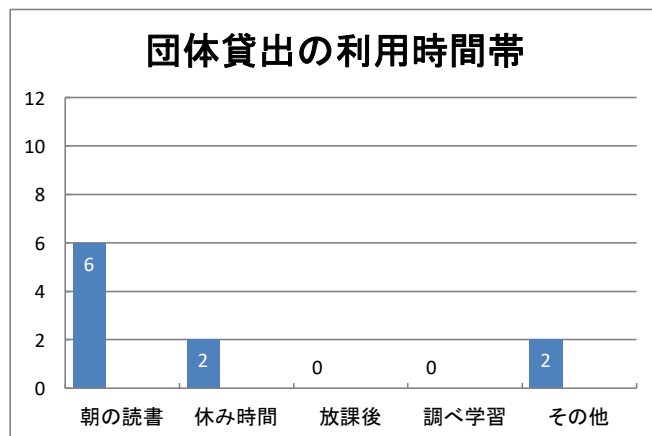
IV 図書館事業について

※は複数回答可

IV-1.団体貸出の本は利用されていますか	集計
利用されている	10
利用されていない	2

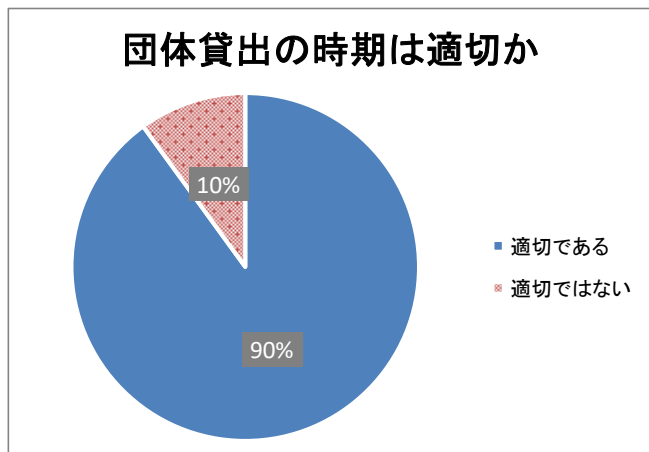


IV-2.団体貸出本の利用時間※	集計
朝の読書	6
休み時間	2
放課後	0
調べ学習	0
その他	2



※団体貸出の利用がある施設のみの集計

IV-3.団体貸出の時期は適切ですか	集計
適切である	9
適切ではない	1

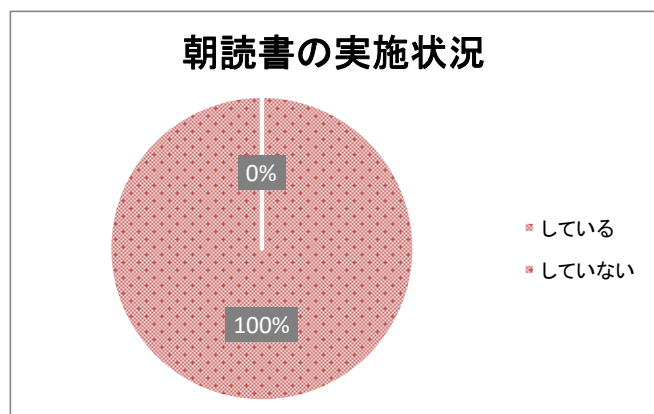


※団体貸出の利用がある施設のみの集計

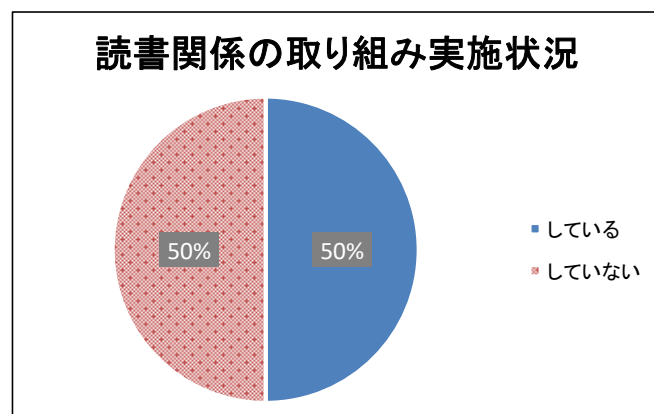
アンケート回答結果のグラフ集計(高等学校・特別支援学校)

(全4校回答:高校2, 特別支援学校2)
※は複数回答可

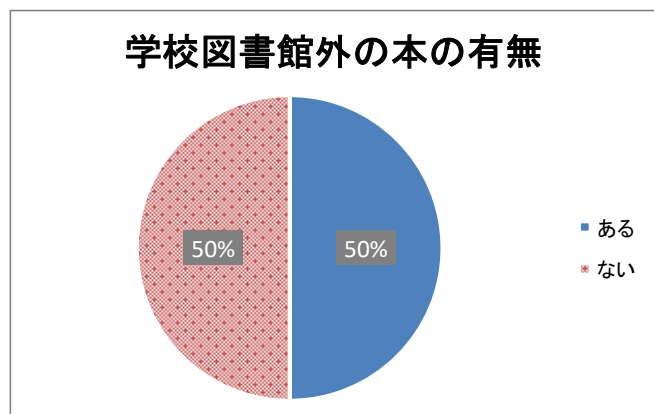
I-1.朝読書を実施していますか	集計
している	0
していない	4



I-2.読書関係の取り組みをしていますか	集計
している	2
していない	2

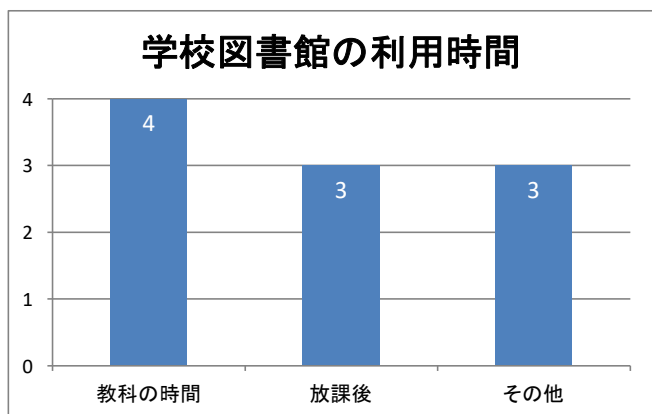


I-3.学校図書館以外に本がありますか	集計
ある	2
ない	2

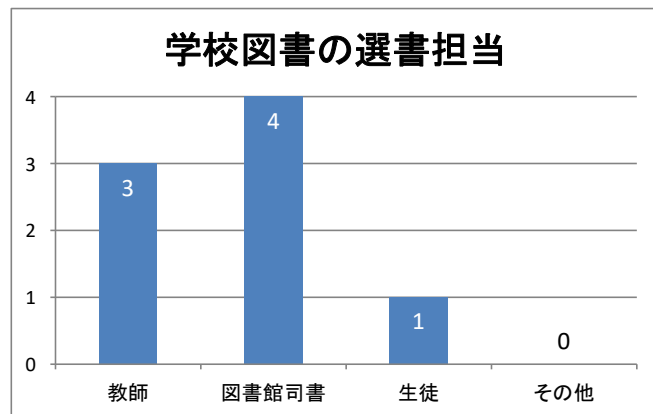


※は複数回答可

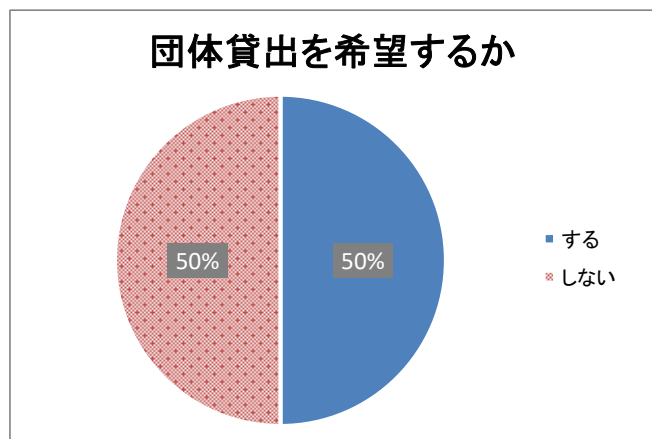
Ⅱ-1.学校図書館の利用時間※	集計
教科の時間	4
放課後	3
その他	3



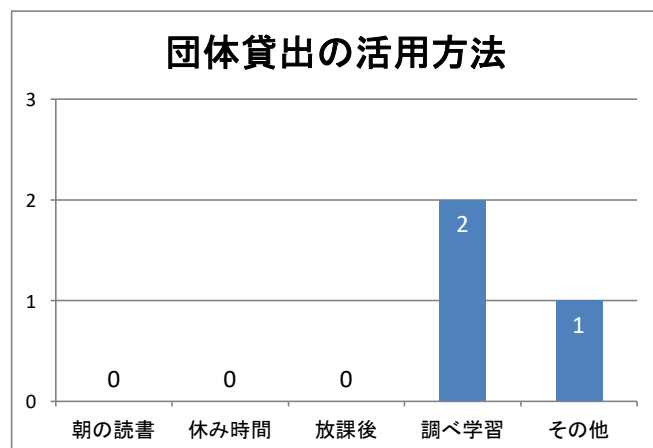
Ⅱ-2.学校図書館の選書担当※	集計
教師	3
図書館司書	4
生徒	1
その他	0



Ⅲ-1.団体貸出を希望するします	集計
する	2
しない	2



Ⅲ-2.団体貸出の活用方法※	集計
朝の読書	0
休み時間	0
放課後	0
調べ学習	2
その他	1

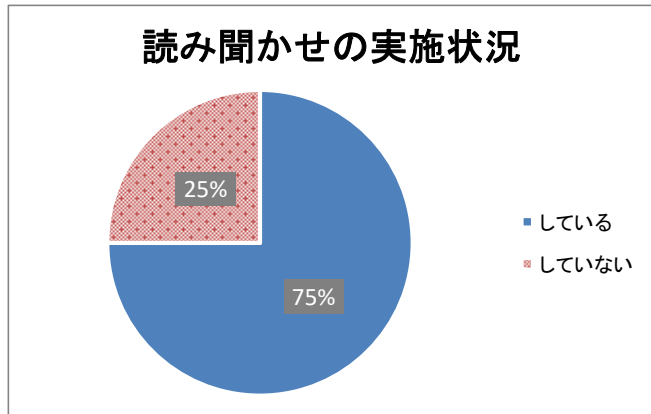


※団体貸出の利用がある施設のみの集計

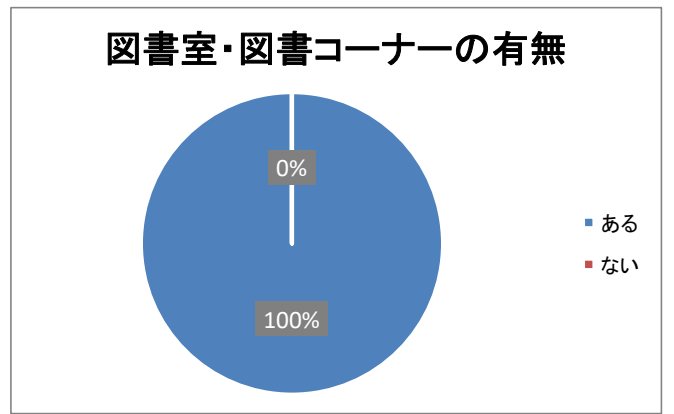
アンケート回答結果のグラフ集計(児童センター・児童館)

(全4館回答)

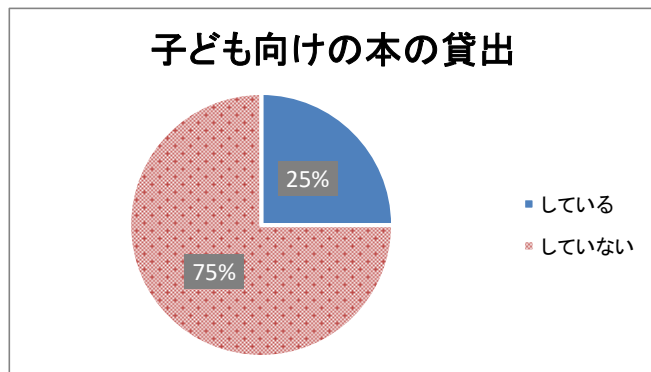
1.読み聞かせを実施していますか	集計
している	3
していない	1



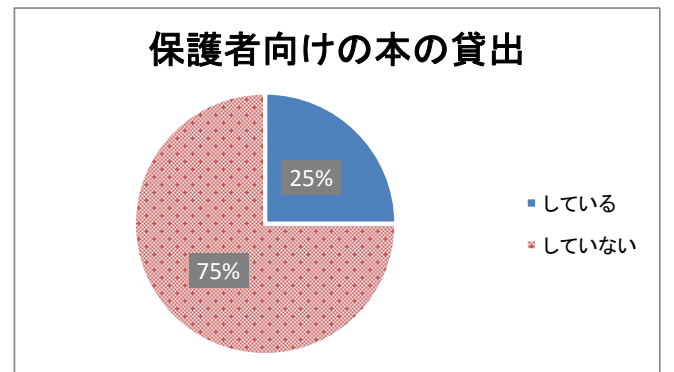
2.図書室・図書コーナーはありますか	集計
ある	4
ない	0



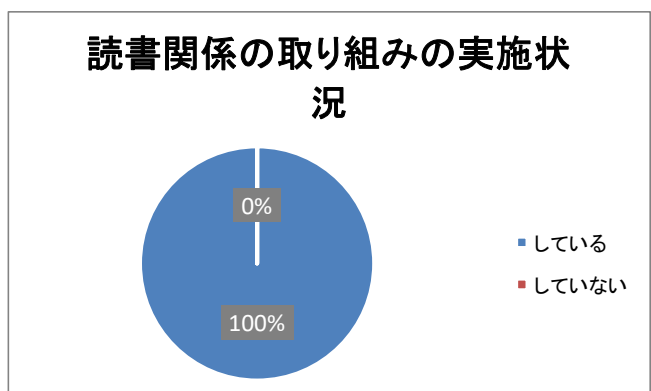
Ⅱ-3.子ども向けの本の貸出実施状況	集計
している	1
していない	3



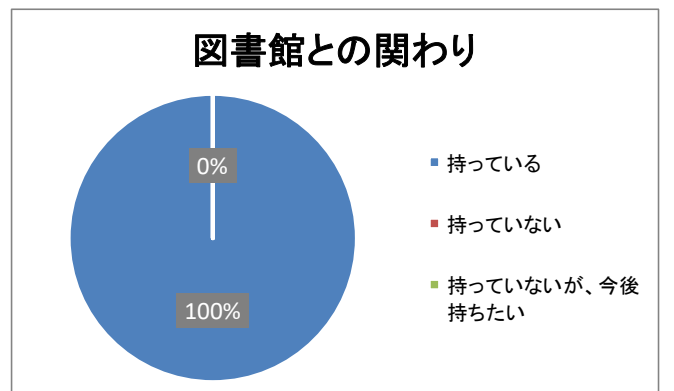
Ⅱ-4.保護者向けの本の貸出実施状況	集計
している	1
していない	3



3.読書関係の取り組みをしていますか	集計
している	4
していない	0



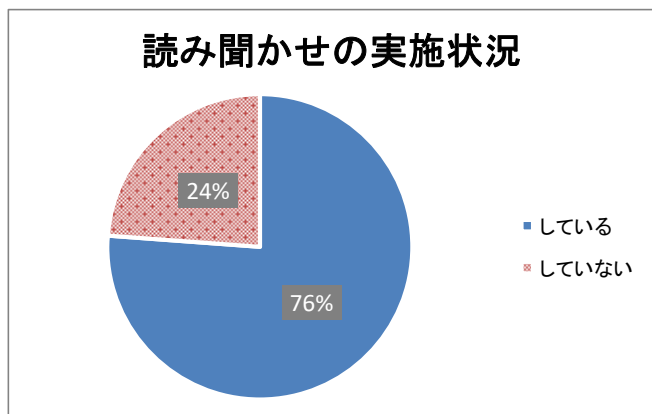
4.図書館との関わりはありますか	集計
持っている	4
持っていない	0
持っていないが、今後持ちたい	0



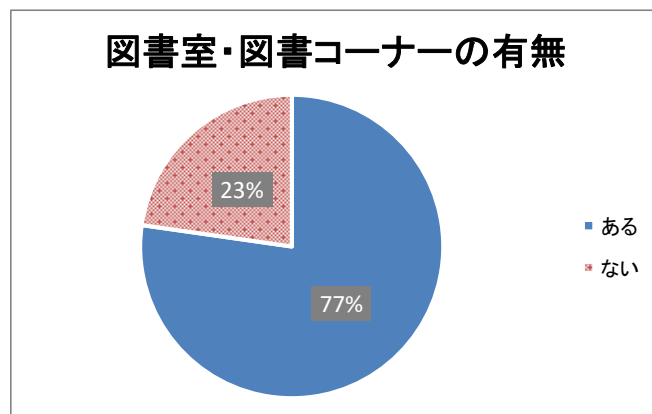
アンケート回答結果のグラフ集計(保育園・幼稚園)

(21施設回答: 保育園17, 幼稚園4)

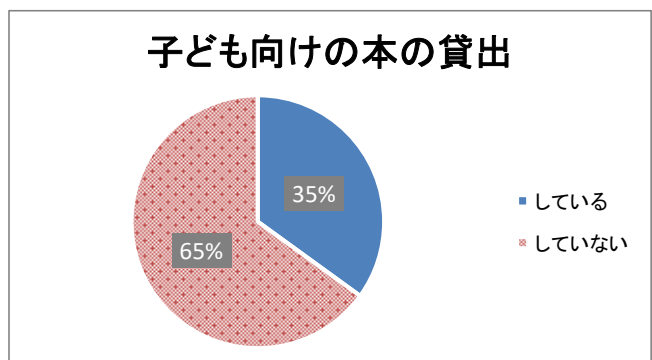
1.読み聞かせを実施していますか	集計
している	16
していない	5



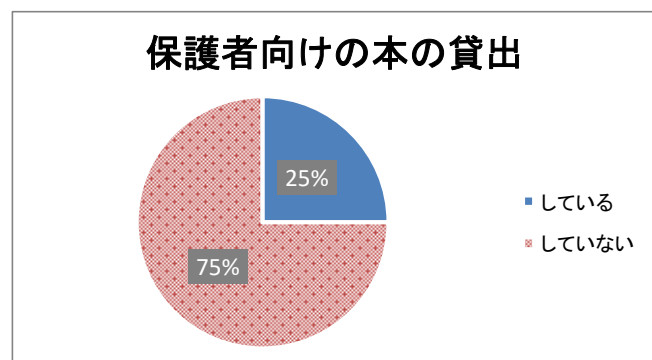
2.図書室・図書コーナーはありますか	集計
ある	17
ない	5



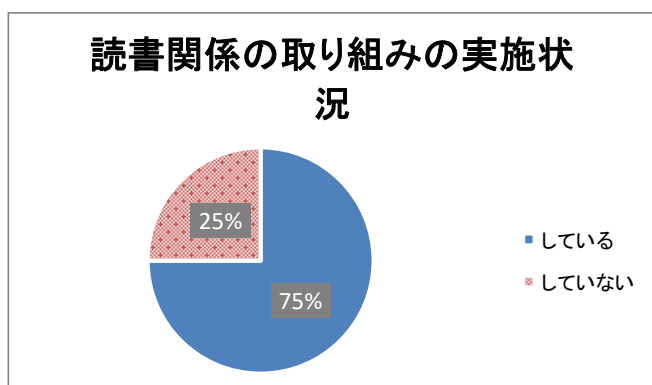
Ⅱ-3.子ども向けの本の貸出実施状況	集計
している	7
していない	13



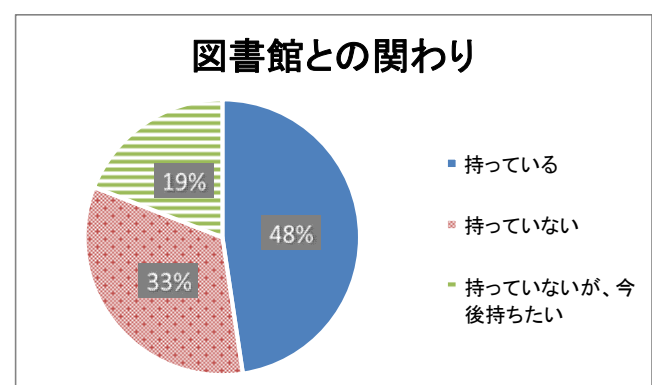
Ⅱ-4.保護者向けの本の貸出実施状況	集計
している	5
していない	15



3.読書関係の取り組みをしていますか	集計
している	18
していない	6



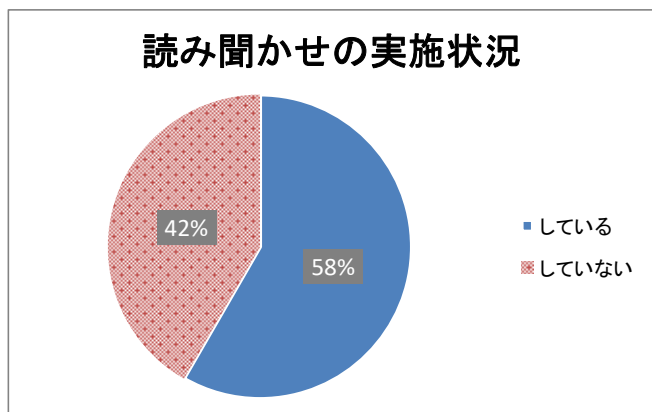
4.図書館との関わりはありますか	集計
持っている	10
持っていない	7
持っていないが、今後持ちたい	4



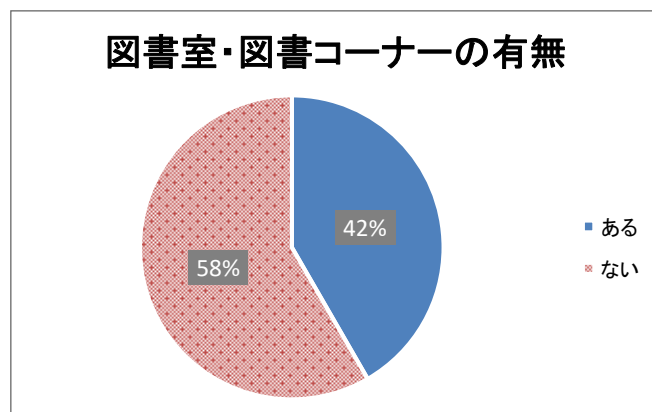
アンケート回答結果のグラフ集計(学童クラブ)

(12施設回答)

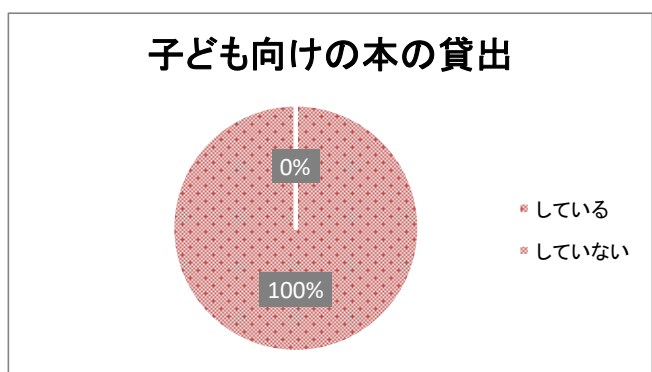
1.読み聞かせを実施していますか	集計
している	7
していない	5



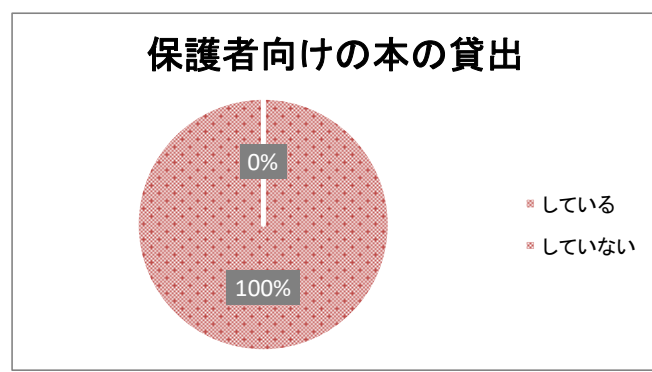
2.図書室・図書コーナーはありますか	集計
ある	5
ない	7



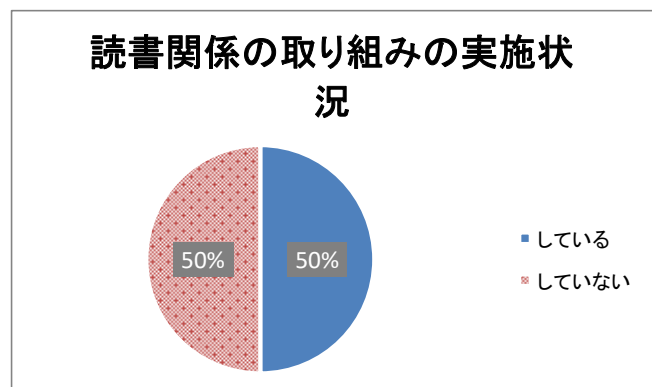
Ⅱ-3.子ども向けの本の貸出実施状況	集計
している	0
していない	12



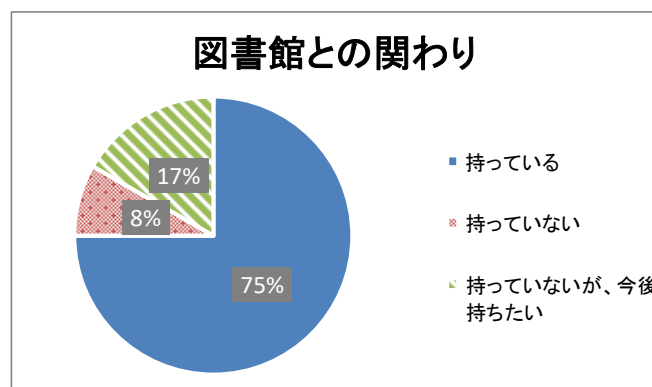
Ⅱ-4.保護者向けの本の貸出実施状況	集計
している	0
していない	12



3.読書関係の取り組みをしていますか	集計
している	6
していない	6



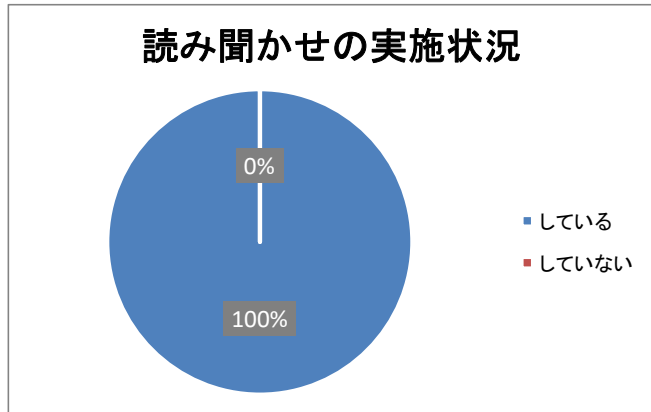
4.図書館との関わりはありますか	集計
持っている	9
持っていない	1
持っていないが、今後持ちたい	2



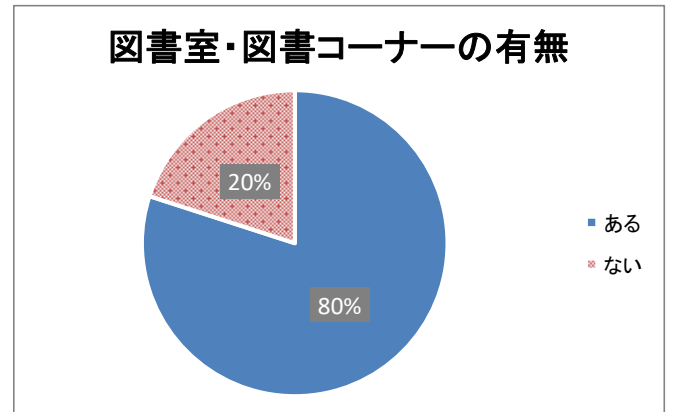
アンケート回答結果のグラフ集計(子育て世代包括支援センター)

(全5施設回答)

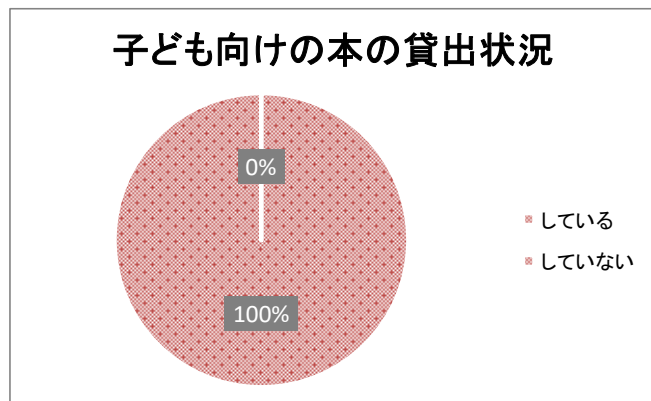
1.読み聞かせを実施していますか	集計
している	5
していない	0



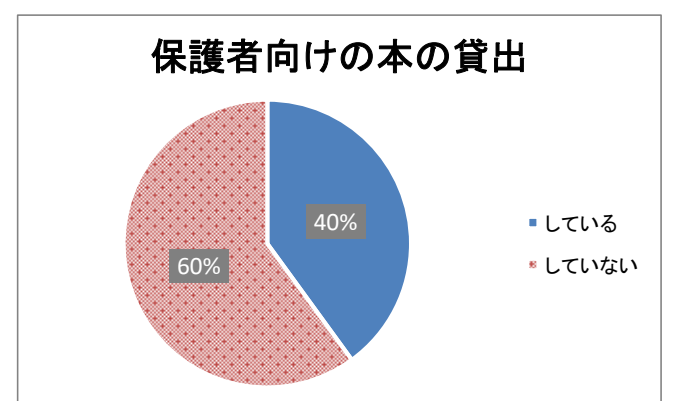
2.図書室・図書コーナーはありますか	集計
ある	4
ない	1



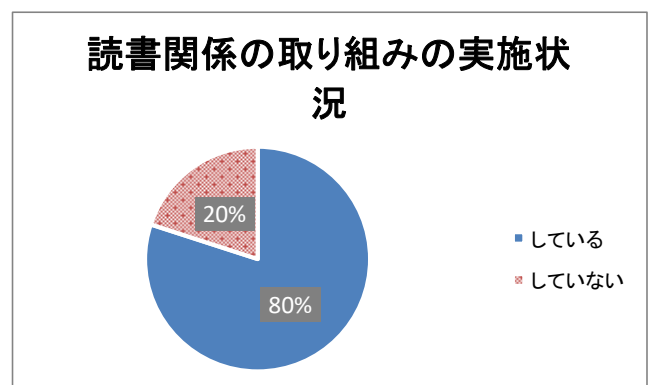
Ⅱ-3.子ども向けの本の貸出実施状況	集計
している	0
していない	5



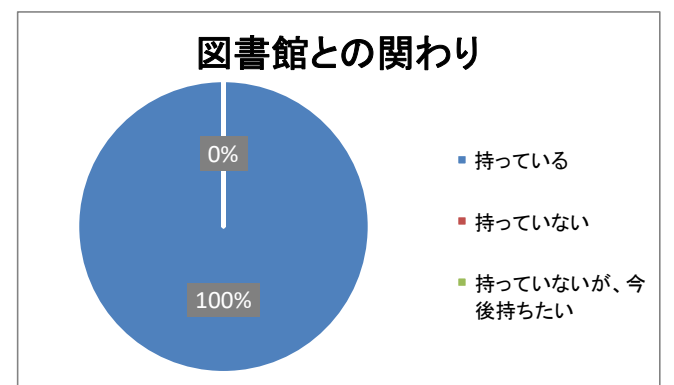
Ⅱ-4.保護者向けの本の貸出実施状況	集計
している	2
していない	3



3.読書関係の取り組みをしていますか	集計
している	4
していない	1



4.図書館との関わりはありますか	集計
持っている	5
持っていない	0
持っていないが、今後持ちたい	0



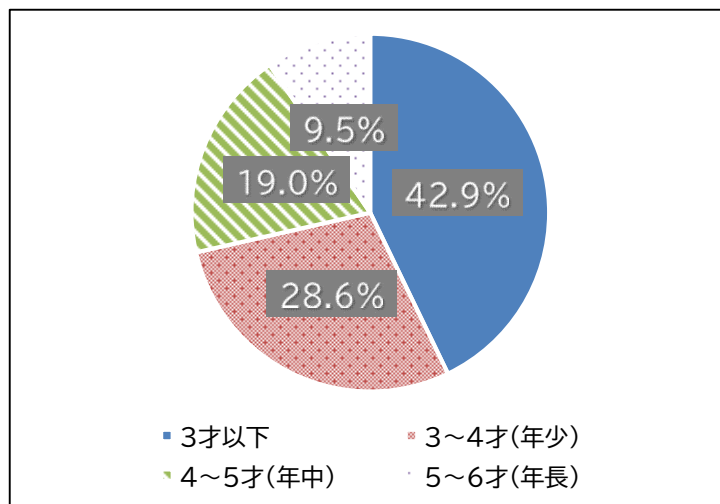
5 「未就学児保護者に対する子ども読書活動に関するアンケート調査」結果概要

「第4次和光市子ども読書推進活動計画」を策定するための基礎資料として、市内の未就学児保護者を対象に「子ども読書活動についてのアンケート」調査を行いました。
調査の概要、各質問及び回答内容は次のとおりです。

- 調査時期 令和4年6月11日～6月30日
- 調査対象 市内在住の未就学児保護者
- 回答数 21件

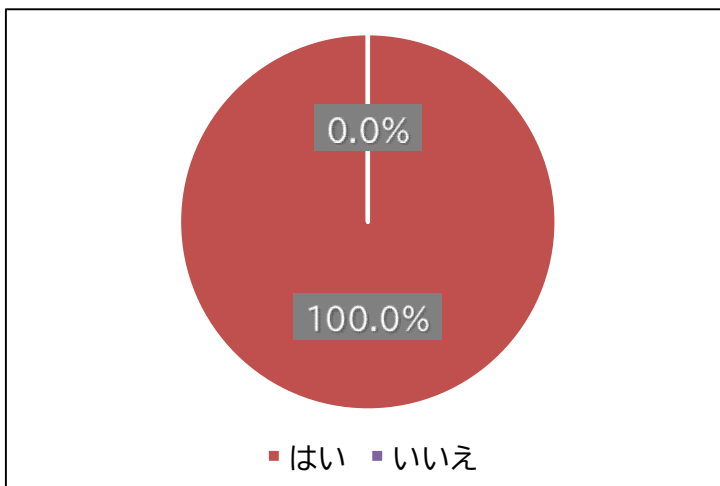
問1.お子さんの年齢を教えてください

回答内容	割合	回答数
3才以下	42.9%	9
3～4才(年少)	28.6%	6
4～5才(年中)	19.0%	4
5～6才(年長)	9.5%	2



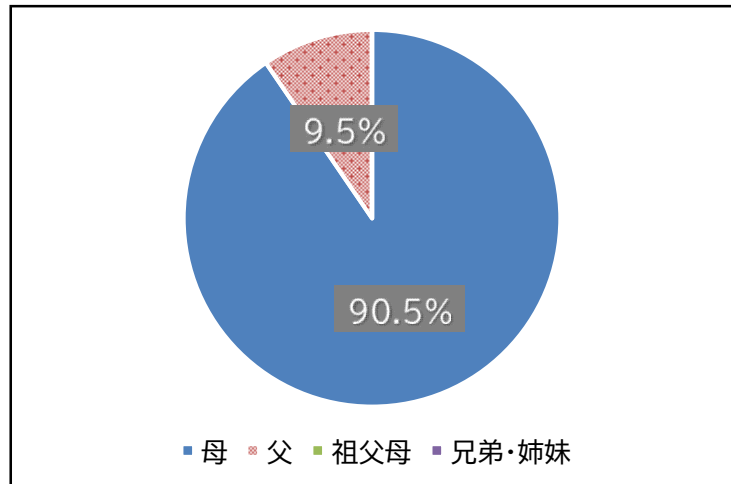
問2.ご家庭で読み聞かせをしていますか

回答内容	割合	回答数
はい	100.0%	21
いいえ	0.0%	0



問2-1.読み聞かせは主にどなたがしていますか

回答内容	割合	回答数
母	90.5%	19
父	9.5%	2
祖父母	0.0%	0
兄弟・姉妹	0.0%	0

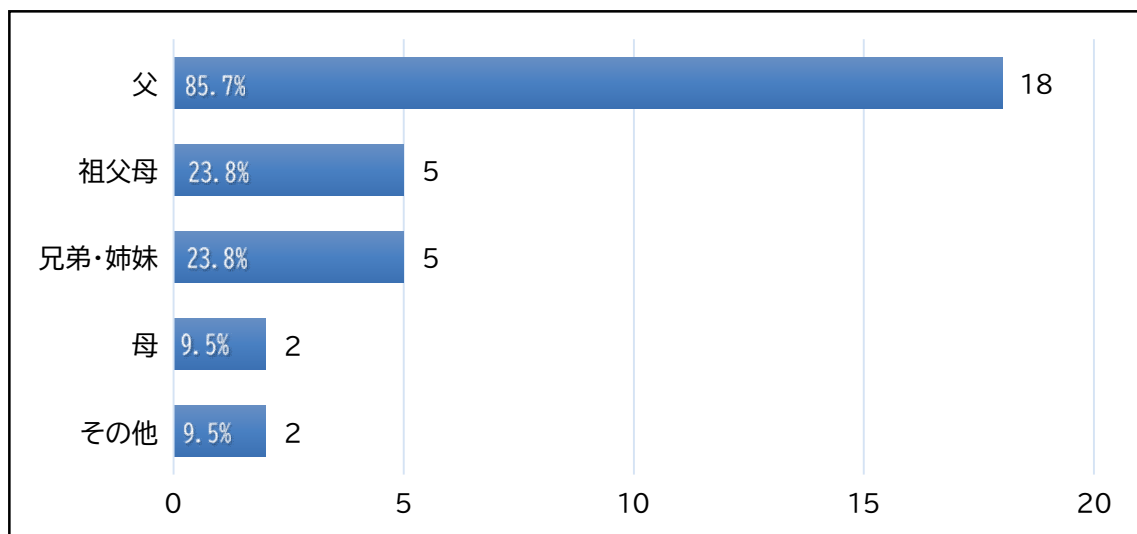


問2-2.ほかに読み聞かせはどなたがしていますか(あてはまるもの全て回答)

回答内容	割合	回答数
父	85.7%	18
祖父母	23.8%	5
兄弟・姉妹	23.8%	5
母	9.5%	2
その他	9.5%	2

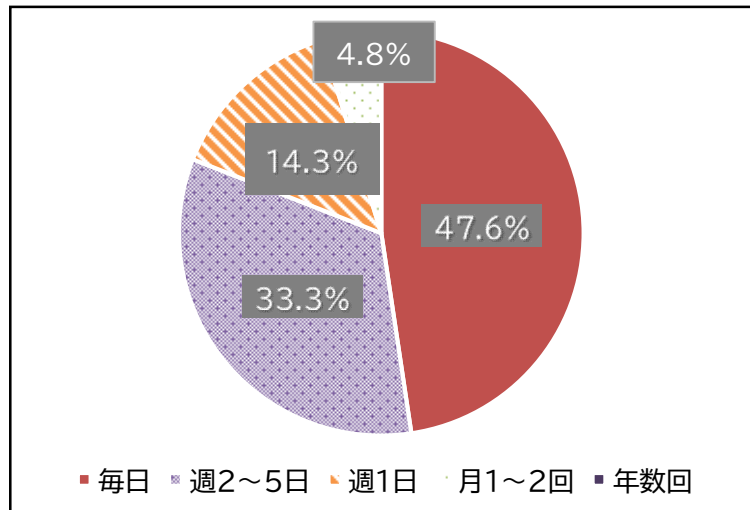
※その他回答内容※

- ・母の友人
- ・動画やCDの音声



問2-3.読み聞かせの頻度はどれくらいですか

回答内容	割合	回答数
毎日	47.6%	10
週2～5日	33.3%	7
週1日	14.3%	3
月1～2回	4.8%	1
年数回	0.0%	0

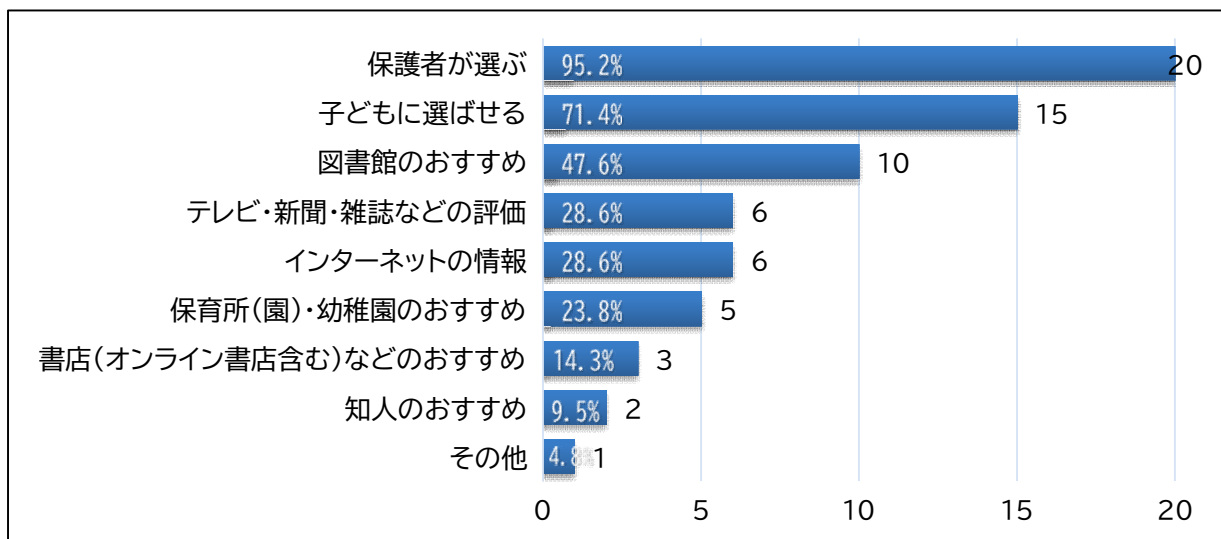


問2-4.読み聞かせをする本はどのように選んでいますか(あてはまるもの全て回答)

回答内容	割合	回答数
保護者が選ぶ	95.2%	20
子どもに選ばせる	71.4%	15
図書館のおすすめ	47.6%	10
テレビ・新聞・雑誌などの評価	28.6%	6
インターネットの情報	28.6%	6
保育所(園)・幼稚園のおすすめ	23.8%	5
書店(オンライン書店含む)などのおすすめ	14.3%	3
知人のおすすめ	9.5%	2
その他	4.8%	1

※その他回答内容※

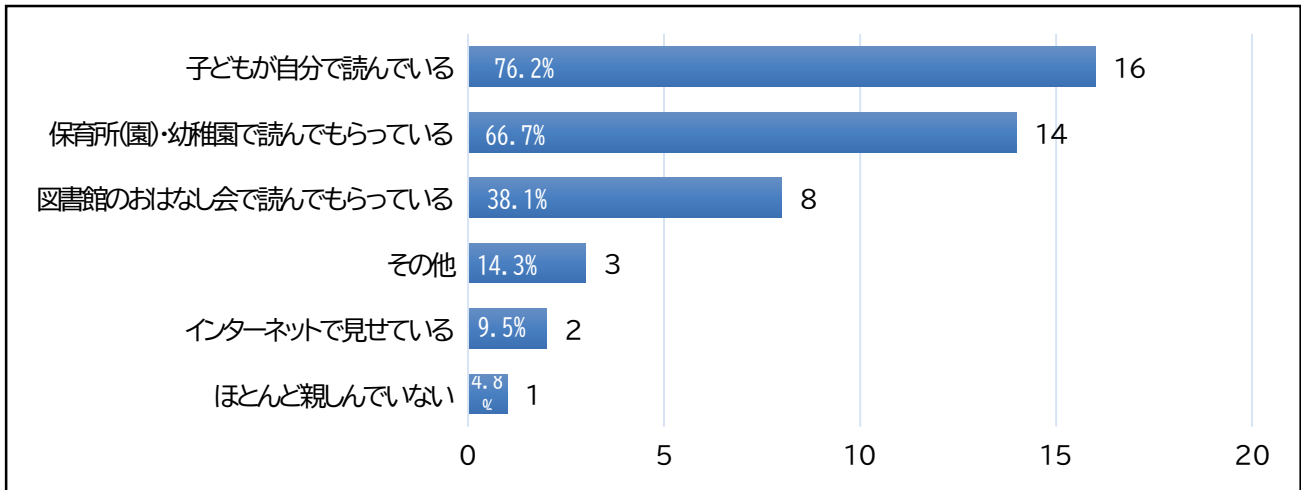
・月刊で絵本を購読しており、そこで購入しないリストから選ぶ



問3.お子さんが絵本に親しむ機会がありますか(あてはまるもの全て回答)

回答内容	割合	回答数
子どもが自分で読んでいる	76.2%	16
保育所(園)・幼稚園で読んでもらっている	66.7%	14
図書館のおはなし会で読んでもらっている	38.1%	8
その他	14.3%	3
インターネットで見せている	9.5%	2
ほとんど親しんでいない	4.8%	1

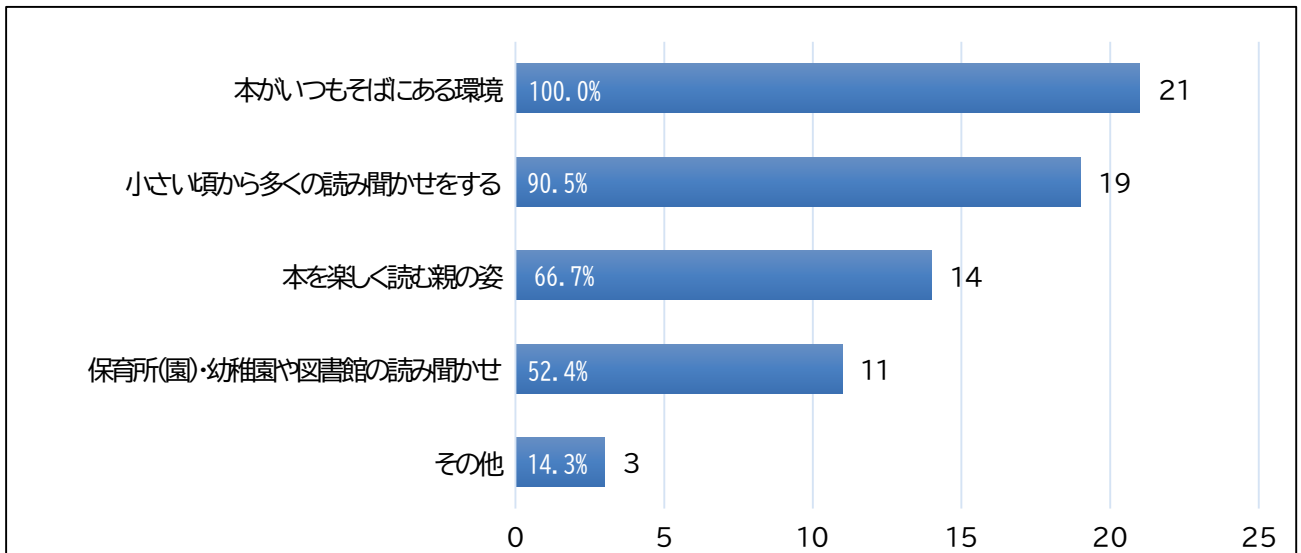
※その他内容※
 ・育児支援センターでの読み聞かせ
 ・月刊絵本
 ・図書館や本屋へ一緒に行く



問4.子ども読書活動を活発にするには、どのようなことが大切だと思いますか(あてはまるもの全て回答)

回答内容	割合	回答数
本がいつもそばにある環境	100.0%	21
小さい頃から多くの読み聞かせをする	90.5%	19
本を楽しく読む親の姿	66.7%	14
保育所(園)・幼稚園や図書館の読み聞かせ	52.4%	11
その他	14.3%	3

※その他回答内容※
 ・ブックスタートのような機会
 ・支援センターや児童館での読み聞かせ
 ・劇など実体験との紐づけ



6 アンケート調査票

アンケート調査票
(小・中学生用)

読書活動についてのアンケート

学校名()学校 学年()年

問1 あなたは、本を読むことが好きですか。(タブレット、スマートフォン、パソコンで読む本もふくむ)

ア 好き イ どちらかといえば好き ウ どちらかといえば嫌い エ 嫌い

問2 あなたは、本をよく読むほうですか。(まんが、雑誌をのぞく)

ア よく読む(週に3回以上) イ たまに読む(週に1回くらい) ウ ほとんど読まない エ 読まない

問2-① 問2の質問で、「ア、イ」を選んだ人だけ答えてください。

本を読むのは、どんな理由からですか。(2つまで選んでください)

ア たのしく、おもしろいから イ 知らないことがわかり、ためになるから ウ 考える力がつくから
エ 好きな作家やシリーズがあるから オ 先生や家の人のおすすめから カ 友達との話題になるから
キ その他()

問2-② 問2の質問で、「ア、イ」を選んだ人だけ答えてください。

どんな本を読んでいますか。(2つまで選んでください)

ア 小説や物語 イ 伝記(社会の役に立った人のお話) ウ 科学読み物 エ 歴史物語
オ 図鑑 カ 趣味やスポーツ キ 絵本 ク その他()

問2-③ 問2の質問で、「ウ、エ」を選んだ人だけ答えてください。

どんな理由からですか。(いくつでも選んでください)

ア 読みたいと思う本がないから イ 習い事や部活など他のことにいそがしく、読む時間がないから
ウ 文章をよむことが苦手だから エ ゲームやテレビ、ユーチューブなど他の遊びのほうが楽しいから
オ 近くに本屋さんや図書館がないから カ 家に本がないから キ その他()

問3 あなたは小さいとき、本を読んでもらったことがありますか。

ア よくあった イ たまにあった ウ あまりなかった エ なかった オ おぼえていない

問3-① 問3の質問で、「ア、イ」を選んだ人だけ答えてください。

おもに誰に読んでもらいましたか。(2つまで選んでください)

ア 父親や母親 イ 家族の人(おじいちゃん・おばあちゃん、兄や姉など) ウ 幼稚園や保育園や学校の先生
エ 図書館の読み聞かせ オ その他()

(裏面に続きます)

問4 あなたは読みたいと思う本はどのようにして手に入れていますか。(2つまで選んでください)

- ア 家にある本を読む イ 本屋さんで買う ウ 学校の図書室から借りる
エ 和光市の図書館から借りる オ 友達から借りる カ その他()

問5 あなたが読む本は、どのようにして選んでいますか。(2つまで選んでください)

- ア 親にすすめられて イ 先生にすすめられて ウ 自分でさがして エ 友だちにすすめられて
オ 図書館のおすすめ カ 学校の図書室のおすすめ キ 流行っている本
ク 課題図書 ケ その他()

問6 今年の5月中に何冊くらいの本を読みましたか。
(読んでいる途中でも1冊と数えてください)

- ア 0冊 イ 1~2冊 ウ 3~6冊 エ 7~10冊 オ 10冊以上

問7 あなたは、5月中に和光市図書館、下新倉分館、南公民館図書室、坂下公民館図書室、中央公民館図書室を何回利用しましたか。

- ア 利用していない イ 1回利用した ウ 2回利用した エ 3回利用した オ 4回以上利用した

問7-① 問7の質問で、「イ、ウ、エ、オ」を選んだ人だけ教えてください。

どんなときに利用しますか。(2つまで選んでください)

- ア 宿題などの調べ物をするため イ 読みたい本を借りるため ウ 図書館の行事に参加するため
エ 落ち着いて本を読みみたいとき オ CDやDVDを借りるため カ その他()

問7-② 問7の質問で、「ア」を選んだ人だけ教えてください。

和光市内の図書館を利用しないのは、どんな理由からですか。(2つまで選んでください)

- ア 遠くに行くことができない イ 場所がわからない ウ 行く時間がない エ 利用の仕方がわからない
オ 読みたい本がない カ 本に興味がない キ その他()

問8 和光市図書館に希望することはなんですか。

- ア おもしろい本をおいてほしい イ 調べ物で役に立つ本をおいてほしい ウ 本のことを教えてほしい
エ いつも開いていてほしい オ 読み聞かせをしてほしい カ その他()



ご協力ありがとうございました。

和光市図書館

読書活動についてのアンケート

学校名()高等学校 学年(2)年

問1 あなたは、本を読むことが好きですか。(タブレット、スマートフォン、パソコンで読む本もふくむ)

ア 好き イ どちらかといえば好き ウ どちらかといえば嫌い エ 嫌い

問2 あなたは、本をよく読むほうですか。(まんが、雑誌をのぞく)

ア よく読む(週に3回以上) イ たまに読む(週に1回くらい) ウ ほとんど読まない エ 読まない



問2-① 問2の質問で、「ア、イ」を選んだ人だけ教えてください。

本を読むのは、どんな理由からですか。(2つまで選んでください)

ア 楽しく、面白いから イ 知らないことがわかり、ためになるから ウ 考える力がつくから
エ 好きな作家やシリーズがあるから オ 先生や家族がすすめるから カ 友達との話題になるから
キ その他()

問2-② 問2の質問で、「ア、イ」を選んだ人だけ教えてください。

どんな本を読んでいますか。(2つまで選んでください)

ア 小説や物語 イ 伝記 ウ 科学読み物 エ 歴史物語
オ 図鑑 カ 趣味やスポーツ キ 絵本 ク その他()

問2-③ 問2の質問で、「ウ、エ」を選んだ人だけ教えてください。

どんな理由からですか。(いくつでも選んでください)

ア 読みたいと思う本がないから イ 習い事や部活など他のことに忙しく、読む時間がないから
ウ 文章をよむことが苦手だから エ ゲームやテレビ、ユーチューブなど他の遊びのほうが楽しいから
オ 近くに本屋や図書館がないから カ 家に本がないから キ その他()

問3 あなたは小さいとき、本を読んでもらったことがありますか。

ア よくあった イ たまにあった ウ あまりなかった エ なかった オ おぼえていない



問3-① 問3の質問で、「ア、イ」を選んだ人だけ教えてください。

おもに誰に読んでもらいましたか。(2つまで選んでください)

ア 父親や母親 イ 家族の人(祖父母、兄や姉など) ウ 幼稚園や保育園や学校の先生
エ 図書館の読み聞かせ オ その他()

(裏面に続きます)

問4 あなたは読みたいと思う本はどのようにして手に入れていますか。(2つまで選んでください)

ア 家にある本を読む イ 本屋で買う ウ 学校の図書室から借りる エ 和光市の図書館から借りる
オ 友達から借りる カ 地元(和光市以外)の図書館から借りる キ その他()

問5 あなたが読む本は、どのようにして選んでいますか。(2つまで選んでください)

ア 親にすすめられて イ 先生にすすめられて ウ 自分でさがして エ 友だちにすすめられて
オ 図書館のおすすめ カ 学校の図書室のおすすめ キ 流行っている本
ク 課題図書 ケ その他()

問6 今年の5月中に何冊くらいの本を読みましたか。

(読んでいる途中でも1冊と数えてください)

ア 0冊 イ 1~2冊 ウ 3~6冊 エ 7~10冊 オ 10冊以上

問7 あなたは、5月中に和光市図書館、下新倉分館、南公民館図書室、坂下公民館図書室、中央公民館図書室を何回利用しましたか。

ア 利用していない イ 1回利用した ウ 2回利用した エ 3回利用した オ 4回以上利用した



問7-① 問7の質問で、「イ、ウ、エ、オ」を選んだ人だけ答えてください。

どんなときに利用しますか。(2つまで選んでください)

ア 宿題などの調べ物をするため イ 読みたい本を借りるため ウ 図書館の行事に参加するため
エ 落ち着いて本を読みたいとき オ CDやDVDを借りるため カ その他()

問7-② 問7の質問で、「ア」を選んだ人だけ答えてください。

和光市内の図書館を利用しないのは、どんな理由からですか。(2つまで選んでください)

ア 遠くに行くことができない イ 場所がわからない ウ 行く時間がない エ 利用の仕方がわからない
オ 読みたい本がない カ 本に興味がない キ 地元(和光市以外)の図書館を利用している
ク その他()

問8 和光市図書館に希望することはなんですか。

ア おもしろい本をおいてほしい イ 調べ物で役に立つ本をおいてほしい ウ 本のことを教えてほしい
エ いつも開いていてほしい オ 読み聞かせ(朗読含む)をしてほしい カ その他()

ご協力ありがとうございました。

和光市図書館

iii. 時間帯を記入してください

時 分 ～ 時 分

iv. 対象をお答えください

年生 ～ 年生

v. 内容についてお答えください

vi. 実施後の成果をお答えください

③保護者向け・子ども向けの読書関係の取り組みを実施していますか
※実施している場合は内容を記入してください（実施していない場合は空欄）

④図書館からの団体貸出の本以外に学級に本がありますか

1.ある 2.ない

「1.ある」と答えた方は種類を記入してください。

II. 学校図書館の活用などについて

①学校図書館をいつ利用していますか ※複数回答可

- 教科の時間（国語・理科など） 総合的な学習の時間
 その他（記入してください）

②学校図書の選書は誰がしていますか ※複数回答可

- 教師 図書館アドバイザー
 その他（記入してください）

③学校図書館の活用や選書などについて、ご意見・ご要望があれば記入してください

④学校図書館の運営上、困っていることなどあれば記入してください

--

Ⅲ. 学校図書館システムについて

①システムは使いやすいですか

1.使いやすい

2.使いにくい

「2.使いにくい」と答えた場合はその理由を記入してください

--

②主に利用している業務は何ですか ※複数回答可

返却・貸出業務

資料管理

帳票印刷

運用設定

蔵書点検

年度処理

その他（理由：

③貸出数・除籍数・所蔵数など、必要とする統計指標があれば記入してください

--

④その他学校図書館システムについて、ご意見・ご要望があれば記入してください

--

Ⅳ. 図書館事業について

①団体貸出の本は利用されていますか

1.利用している

2.利用していない

「2.利用していない」と答えた方は理由を記入してください

--

II. 学校図書館の活用などについて

①学校図書館をいつ利用していますか ※複数回答可

- 教科の時間 放課後
 その他（記入してください）

②学校図書の選書は誰がしていますか ※複数回答可

- 教師 図書館司書
 生徒 その他（記入してください）

③学校図書館の活用や選書などについて、ご意見・ご要望があれば記入してください

④学校図書館の運営上、困っていることなどあれば記入してください

IV. 図書館事業について

①団体貸出の本について

団体貸出には 「 i .図書館が学年ごとに選んだ本50冊か100冊のセット本のクラス貸出」
「 ii .授業などで使用するテーマに沿った本の貸出」の二種類があります。

今後、団体貸出の本の利用を希望されますか。

- 1.希望する 2.希望しない

「2.希望しない」と答えた方は理由を記入してください

「1.希望する」と答えた方は活用方法を選択してください

- 1.朝の読書 2.休み時間 3.放課後
 4.調べ学習 5.その他（ ）

②その他団体貸出について、ご意見・ご要望があれば記入してください

③テーマ別の本の貸出について、ご意見・ご要望があれば記入してください

--

④図書館で主催している事業（読み聞かせ・講座など）について、ご意見・ご要望があれば記入してください

--

その他、和光市図書館と学校との連携について、ご意見・ご要望があればご記入ください

--

今後、今回のようなアンケートのご協力をお願いする際、メールでの返信をご希望される方はこちらにメールアドレスをご記入ください。
次回からはメールで送付させていただきます。

--

ご協力ありがとうございました。
和光市図書館

II. 図書室や図書コーナーについて

図書室や図書コーナーはありますか

- 1.ある 2.ない

※「1.ある」と回答した方にお聞きます。(①～④)

①名称

②蔵書数

③子ども向けの本を貸出していますか

- 1.貸出している 2.貸出していない

④保護者向けの本を貸し出ししていますか

- 1.貸出している 2.貸出していない

III. 保護者向け・子ども向けの読書関係の取り組みについて

読書関係の取り組みを実施していますか

※実施している場合は内容を記入してください（実施していない場合は空欄）

（例：たよりなどで読み聞かせの大切さを伝えている。行事や遊びの中に本を取り入れている。
読み聞かせの技能を高めるための研修会を実施している。など）

IV. 図書館との関わりについて

図書館との関わりを持っていますか

- 1.持っている 2.持っていない
3.現在かかわりを持っていないが、今後持ちたい

「1.持っている」と回答した方にお聞きます。

図書館とどのような関わりを持っているのかご選択ください。

- 1.団体貸出 2.図書館見学
3.読み聞かせ 4.その他（ ）

その他、和光市図書館と貴施設との連携について、ご意見・ご要望があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。
和光市図書館

○子どもの読書活動の推進に関する法律

(平成十三年十二月十二日)

(法律第百五十四号)

第百五十三回臨時国会

第一次小泉内閣

子どもの読書活動の推進に関する法律をここに公布する。

子どもの読書活動の推進に関する法律

(目的)

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第二条 子ども(おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。)の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第三条 国は、前条の基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(以下「子ども読書活動推進基本計画」という。)を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。

- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画(都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画)を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。
- 3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
- 4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

- 2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。
- 3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

「すべての子どもに読書の喜びを」

第4次和光市子ども読書活動推進計画
令和5年度～令和9年度
(2023年度～2027年度)

発行日 令和5年●月●日

編集 和光市図書館

発行 和光市図書館

〒351-0114 和光市本町31-1

電話番号 048-463-8723